

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2015 外国語学部 授業
計画
外国語学科

Ⅲ

外 国 語 学 部

(学部略号：L)

Faculty of Foreign Studies

外国語学科

(学科略号：L)

Department of Foreign Studies

外国語学部 教育目標

外国語学部外国語学科は、外国語と日本語によるコミュニケーション能力および異文化と日本の文化に対する理解を涵養し、人間力・実践力・統合力を身につけた、異文化接触の現場で活躍できる知的専門職業人を養成することを目的とする。

※**外国語学部 外国語学科Ⅲ**に掲載されているのは、目次:P. 1～P. 14、基礎科目:P. 1065～P. 1108、教養科目:P. 1109～P. 1183、キャリア形成:P. 1185～P. 1204、教職科目:P. 1205～P. 1245 になります。
専門科目:P. 15～P. 524 は **I** に、専門科目:P. 525～P. 1064 は **II** に掲載されております。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
ア		
アカデミック スタディーズ	スコット ライリー	17
アジア文化論	森田 良成	18
アドバンスト イングリッシュ a	後藤 一章	19
アドバンスト イングリッシュ a	ジェフリー ベル	21
アドバンスト イングリッシュ a	中島 直嗣	23
アドバンスト イングリッシュ a	皆本 智美	25
アドバンスト イングリッシュ a	サラー マイケル	26
アドバンスト イングリッシュ a	マーティン オイクル	28
アドバンスト イングリッシュ b	後藤 一章	30
アドバンスト イングリッシュ b	ジェフリー ベル	32
アドバンスト イングリッシュ b	中島 直嗣	34
アドバンスト イングリッシュ b	皆本 智美	36
アドバンスト イングリッシュ b	サラー マイケル	37
アドバンスト イングリッシュ b	マーティン オイクル	39
アドバンスト ライティング a	齋藤 安以子	41
アドバンスト ライティング a	西川 眞由美	42
アドバンスト ライティング a	ショーン マクガバン	43
アドバンスト ライティング a	天野 貴史	44
アドバンスト ライティング a	ダニエル マリンズ	45
アドバンスト ライティング b	齋藤 安以子	46
アドバンスト ライティング b	西川 眞由美	47
アドバンスト ライティング b	ショーン マクガバン	48
アドバンスト ライティング b	天野 貴史	49
アドバンスト ライティング b	ダニエル マリンズ	50
アメリカ史学	林田 敏子	51
アメリカ文化論	大原関 一 浩	52

イ		
異文化接触論	篠原 愛人	53
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ブラッドリー パークス	54
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ニール カー	55
イングリッシュ プレゼンテーション I b	マシュー ケーパー	56
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ダニエル マリンズ	57
イングリッシュ プレゼンテーション I b	マーティン オイクル	58
イングリッシュ プレゼンテーション I b	マイケル ハーキー	59
イングリッシュ プレゼンテーション II a	ジョン カール	60
イングリッシュ プレゼンテーション II a	スコット ライリー	61
イングリッシュ プレゼンテーション II a	崎 ミチアン	62
イングリッシュ プレゼンテーション II a	マーティン オイクル	64
イングリッシュ プレゼンテーション II a	家口 美智子	65
イングリッシュ プレゼンテーション II a	サラー マイケル	66
イングリッシュ プレゼンテーション II b	崎 ミチアン	67
イングリッシュ プレゼンテーション II b	ジョン カール	68
イングリッシュ プレゼンテーション II b	スコット ライリー	69
イングリッシュ プレゼンテーション II b	齋藤 安以子	70
イングリッシュ プレゼンテーション II b	ニール カー	71
イングリッシュ プレゼンテーション II b	スミザーズ 理恵	72
English Language Teaching	齋藤 安以子	73
インターンシップ I	西川 眞由美	1111
インターンシップ I	石井 三恵	1112

科目名	担当者	ページ
インターンシップ II	西川 眞由美	1113
インターンシップ II	石井 三恵	1114
インドネシア・マレー語圏概論	森田 良成	74
インドネシア・マレー語圏近現代史	森田 良成	75
インドネシア・マレー語圏の諸言語	山口 眞佐夫	76
インドネシア・マレー社会論	上田 達	77
インドネシア語 I a	山口 眞佐夫	78
インドネシア語 I b	山口 眞佐夫	79
インドネシア語 II a	浦野 崇央	80
インドネシア語 II b	浦野 崇央	81
インドネシア語 III a	大坪 紀子	82
インドネシア語 III b	大坪 紀子	83
インドネシア語 IV a	エニ レスタリ	84
インドネシア語 IV b	エニ レスタリ	85
インドネシア語 コムニカシ I a	エニ レスタリ	86
インドネシア語 コムニカシ I b	エニ レスタリ	87
インドネシア語 コムニカシ II a (1)	大坪 紀子	88
インドネシア語 コムニカシ II a (2)	エニ レスタリ	90
インドネシア語 コムニカシ II b (1)	大坪 紀子	91
インドネシア語 コムニカシ II b (2)	エニ レスタリ	93
インドネシア語 コムニカシ III a	デウィ クスリニ	94
インドネシア語 コムニカシ III b	デウィ クスリニ	96
インドネシア語 コムニカシ IV a	エニ レスタリ	97
インドネシア語 コムニカシ IV b	エニ レスタリ	98
インドネシア語入門 a (1)	山口 眞佐夫	99
インドネシア語入門 a (2)	浦野 崇央	100
インドネシア語入門 a (3)	大坪 紀子	101
インドネシア語入門 b (1)	山口 眞佐夫	102
インドネシア語入門 b (2)	浦野 崇央	103
インドネシア語入門 b (3)	大坪 紀子	104
インドネシア語表現法	山口 玲子	105
インドネシア語表現法 a	山口 玲子	106
インドネシア語ボキャブラリー a	山口 玲子	107
インドネシア語ボキャブラリー b	大坪 紀子	108
インドネシアトピックス	エニ レスタリ	109

エ		
エアラインビジネス論 I	坂下 正憲	110
エアラインビジネス論 II	坂下 正憲	112
映画のスペイン語 I	梶原 三佳	114
映画のスペイン語 I	サトウ せつ子	115
映画のスペイン語 II	梶原 三佳	116
映画のスペイン語 II	サトウ せつ子	117
映画のスペイン語 III	ヒセレ ラサロ	118
映画のスペイン語 IV	ヒセレ ラサロ	119
英語 I	高橋 章夫	1067
英語 I	本多 善	1068
英語 I	田浦 アマンダ	1069
英語 I	ショーン マクガバン	1070
英語 I	國友 万裕	1071
英語 I	東野 厚子	1072
英語 I	マイケル ハーキー	1073

科目名	担当者	ページ
英語Ⅰ	小川 一美	1074
英語Ⅱ	田浦 アマンダ	1075
英語Ⅱ	マイケル ハーキー	1076
英語Ⅱ	ジョン マクガバン	1077
英語Ⅱ	高橋 章夫	1078
英語Ⅱ	小川 一美	1079
英語Ⅱ	高橋 章夫	1080
英語Ⅱ	マイケル ハーキー	1081
英語Ⅱ	國友 万裕	1082
英語科教育法Ⅰ	家口 美智子	1207
英語科教育法Ⅱ	齋藤 安以子	1208
英語科教育法Ⅲ	齋藤 安以子	1210
英語科教育法Ⅳ	家口 美智子	1212
英語学Ⅰ	家口 美智子	120
英語学Ⅱ	後藤 一章	121
英語学Ⅱ	西川 眞由美	122
英語学Ⅲ	田中 秀毅	124
英語学概論	家口 美智子	125
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	吉村 征洋	126
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	マイケル ハーキー	127
英語圏概論	吉村 征洋	128
英語圏概論	マイケル ハーキー	129
英語で学ぶ工学入門（ものづくり編）	森脇 俊道	1116
映像中国語 a	中西 正樹	130
映像中国語 b	中西 正樹	131
英米文学史	天野 貴史	133
英米文学	皆本 智美	134
エリアスタディーズ（アフリカ）	伊東 未来	135
エリアスタディーズ（オセアニア）	木本 浩一	136
エリアスタディーズ（北アメリカ）	大原 一浩	138
エリアスタディーズ（東南アジア）	原 秀禎	139
エリアスタディーズ（日本）	赤澤 春彦	140
エリアスタディーズ（東アジア）	瀬戸 宏 北島 由紀子	141
エリアスタディーズ（ヨーロッパ）	林田 敏子	142
エリアスタディーズ（ラテンアメリカ）	北條 ゆかり	143
エンプロイメントデザインⅠ	石井 三恵	1187

オ

オーラル コミュニケーションⅠ a	スコット ライリー	144
オーラル コミュニケーションⅠ a	ジョセフ シウンシ	146
オーラル コミュニケーションⅠ a	アーサー ロングス	147
オーラル コミュニケーションⅠ a	アイビス ウィリアム	148
オーラル コミュニケーションⅠ a	田浦 アマンダ	149
オーラル コミュニケーションⅠ a	神崎 舞	150
オーラル コミュニケーションⅠ a	小池 正平	151
オーラル コミュニケーションⅠ a	内山 知美	152
オーラル コミュニケーションⅠ a	勿斯特アー ジョストン	153
オーラル コミュニケーションⅠ a	ロナルド メイソン	154
オーラル コミュニケーションⅠ a	松浦 茂寿	155
オーラル コミュニケーションⅠ a	オーエン クロー	156
オーラル コミュニケーションⅠ a	田中 秀毅	157

科目名	担当者	ページ
オーラル コミュニケーションⅠ a	アレン ニール	159
オーラル コミュニケーションⅠ b	スコット ライリー	160
オーラル コミュニケーションⅠ b	ジョセフ シウンシ	162
オーラル コミュニケーションⅠ b	アーサー ロングス	163
オーラル コミュニケーションⅠ b	アイビス ウィリアム	164
オーラル コミュニケーションⅠ b	田浦 アマンダ	165
オーラル コミュニケーションⅠ b	神崎 舞	166
オーラル コミュニケーションⅠ b	小池 正平	167
オーラル コミュニケーションⅠ b	内山 知美	168
オーラル コミュニケーションⅠ b	勿斯特アー ジョストン	169
オーラル コミュニケーションⅠ b	ロナルド メイソン	170
オーラル コミュニケーションⅠ b	松浦 茂寿	171
オーラル コミュニケーションⅠ b	オーエン クロー	172
オーラル コミュニケーションⅠ b	田中 秀毅	173
オーラル コミュニケーションⅠ b	アレン ニール	174
オーラル コミュニケーションⅡ a	ステイブ トムウェアキー	175
オーラル コミュニケーションⅡ b	ステイブ トムウェアキー	177
音声学	中島 直嗣	179

カ

海外インターンシップ	岩間 香	180
海外実習	田中 秀毅	181
海外実習	兪 鳴蒙	182
海外実習	篠原 愛人	183
海外実習	北條 ゆかり	184
海外実習	上田 達	185
海外留学事前演習	田浦 アマンダ	186
海外留学事前演習	兪 鳴蒙	188
海外ワークキャンプ	浅野 英一	189
カレント イングリッシュ a	皆本 智美	190
カレント イングリッシュ a	吉村 征洋	191
カレント イングリッシュ a	松田 早恵	192
カレント イングリッシュ a	大神 雄一郎	193
カレント イングリッシュ a	サトラー マイケル	194
カレント イングリッシュ a	ニール カー	196
カレント イングリッシュ a	ジェフリー ベル	197
カレント イングリッシュ b	皆本 智美	198
カレント イングリッシュ b	吉村 征洋	199
カレント イングリッシュ b	松田 早恵	200
カレント イングリッシュ b	大神 雄一郎	201
カレント イングリッシュ b	サトラー マイケル	202
カレント イングリッシュ b	ニール カー	204
カレント イングリッシュ b	ジェフリー ベル	205
環境学	木本 浩一	1117
韓国語Ⅰ a	沈 明姫	206
韓国語Ⅰ b	周 相勳	207
韓国語Ⅱ a	沈 明姫	208
韓国語Ⅱ b	千 英子	209
韓国語Ⅲ a	北島 由紀子	210
韓国語Ⅲ b	北島 由紀子	211
韓国語Ⅳ a	千 英子	212
韓国語Ⅳ b	千 英子	213

科目名	担当者	ページ
歓待の哲学	森 本 誠 一	214
キ		
基礎演習 I	天 野 貴 史 西 川 眞由美 住 吉 誠	216
基礎演習 I	田 中 健 二 鳥 居 祐 介 家 口 美智子	217
基礎演習 I	住 吉 誠 田 浦 アマンダ 西 川 眞由美	218
基礎演習 I	田 浦 アマンダ 田 中 秀 毅 天 野 貴 史	219
基礎演習 I	ショーン マクガバン 田 中 秀 毅 鳥 居 祐 介	220
基礎演習 I	田 中 健 二 家 口 美智子 ショーン マクガバン	221
基礎演習 I	瀬 戸 宏 兪 鳴 蒙 中 西 正 樹	222
基礎演習 I	篠 原 愛 人	223
基礎演習 I	北 條 ゆかり	224
基礎演習 I	上 田 達 山 口 眞佐夫 浦 野 崇 央	225
基礎演習 I	浅 野 英 一 門 脇 薫	226
基礎演習 I	赤 澤 春 彦 岩 間 香	227
基礎演習 I	大原関 一 浩 マイケル ハーキー 吉 村 征 洋	228
基礎演習 I	神 崎 舞 後 藤 一 章 中 島 直 嗣	229
基礎演習 I	中 島 直 嗣 吉 村 征 洋 神 崎 舞	230
基礎演習 I	松 田 早 恵 皆 本 智 美 大原関 一 浩	231
基礎演習 I	大原関 一 浩 マイケル ハーキー 松 田 早 恵	232
基礎演習 I	神 崎 舞 後 藤 一 章 皆 本 智 美	233
基礎演習 I	小 川 豊 生	234

科目名	担当者	ページ
	木 本 浩 一	
基礎演習 II	住 吉 誠 西 川 眞由美 天 野 貴 史	235
基礎演習 II	鳥 居 祐 介 家 口 美智子 田 中 健 二	236
基礎演習 II	住 吉 誠 西 川 眞由美 田 浦 アマンダ	237
基礎演習 II	天 野 貴 史 田 浦 アマンダ 田 中 秀 毅	238
基礎演習 II	田 中 秀 毅 鳥 居 祐 介 ショーン マクガバン	239
基礎演習 II	ショーン マクガバン 田 中 健 二 家 口 美智子	240
基礎演習 II	瀬 戸 宏 兪 鳴 蒙 中 西 正 樹	241
基礎演習 II	北 條 ゆかり	242
基礎演習 II	篠 原 愛 人	243
基礎演習 II	山 口 眞佐夫	244
基礎演習 II	有 馬 善 一 橋 本 正 俊	245
基礎演習 II	有 馬 善 一 林 田 敏 子	246
基礎演習 II	マイケル ハーキー 吉 村 征 洋 大原関 一 浩	247
基礎演習 II	神 崎 舞 中 島 直 嗣 後 藤 一 章	248
基礎演習 II	神 崎 舞 吉 村 征 洋 中 島 直 嗣	249
基礎演習 II	大原関 一 浩 皆 本 智 美 松 田 早 恵	250
基礎演習 II	大原関 一 浩 松 田 早 恵 マイケル ハーキー	251
基礎演習 II	後 藤 一 章 皆 本 智 美 神 崎 舞	252
基礎演習 II	小 川 豊 生 橋 本 正 俊	253
基礎教養演習 I a	橋 本 正 俊	254
基礎教養演習 I b	門 脇 薫	255
基礎教養演習 II a	澤 野 加 奈	256

科目名	担当者	ページ
基礎教養演習Ⅱ a	山 口 尚	257
基礎教養演習Ⅱ a	木 宮 正 裕	258
基礎教養演習Ⅱ b	丹 下 暖 子	259
基礎教養演習Ⅱ b	澤 野 加 奈	260
基礎教養演習Ⅱ b	山 口 尚	261
基礎ゼミナール	天 野 貴 史	262
基礎ゼミナール	有 馬 善 一	263
基礎ゼミナール	上 田 達	264
基礎ゼミナール	瀬 戸 宏	265
基礎ゼミナール	田 中 健 二	266
基礎ゼミナール	鳥 居 祐 介	267
基礎ゼミナール	西 川 眞由美	268
基礎ゼミナール	家 口 美智子	269
基礎ゼミナール	木 本 浩 一	270
基礎ゼミナール	浅 野 英 一	271
基礎ゼミナール	門 脇 薫	272
基礎ゼミナール	後 藤 一 章	273
基礎ゼミナール	齋 藤 安以子	274
基礎ゼミナール	中 島 直 嗣	275
基礎ゼミナール	原 秀 禎	276
基礎ゼミナール	皆 本 智 美	277
基礎ゼミナール	神 崎 舞	278
基礎ゼミナール	木 本 浩 一	279
基礎マレー語 a	上 田 達	280
基礎マレー語 b	上 田 達	281
北河内学－摂南大学と北河内を知る－	尾 山 廣	1119
キャリアデザイン	石 井 三 恵	1189
キャリアプランニング	中 島 直 嗣 家 口 美智子	1191
キャリアプランニング	浅 野 英 一 鳥 居 祐 介	1192
キャリアプランニング	住 吉 誠 後 藤 一 章	1193
キャリアプランニング	中 西 正 樹	1194
キャリアプランニング	天 野 貴 史 林 田 敏 子	1195
キャリアプランニング	赤 澤 春 彦 松 田 早 恵	1196
キャリアプランニング	田浦 アマンダ	
教育課程論	大 野 順 子	1213
教育経営論	朝 日 素 明	1215
教育原理	小 山 裕 樹	1217
教育原理	小 山 裕 樹	1219
教育実習Ⅰ	大 野 順 子	1221
教育実習Ⅱ	吉 田 佐治子	1223
教育実習Ⅲ	吉 田 佐治子	1224
教職実践演習（中・高）	吉 田 佐治子	1225
教育社会学	大 野 順 子	1227
教育心理学	吉 田 佐治子	1229
教育相談	吉 田 佐治子	1230
教育方法論	林 茂 樹	1231
教師論	朝 日 素 明	1233

科目名	担当者	ページ
ク		
暮らしの中の文化	木 本 浩 一	282
グラマー	西 美都子	284
Global Issues	大原関 一 浩	285
ケ		
経済学入門	後 藤 和 子	1121
芸術論	岩 間 香	1122
芸能と文化	岩 間 香	286
芸能文化論	岩 間 香	287
健康科学	藤 林 真 美	1123
健康論	河 瀬 泰 治	1125
言語学	山 口 真佐夫	288
現代学術論	鳥 田 喜 行	289
現代社会と法	小 野 晃 正	1126
現代社会論	浦 野 崇 央	290
現代中国論	大 西 紀	292
現代東南アジア論	森 田 良 成	293
現代文化論	小 川 豊 生	294
現代ラテンアメリカ論	北 條 ゆかり	295
コ		
国際関係の基礎理解	黒 田 賢 治	296
国際機構論	浅 野 英 一	298
国際協力論	浅 野 英 一	299
国際貢献実習演習	浅 野 英 一	300
国際文化概論（アジア）	中 西 正 樹	301
国際文化概論Ⅰ	有 馬 善 一	302
国際文化概論Ⅱ	赤 澤 春 彦	303
国際平和論	濱 良 祐	304
国際ボランティア論	浅 野 英 一	306
シ		
視覚芸術論	中 川 馨	307
時事インドネシア・マレー語 a	上 田 達	308
時事インドネシア・マレー語 b	浦 野 崇 央	310
思想と文化	小 川 豊 生	312
実践インドネシア・マレー語 a	大 坪 紀 子	313
実践インドネシア・マレー語 b	上 田 達	314
社会と人権	有 馬 善 一 林 田 敏 子 松 島 裕 一	1128
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	1130
就職実践基礎	西 座 由 紀	1131
就職実践基礎	橋 本 朗 子	1132
就職実践基礎	松 田 剛 典	1133
就職実践基礎	西 座 由 紀	1134
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	1135
生涯学習概論	橋 本 孝 成	315
生涯学習論	橋 本 孝 成	316
上級検定インドネシア語	山 口 玲 子	317

科目名	担当者	ページ
情報処理 I	星山幸子	1083
情報処理 I	藤木健史	1084
情報処理 I	星山幸子	1085
情報処理 I	藤木健史	1086
情報処理 II	星山幸子	1087
情報処理 II	藤木健史	1088
情報処理 II	星山幸子	1089
情報処理 II	藤木健史	1090
初級検定インドネシア語	山口玲子	318
食品機能学	青笹治	1136
初年次ゼミナール	赤澤春彦	319
初年次ゼミナール	浅野英一	320
初年次ゼミナール	浦野崇央	321
初年次ゼミナール	門脇薫	322
初年次ゼミナール	住吉誠	323
初年次ゼミナール	田中秀毅	324
初年次ゼミナール	中西正樹	325
初年次ゼミナール	山口真佐夫	326
初年次ゼミナール	神崎舞	327
初年次ゼミナール	有馬善一	328
初年次ゼミナール	小川豊生	329
初年次ゼミナール	橋本正俊	330
初年次ゼミナール	林田敏子	331
初年次ゼミナール	原秀禎	332
初年次ゼミナール	松田早恵	333
初年次ゼミナール	吉村征洋	334
初年次ゼミナール	大原関一浩	335
初年次ゼミナール	木本浩一	336

ス

数学	小林俊公	1138
スキルズ トレーニング I a	スコット ライリー	337
スキルズ トレーニング I b	スコット ライリー	339
スキルズ トレーニング II a	ブルース ライリー	341
スキルズ トレーニング II b	ブルース ライリー	342
スキルズ トレーニング a	鳥居祐介	343
スキルズ トレーニング a	松田早恵	345
スキルズ トレーニング a	田中秀毅	347
スキルズ トレーニング a	神崎舞	349
スキルズ トレーニング a	後藤一章	351
スキルズ トレーニング b	吉村征洋	353
スキルズ トレーニング b	後藤一章	355
スキルズ トレーニング b	鳥居祐介	357
スキルズ トレーニング b	松田早恵	359
スキルズ トレーニング b	神崎舞	361
スキルズ トレーニング b	田中秀毅	363
スピーキング I a	ジェーン パーマンター	365
スピーキング I b	ジェーン パーマンター	367
スピーキング II a	田浦アマンダ	369
スピーキング II a	勿死ファー ジョンソン	371
スピーキング II a	オーエン クロー	372
スピーキング II a	アレン ニール	373

科目名	担当者	ページ
スピーキング II a	アーサー ロングソン	374
スピーキング II a	小池正平	375
スピーキング II a	江戸智美	376
スピーキング II a	ロナルド メインソン	377
スピーキング II a	内山知美	378
スピーキング II a	松浦茂寿	379
スピーキング II a	ジョセフ シウンシ	380
スピーキング II a	神崎舞	381
スピーキング II a	アイビス ウイリアム	382
スピーキング II a	マシュー ケーパー	383
スピーキング II b	田浦アマンダ	384
スピーキング II b	勿死ファー ジョンソン	385
スピーキング II b	オーエン クロー	386
スピーキング II b	アレン ニール	387
スピーキング II b	アーサー ロングソン	388
スピーキング II b	小池正平	389
スピーキング II b	江戸智美	390
スピーキング II b	ロナルド メインソン	391
スピーキング II b	内山知美	392
スピーキング II b	松浦茂寿	393
スピーキング II b	ジョセフ シウンシ	394
スピーキング II b	神崎舞	395
スピーキング II b	アイビス ウイリアム	396
スピーキング II b	マシュー ケーパー	397
スピーキング&ライティング I a	マイケル ハーキー	398
スピーキング&ライティング I a	ダニエル マリンズ	400
スピーキング&ライティング I a	グラント パーミンハム	402
スピーキング&ライティング I a	アレン ニール	404
スピーキング&ライティング I a	ニール カー	406
スピーキング&ライティング I a	ブラッドリー パークス	408
スピーキング&ライティング I a	スコット ライリー	410
スピーキング&ライティング I a	マーティン オイクル	412
スピーキング&ライティング I a	ジェーン パーマンター	414
スピーキング&ライティング I a	ショーン マクガバン	416
スピーキング&ライティング I b	マイケル ハーキー	418
スピーキング&ライティング I b	ブラッドリー パークス	420
スピーキング&ライティング I b	スコット ライリー	422
スピーキング&ライティング I b	マーティン オイクル	424
スピーキング&ライティング I b	ショーン マクガバン	426
スピーキング&ライティング I b	ニール カー	428
スピーキング&ライティング I b	グラント パーミンハム	430
スピーキング&ライティング I b	アレン ニール	432
スピーキング&ライティング I b	ジェーン パーマンター	434
スピーキング&ライティング I b	ジェフリー ベル	436
スピーキング&ライティング I b	ジョセフ シウンシ	438
スピーキング&ライティング I b	ダニエル マリンズ	440
スペイン語 I a	宮多良 デイスネル	442
スペイン語 I b	宮多良 デイスネル	443
スペイン語 II a	マツダイラ キーメル	444
スペイン語 II b	マツダイラ キーメル	445
スペイン語 III a	森川香織	446
スペイン語 III a	ヒセレ ラサロ	447

科目名	担当者	ページ
スペイン語Ⅲb	ヒセレ ラサロ	448
スペイン語Ⅲb	森川 香織	449
スペイン語Ⅳa	マツダイラ キーメル	450
スペイン語Ⅳa	サバセ だる だ	451
スペイン語Ⅳb	マツダイラ キーメル	452
スペイン語Ⅳb	サバセ だる だ	453
スペイン語応用Ⅰ	磯野 吉美	454
スペイン語応用Ⅱ	磯野 吉美	455
スペイン語オラルⅡA	オラシオ ゴメス	456
スペイン語オラルⅡA	ヒセレ ラサロ	457
スペイン語オラルⅡB	宮多良 ディスネル	458
スペイン語オラルⅠ	オラシオ ゴメス	459
スペイン語オラルⅠ	ヒセレ ラサロ	460
スペイン語オラルⅡ	オラシオ ゴメス	461
スペイン語オラルⅡ	ヒセレ ラサロ	462
スペイン語オラルⅠA	オラシオ ゴメス	463
スペイン語オラルⅠA	ヒセレ ラサロ	464
スペイン語オラルⅠB	宮多良 ディスネル	465
スペイン語オラルⅢA	オラシオ ゴメス	466
スペイン語オラルⅢA	宮多良 ディスネル	467
スペイン語オラルⅢA	岡 あゆみ	468
スペイン語オラルⅢB	穂原 三佳	469
スペイン語オラルⅢB	マツダイラ キーメル	470
スペイン語オラルⅢB	サバセ だる だ	471
スペイン語オラルⅣA	オラシオ ゴメス	472
スペイン語オラルⅣA	宮多良 ディスネル	473
スペイン語オラルⅣA	岡 あゆみ	474
スペイン語オラルⅣB	穂原 三佳	475
スペイン語オラルⅣB	マツダイラ キーメル	476
スペイン語オラルⅣB	サバセ だる だ	477
スペイン語オラルⅤ	宮多良 ディスネル	478
スペイン語オラルⅥ	宮多良 ディスネル	479
スペイン語オラルⅦ	オラシオ ゴメス	480
スペイン語オラルⅧ	オラシオ ゴメス	481
スペイン語学	三浦 知佐子	482
スペイン語基礎A	北條 ゆかり	483
スペイン語基礎A	森川 香織	484
スペイン語基礎B	篠原 愛人	485
スペイン語基礎B	岡 あゆみ	486
スペイン語基礎C	穂原 三佳	487
スペイン語基礎C	酒井 真梨奈	488
スペイン語圏概論	篠原 愛人	489
スペイン語圏トピックスⅠ	宮多良 ディスネル	490
スペイン語圏トピックスⅡ	三浦 知佐子	491
スペイン語圏トピックスⅢ	林 安紀子	492
スペイン語圏トピックスⅣ	林 安紀子	493
スペイン語圏の芸術	オラシオ ゴメス	494
スペイン語講読Ⅰ	三浦 知佐子	495
スペイン語講読Ⅰ	宮多良 ディスネル	496
スペイン語講読Ⅱ	宮多良 ディスネル	497
スペイン語講読Ⅱ	三浦 知佐子	498
スペイン語通訳ガイドⅠ	篠原 愛人	499

科目名	担当者	ページ
スペイン語通訳ガイドⅡ	篠原 愛人	500
スペイン語入門A	北條 ゆかり	501
スペイン語入門A	森川 香織	502
スペイン語入門B	篠原 愛人	503
スペイン語入門B	岡 あゆみ	504
スペイン語入門C	穂原 三佳	505
スペイン語入門C	酒井 真梨奈	506
スペイン語文章構成Ⅰ	北條 ゆかり	507
スペイン語文章構成Ⅰ	林 安紀子	508
スペイン語文章構成Ⅱ	北條 ゆかり	509
スペイン語文章構成Ⅱ	林 安紀子	510
スペイン語文章構成Ⅲ	磯野 吉美	511
スペイン語文章構成Ⅳ	磯野 吉美	512
スペイン語翻訳	森川 香織	513
スペインの社会と文化	磯野 吉美	515
スペインの文化	磯野 吉美	516
スペシャリストインドネシア・マレー語	上田 達	517
	山口 真佐夫	
スポーツ科学実習Ⅰ	横山 喬之	1091
	川野 裕姫子	
スポーツ科学実習Ⅰ	横山 喬之	1092
	川野 裕姫子	
スポーツ科学実習Ⅱ	横山 喬之	1093
	川野 裕姫子	
スポーツ科学実習Ⅱ	横山 喬之	1094
	川野 裕姫子	
住まいとデザイン	平田 陽子	1139

セ

生活思想論	木本 浩一	518
生活のなかの数学	小林 俊公	1141
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野 英一	1142
生徒指導論	朝日 素明	1235
生命と物質	松浦 哲郎	1143
世界の宗教	村上 司樹	520
世界の政治	椿原 敦子	1145
世界の地理	高崎 章裕	521
世界の文化の比較	村上 司樹	523
世界の歴史	林田 敏子	524
専門日本語FⅠ	中岡 樹里	1095
専門日本語FⅡ	中岡 樹里	1096

ソ

総合インドネシア語a(Ⅰ)	浦野 崇央	525
総合インドネシア語a(Ⅱ)	山口 玲子	526
総合インドネシア語b(Ⅰ)	浦野 崇央	527
総合インドネシア語b(Ⅱ)	山口 玲子	528
総合スペイン語Ⅰ	磯野 吉美	529
総合スペイン語Ⅱ	磯野 吉美	530
総合スペイン語ⅢA	北條 ゆかり	531
総合スペイン語ⅢA	森川 香織	532
総合スペイン語ⅢB	岡 あゆみ	533

科目名	担当者	ページ
総合スペイン語ⅢB	篠原 愛人	534
総合中国語 a	段 飛虹	535
総合中国語 a	瀬戸 宏	536
総合中国語 b	段 飛虹	537
総合中国語 b	瀬戸 宏	538
総合マレー語 a	上田 達	539
総合マレー語 b	上田 達	540
卒業研究	小川 豊生	541
卒業研究 I	赤澤 春彦	542
卒業研究 I	浅野 英一	543
卒業研究 I	天野 貴史	544
卒業研究 I	岩間 香	545
卒業研究 I	上田 達	546
卒業研究 I	浦野 崇央	547
卒業研究 I	小川 豊生	548
卒業研究 I	門脇 薫	549
卒業研究 I	後藤 一章	550
卒業研究 I	齋藤 安以子	551
卒業研究 I	篠原 愛人	552
卒業研究 I	ジョン マクガバン	553
卒業研究 I	住吉 誠	554
卒業研究 I	瀬戸 宏	555
卒業研究 I	田浦 アマンダ	556
卒業研究 I	田中 健二	557
卒業研究 I	田中 秀毅	558
卒業研究 I	鳥居 祐介	559
卒業研究 I	中島 直嗣	560
卒業研究 I	中西 正樹	561
卒業研究 I	西川 眞由美	562
卒業研究 I	橋本 正俊	563
卒業研究 I	林田 敏子	564
卒業研究 I	原 秀禎	565
卒業研究 I	北條 ゆかり	566
卒業研究 I	マイケル ハーキー	567
卒業研究 I	松田 早恵	568
卒業研究 I	皆本 智美	569
卒業研究 I	家口 美智子	570
卒業研究 I	兪 鳴蒙	571
卒業研究 I	吉村 征洋	572
卒業研究 II	赤澤 春彦	573
卒業研究 II	浅野 英一	574
卒業研究 II	天野 貴史	575
卒業研究 II	岩間 香	576
卒業研究 II	上田 達	577
卒業研究 II	浦野 崇央	578
卒業研究 II	小川 豊生	579
卒業研究 II	門脇 薫	580
卒業研究 II	後藤 一章	581
卒業研究 II	齋藤 安以子	582
卒業研究 II	篠原 愛人	583
卒業研究 II	ジョン マクガバン	584
卒業研究 II	住吉 誠	585

科目名	担当者	ページ
卒業研究 II	瀬戸 宏	586
卒業研究 II	田浦 アマンダ	587
卒業研究 II	田中 健二	588
卒業研究 II	田中 秀毅	589
卒業研究 II	鳥居 祐介	590
卒業研究 II	中島 直嗣	591
卒業研究 II	中西 正樹	592
卒業研究 II	西川 眞由美	593
卒業研究 II	橋本 正俊	594
卒業研究 II	林田 敏子	595
卒業研究 II	原 秀禎	596
卒業研究 II	北條 ゆかり	597
卒業研究 II	マイケル ハーキー	598
卒業研究 II	松田 早恵	599
卒業研究 II	皆本 智美	600
卒業研究 II	家口 美智子	601
卒業研究 II	兪 鳴蒙	602
卒業研究 II	吉村 征洋	603

夕

体験型特別実習 B	中西 正樹	604
大衆文化論	森本 誠一	605
ダイバーシティとコミュニケーション	石井 三恵	1146
旅と観光の地理	原 秀禎	607
旅の文学	小川 豊生	608
多文化の共生	木本 浩一	610

チ

地域研究論	森田 良成	612
地域連携教育活動 I	浅野 英一	1147
地域連携教育活動 II	浅野 英一	1148
チームビルディング	水野 武	1149
中級検定インドネシア語	山口 玲子	613
中国経済論	郭 進	614
中国語 I a	今中 崇文	615
中国語 I b	今中 崇文	616
中国語 II a	兪 鳴蒙	617
中国語 II b	欒 玉璽	618
中国語 III a	欒 玉璽	619
中国語 III a	曹 櫻	620
中国語 III b	欒 玉璽	621
中国語 III b	曹 櫻	622
中国語 IV a	孫 輝	623
中国語 IV b	孫 輝	624
中国語 L L I a	兪 鳴蒙	625
中国語 L L I b	兪 鳴蒙	626
中国語 L L II a	中西 正樹	627
中国語 L L II b	瀬戸 宏	628
中国語科教育法 I	瀬戸 宏	1236
中国語科教育法 II	中西 正樹	1237
中国語科教育法 III	瀬戸 宏	1239
中国語科教育法 IV	中西 正樹	1241

科目名	担当者	ページ
中国語圏概論	中西正樹	629
中国語会話Ⅰ a	曹 櫻	630
中国語会話Ⅰ b	曹 櫻	631
中国語会話Ⅱ a	李 英杰	632
中国語会話Ⅱ b	李 英杰	633
中国語会話表現法Ⅰ a	曹 櫻	634
中国語会話表現法Ⅰ b	曹 櫻	635
中国語会話表現法Ⅱ a	李 英杰	636
中国語会話表現法Ⅱ b	李 英杰	638
中国語学Ⅰ	中西正樹	640
中国語学Ⅱ	俞 鳴蒙	641
中国語研究	俞 鳴蒙	642
中国語原書講読Ⅰ a	曹 櫻	643
中国語原書講読Ⅰ a	大西紀	644
中国語原書講読Ⅰ b	曹 櫻	645
中国語原書講読Ⅰ b	大西紀	646
中国語原書講読Ⅱ a	俞 鳴蒙	647
中国語原書講読Ⅱ b	俞 鳴蒙	648
中国語講読Ⅰ a	瀬戸宏	649
中国語講読Ⅰ b	瀬戸宏	650
中国語講読Ⅱ a	孫 輝	651
中国語講読Ⅱ b	孫 輝	652
中国語コミュニケーション a	李 英杰	653
中国語コミュニケーション a	欒 玉璽	655
中国語コミュニケーション b	李 英杰	657
中国語コミュニケーション b	欒 玉璽	658
中国語作文Ⅰ a	今中崇文	660
中国語作文Ⅰ b	今中崇文	661
中国語作文Ⅱ a	大西紀	662
中国語作文Ⅱ b	大西紀	663
中国語視聴専科 a	中西正樹	664
中国語視聴専科 b	中西正樹	665
中国語トピックス a	馮 艶	667
中国語トピックス b	馮 艶	668
中国語を書くⅠ a	今中崇文	669
中国語を書くⅠ b	今中崇文	670
中国語を聞くⅠ a	俞 鳴蒙	671
中国語を聞くⅠ b	俞 鳴蒙	672
中国語を話すⅠ a	曹 櫻	673
中国語を話すⅠ b	曹 櫻	674
中国語を読むⅠ a	瀬戸宏	675
中国語を読むⅠ b	瀬戸宏	676
中国史学	森川裕貫	677
中国地誌学	原 秀禎	678
中国文学	瀬戸宏	679

ツ

通訳・翻訳インドネシア・マレー語	山口真佐夫	680
ツーリズム論Ⅰ	坂下正憲	681
ツーリズム論Ⅱ	坂下正憲	683

科目名	担当者	ページ
テ		
ディスプレイ論	毛呂祐子	685
ディベート	ブライアン スレーター	686
ディベート	ニール カー	687
ディベート	マーティン オイクル	688
哲学から学ぶ	有馬善一	1150
ト		
統計学	星山幸子	1152
道德教育の研究	小山裕樹	1243
東南アジア史学	森田良成	689
東南アジア人類学	上田達	690
東南アジア地誌学	原 秀禎	692
東南アジア文化論	大坪紀子	693
特別活動の理論と方法	林 茂樹	1245
トピック スタディーズⅠ	西川真由美	695
トピック スタディーズⅠ	村上幸太郎	696
トピック スタディーズⅠ	サトラー マイケル	697
トピック スタディーズⅠ	マーティン オイクル	699
トピック スタディーズⅠ a	ブライアン スレーター	700
トピック スタディーズⅠ a	ジェフリー ベル	701
トピック スタディーズⅠ a	マイケル ハーキー	703
トピック スタディーズⅠ a	大原関一浩	704
トピック スタディーズⅠ b	西川真由美	705
トピック スタディーズⅠ b	村上幸太郎	706
トピック スタディーズⅠ b	サトラー マイケル	707
トピック スタディーズⅠ b	マーティン オイクル	709
トピック スタディーズⅡ	ブラッドリー パークス	710
トピック スタディーズⅡ	ショーン マクガバン	711
トピック スタディーズⅡ	マーティン オイクル	713
トピック スタディーズⅡ	ダニエル マリンズ	714
トピック スタディーズⅢ	村木美紀子	716
トピック スタディーズⅢ	松下乃垂	717
トピック スタディーズⅢ	松田早恵	719
トピック スタディーズⅢ	本多善	720
ドラマ	マーティン オイクル	721
ドラマ	ブラッドリー パークス	722
ドラマ	ダニエル マリンズ	724
ドラマ	マシュー クーパー	726
ドラマ	ニール カー	728
ドラマⅠ	マーティン オイクル	729
ドラマⅠ	ブラッドリー パークス	730
ドラマⅠ	ダニエル マリンズ	732
ドラマⅠ	マシュー クーパー	734
ドラマⅠ	ニール カー	736
ドラマⅡ	田浦アマンダ	737
ドラマⅡ	ブライアン スレーター	738
ドラマⅡ	ジョセフ シウンシ	740
ドラマⅡ	齋藤安以子	741
ドラマⅡ	吉村征洋	742
ドラマⅡ	ニール カー	743

科目名	担当者	ページ
トランスレーション トレーニング a	田 中 秀 毅	744
トランスレーション トレーニング a	瀧 川 宏 樹	746
トランスレーション トレーニング a	湊 由 妃 子	747
トランスレーション トレーニング a	田 中 健 二	749
トランスレーション トレーニング a	鈴 木 三 千 代	750
トランスレーション トレーニング b	田 中 秀 毅	751
トランスレーション トレーニング b	瀧 川 宏 樹	753
トランスレーション トレーニング b	湊 由 妃 子	754
トランスレーション トレーニング b	田 中 健 二	756
トランスレーション トレーニング b	鈴 木 三 千 代	757

二

日米関係論	有 馬 善 一	758
日米比較文化	鳥 居 祐 介	759
日米文化交流史	田 中 健 二	761
日中関係論	大 西 紀	762
日中観光文化と通訳法	中 西 正 樹	763
日中翻訳法 I a	李 英 杰	765
日中翻訳法 I b	李 英 杰	767
日中翻訳法 II a	李 英 杰	769
日中翻訳法 II a	馮 艶	771
日中翻訳法 II b	李 英 杰	773
日中翻訳法 II b	馮 艶	775
日本語会話 F I	高 井 美 穂	1097
日本語会話 F II	高 井 美 穂	1098
日本語学 I	橋 本 正 俊	777
日本語学 II	橋 本 正 俊	778
日本語学 IV	小 川 豊 生	779
日本語教育実習演習	門 脇 薫	780
日本語教育実習	門 脇 薫	781
日本語教授法 I	門 脇 薫	782
日本語教授法 II	藤 原 京 佳	783
日本語教授法 III	宮 崎 玲 子	784
日本国憲法	小 野 晃 正	1153
日本語史概説	橋 本 正 俊	785
日本語上級会話 F I	高 井 美 穂	1155
日本語上級会話 F II	高 井 美 穂	1156
日本語上級会話 I	高 井 美 穂	786
日本語上級会話 II	高 井 美 穂	787
日本語上級作文 F I	中 岡 樹 里	1157
日本語上級作文 F II	中 岡 樹 里	1158
日本語上級作文 I	中 岡 樹 里	788
日本語上級作文 II	中 岡 樹 里	789
日本語上級読解 F I	古 川 由 理 子	1159
日本語上級読解 F II	古 川 由 理 子	1160
日本語上級読解 I	古 川 由 理 子	790
日本語上級読解 II	古 川 由 理 子	791
日本語総合 F I	古 川 由 理 子	1099
日本語総合 F II	古 川 由 理 子	1100
日本語読解 F I	中 岡 樹 里	1101
日本語読解 F II	中 岡 樹 里	1102
日本語読解 I	中 岡 樹 里	792

科目名	担当者	ページ
日本語読解 II	中 岡 樹 里	793
日本語能力開発 I	澤 野 加 奈	1197
日本語能力開発 I	高 嶋 藍	1198
日本語能力開発 I	田 中 教 子	1199
日本語能力開発 I	人形寺 英利子	1200
日本語能力開発 II	澤 野 加 奈	1201
日本語能力開発 II	高 嶋 藍	1202
日本語能力開発 II	田 中 教 子	1203
日本語能力開発 II	人形寺 英利子	1204
日本語表現作文 F I	中 岡 樹 里	1103
日本語表現作文 F II	中 岡 樹 里	1104
日本語表現作文 I	中 岡 樹 里	794
日本語表現作文 II	中 岡 樹 里	795
日本語文法 F I	中 岡 樹 里	1105
日本語文法 F II	中 岡 樹 里	1106
日本語文法 I	中 岡 樹 里	796
日本語文法 II	中 岡 樹 里	797
日本史学	赤 澤 春 彦	798
日本事情 F I	門 脇 薫	1107
日本事情 F II	門 脇 薫	1108
日本事情 I	門 脇 薫	799
日本事情 II	門 脇 薫	800
日本と世界の出会い	村 上 司 樹	801
日本の思想	中 村 翼	802
日本の歴史	赤 澤 春 彦	804
日本美術史	岩 間 香	805
日本文学	小 川 豊 生	806
日本文学	小 川 豊 生	808
人間の探求	池 田 清	1161

ハ

博物館概論	谷 直 樹	809
博物館学 I	谷 直 樹	811
博物館学 II	岩 間 香	813
博物館教育論	毛 呂 祐 子	814
博物館実習	岩 間 香	816
	赤 澤 春 彦	
	谷 直 樹	
博物館情報・メディア論	中 川 馨	817
博物館資料保存論	赤 澤 春 彦	818
博物館資料論	岩 間 香	819
パブリックスピーキング a	スティーブ トマエフスキー	820
パブリックスピーキング b	スティーブ トマエフスキー	822
犯罪被害者と法的救済	小 野 晃 正	1162

ヒ

ビジネス イングリッシュ a	ブラッドリー パークス	824
ビジネス イングリッシュ a	ダニエル マリンズ	825
ビジネス イングリッシュ a	マーティン オイクル	826
ビジネス イングリッシュ a	藤 岡 真 樹	827
ビジネス イングリッシュ a	梅 田 尋 道	829
ビジネス イングリッシュ b	ブラッドリー パークス	830

科目名	担当者	ページ
ビジネス イングリッシュ b	ダニエル マリズ	831
ビジネス イングリッシュ b	マーティン オイクル	832
ビジネス イングリッシュ b	藤岡 真樹	833
ビジネス イングリッシュ b	梅田 尋道	835
ビジネスインドネシア・マレー語	エニ レスタリ	836
ビジネス中国語Ⅱ a	馮 艶	837
ビジネス中国語Ⅱ b	馮 艶	838
ビジネス中国語Ⅲ a	今中 崇文	839
ビジネス中国語Ⅲ b	今中 崇文	840
ビジネス中国語 a	大西 紀	841
ビジネス中国語 b	大西 紀	842
ビジネスマナー	富岡 直美	1164
美術の歩み	岩間 香	843

フ

風土と地理	木本 浩一	844
武道論	横山 喬之	1166
フランス語Ⅰ a	藤本 武司	846
フランス語Ⅰ b	藤本 武司	847
フランス語Ⅱ a	中井 裕之	848
フランス語Ⅱ b	中井 裕之	850
フランス語Ⅲ a	藤本 武司	852
フランス語Ⅲ b	藤本 武司	853
フランス語Ⅳ a	中井 裕之	854
フランス語Ⅳ b	中井 裕之	856
プレゼンテーション	ブラッドリー パークス	858
プレゼンテーション	ニール カー	859
プレゼンテーション	マシュー ケーパー	860
プレゼンテーション	ダニエル マリズ	861
プレゼンテーション	マーティン オイクル	862
プレゼンテーション	マイケル ハーキー	863
プレゼンテーションインドネシア・マレー語	エニ レスタリ	864
フレッシュマン イングリッシュ	西 美都子	865
文化演習Ⅰ	天野 貴史	866
文化演習Ⅰ	齋藤 安以子	867
文化演習Ⅰ	住吉 誠	868
文化演習Ⅰ	田浦 アマンダ	869
文化演習Ⅰ	田中 秀毅	870
文化演習Ⅰ	鳥居 祐介	871
文化演習Ⅰ	西川 眞由美	872
文化演習Ⅰ	ショーン マクガバン	873
文化演習Ⅰ	家口 美智子	874
文化演習Ⅰ	篠原 愛人	875
文化演習Ⅰ	北條 ゆかり	876
文化演習Ⅰ	上田 達	877
文化演習Ⅰ	浦野 崇央	878
文化演習Ⅰ	山口 真佐夫	879
文化演習Ⅰ	赤澤 春彦	880
文化演習Ⅰ	浅野 英一	881
文化演習Ⅰ	有馬 善一	882
文化演習Ⅰ	岩間 香	883
文化演習Ⅰ	門脇 薫	884

科目名	担当者	ページ
文化演習Ⅰ	橋本 正俊	885
文化演習Ⅰ	林田 敏子	886
文化演習Ⅰ	後藤 一章	887
文化演習Ⅰ	中島 直嗣	888
文化演習Ⅰ	マイケル ハーキー	889
文化演習Ⅰ	松田 早恵	890
文化演習Ⅰ	皆本 智美	891
文化演習Ⅰ	吉村 征洋	892
文化演習Ⅰ	兪 鳴蒙	893
文化演習Ⅰ	中西 正樹	894
文化演習Ⅰ	瀬戸 宏	895
文化演習Ⅰ	小川 豊生	896
文化演習Ⅰ	原 秀禎	897
文化演習Ⅱ	天野 貴史	898
文化演習Ⅱ	齋藤 安以子	899
文化演習Ⅱ	住吉 誠	900
文化演習Ⅱ	田浦 アマンダ	901
文化演習Ⅱ	田中 秀毅	902
文化演習Ⅱ	鳥居 祐介	903
文化演習Ⅱ	西川 眞由美	904
文化演習Ⅱ	ショーン マクガバン	905
文化演習Ⅱ	家口 美智子	906
文化演習Ⅱ	篠原 愛人	907
文化演習Ⅱ	北條 ゆかり	908
文化演習Ⅱ	上田 達	909
文化演習Ⅱ	浦野 崇央	910
文化演習Ⅱ	山口 真佐夫	911
文化演習Ⅱ	赤澤 春彦	912
文化演習Ⅱ	浅野 英一	913
文化演習Ⅱ	有馬 善一	914
文化演習Ⅱ	岩間 香	915
文化演習Ⅱ	門脇 薫	916
文化演習Ⅱ	橋本 正俊	917
文化演習Ⅱ	林田 敏子	918
文化演習Ⅱ	後藤 一章	919
文化演習Ⅱ	中島 直嗣	920
文化演習Ⅱ	マイケル ハーキー	921
文化演習Ⅱ	松田 早恵	922
文化演習Ⅱ	皆本 智美	923
文化演習Ⅱ	吉村 征洋	924
文化演習Ⅱ	兪 鳴蒙	925
文化演習Ⅱ	中西 正樹	926
文化演習Ⅱ	瀬戸 宏	927
文化演習Ⅱ	小川 豊生	928
文化演習Ⅱ	原 秀禎	929
文化観光実習演習	赤澤 春彦	930
	橋本 正俊	
	林田 敏子	
文化人類学	西垣 有	1167
文化と表現	橋本 正俊	931

科目名	担当者	ページ
へ		
平和の思想	濱 良 祐	932
ホ		
法学入門	小 野 晃 正	1168
ボキャブラリー&グラマー a	松 田 早 恵	934
ボキャブラリー&グラマー a	後 藤 一 章	935
ボキャブラリー&グラマー a	西 川 眞由美	936
ボキャブラリー&グラマー a	齋 藤 安以子	937
ボキャブラリー&グラマー a	鳥 居 祐 介	938
ボキャブラリー&グラマー a	中 島 直 嗣	939
ボキャブラリー&グラマー a	家 口 美智子	940
ボキャブラリー&グラマー a	神 崎 舞	941
ボキャブラリー&グラマー a	皆 本 智 美	942
ボキャブラリー&グラマー a	住 吉 誠	943
ボキャブラリー&グラマー b	家 口 美智子	944
ボキャブラリー&グラマー b	皆 本 智 美	945
ボキャブラリー&グラマー b	西 川 眞由美	946
ボキャブラリー&グラマー b	齋 藤 安以子	947
ボキャブラリー&グラマー b	天 野 貴 史	948
ボキャブラリー&グラマー b	後 藤 一 章	949
ボキャブラリー&グラマー b	中 島 直 嗣	950
ボキャブラリー&グラマー b	住 吉 誠	951
ボキャブラリー&グラマー b	大原関 一 浩	952
ボキャブラリー&グラマー b	田浦 アマンダ	953
ボキャブラリー&グラマー b	松 田 早 恵	954
ボキャブラリー&グラマー b	鳥 居 祐 介	955
ホスピタリティ・インターンシップ	坂 下 正 憲	956
ホスピタリティ演習	坂 下 正 憲	957
ホスピタリティ論Ⅰ	沖 中 美 喜	959
ホスピタリティ論Ⅱ	沖 中 美 喜	960
ホテルビジネス論Ⅰ	坂 下 正 憲	961
ホテルビジネス論Ⅱ	坂 下 正 憲	963
翻訳文化論	小 川 豊 生	965
マ		
マーケティングと歴史	武 居 奈緒子	1170
マーケティング入門	武 居 奈緒子	1171
マイノリティ論	有 馬 善 一	967
マレー語圏トピックス	ノレハ ビンティ	969
ミ		
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中 沼 丈 晃	1172
ミュージアムへの招待	谷 直 樹	971
ミュージアムマネジメント論	赤 澤 春 彦	973
メ		
メディア イングリッシュ a	山 本 尚 子	975
メディア イングリッシュ a	江 戸 智 美	977
メディア イングリッシュ a	中 道 英美子	978
メディア イングリッシュ a	湊 由妃子	979

科目名	担当者	ページ
メディア イングリッシュ a	里 井 真理子	980
メディア イングリッシュ a	オーエン クロー	981
メディア イングリッシュ a	アーサー ロングス	982
メディア イングリッシュ b	山 本 尚 子	983
メディア イングリッシュ b	江 戸 智 美	985
メディア イングリッシュ b	中 道 英美子	986
メディア イングリッシュ b	湊 由妃子	987
メディア イングリッシュ b	里 井 真理子	988
メディア イングリッシュ b	オーエン クロー	989
メディア イングリッシュ b	アーサー ロングス	990
メディアのスペイン語Ⅰ	三 浦 知佐子	991
メディアのスペイン語Ⅱ	林 安紀子	992
メディアのスペイン語Ⅲ	磯 野 吉 美	994
モ		
ものづくりインターンシップ基礎	奥 野 竜 平	1174
ものづくりインターンシップ基礎	川 野 常 夫	1176
ものづくりインターンシップ実践	奥 野 竜 平	1177
ものづくり海外インターンシップ	川 野 常 夫	1179
ヤ		
役立つ金融知力	陸 川 富 盛	1181
ヨ		
ヨーロッパ史学	林 田 敏 子	995
ヨーロッパ思想	池 田 清	996
ラ		
ライティング a	家 口 美智子	997
ライティング a	グラント パーミンハム	999
ライティング a	住 吉 誠	1001
ライティング a	スコット ライリー	1003
ライティング a	ブライアン スレーター	1005
ライティング a	ブルース ライリー	1007
ライティング a	ジョン カール	1009
ライティング a	ダニエル マリンズ	1011
ライティング b	家 口 美智子	1013
ライティング b	グラント パーミンハム	1014
ライティング b	住 吉 誠	1016
ライティング b	スコット ライリー	1018
ライティング b	ブライアン スレーター	1019
ライティング b	ブルース ライリー	1021
ライティング b	ジョン カール	1022
ライティング b	ダニエル マリンズ	1024
ラテンアメリカ史学	篠 原 愛 人	1025
ラテンアメリカの社会と文化	北 條 ゆかり	1026
ラテンアメリカ文学	森 川 香 織	1027
リ		
リーディングⅠ a	江 戸 智 美	1028
リーディングⅠ a	湊 由妃子	1029
リーディングⅠ a	西 谷 継 治	1030

科目名	担当者	ページ
リーディングⅠ a	住 吉 誠	1031
リーディングⅠ a	田 中 健 二	1032
リーディングⅠ a	瀧 川 宏 樹	1033
リーディングⅠ b	江 戸 智 美	1034
リーディングⅠ b	湊 由妃子	1035
リーディングⅠ b	住 吉 誠	1036
リーディングⅠ b	田 中 健 二	1037
リーディングⅠ b	関 初 海	1038
リーディングⅠ b	瀧 川 宏 樹	1039
リーディングⅠ b	西 谷 継 治	1040
リーディングⅡ a	天 野 貴 史	1041
リーディングⅡ a	湊 由妃子	1042
リーディングⅡ a	松 井 信 義	1043
リーディングⅡ a	木 村 ゆ み	1044
リーディングⅡ a	アレン ニール	1045
リーディングⅡ a	ジェフリー ベル	1046
リーディングⅡ a	グラント パーミンハム	1047
リーディングⅡ a	ジェン パーメンター	1049
リーディングⅡ b	天 野 貴 史	1051
リーディングⅡ b	湊 由妃子	1052
リーディングⅡ b	松 井 信 義	1053
リーディングⅡ b	木 村 ゆ み	1054
リーディングⅡ b	アレン ニール	1055
リーディングⅡ b	ジェフリー ベル	1056
リーディングⅡ b	グラント パーミンハム	1057
リーディングⅡ b	ジェン パーメンター	1059
旅行インドネシア・マレー語	大 坪 紀 子	1061

レ

歴史に学ぶ	林 田 敏 子	1183
-------	---------	------

ロ

ロマンス語研究Ⅰ	柱 本 元 彦	1063
ロマンス語研究Ⅱ	柱 本 元 彦	1064

基礎科目

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目	英語 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>A Check Book for Survival English</td> <td>金子 光茂</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	A Check Book for Survival English	金子 光茂	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	A Check Book for Survival English	金子 光茂	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 3
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	本多 善
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4技能（読む・書く・聞く・話すこと）の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work Students should study the content of the day's lesson
関連科目	英語 II		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	First Steps to Global communication (グローバル・トピックスで学ぶ大学基本英文法)	木村正俊 他 南雲堂
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。		
学生へのメッセージ	英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。授業以外にも、自分の興味ある分野の英文をどんどん読んでみましょう。全員参加で活気ある授業を創り上げましょう。		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。		

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 5
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	英語 II
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Language Note	Richard McMahon	languagenote.com
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。
----------	--

学生へのメッセージ	This class will enable you to build up friendships with your fellow students as there is a lot of pairwork and group work activities, and talking in many different situations. Please come prepared to help create a positive atmosphere.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 7
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ショーン マクガバン
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目	英語 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。																																																																		
学生へのメッセージ	All the classwork and all course assignments will be in English. Be prepared and willing to study and learn using English.																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 マクガバン研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 Prints and teacher-prepared materials will be given.																																																																		

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	國友 万裕
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。			
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。			
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。			
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
関連科目	英語 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で味わう食文化	Fiona Wall Minami 他	朝日出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 4
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4技能（読む・書く・聞く・話すこと）の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目	英語 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>On Board for More World Adventures</td> <td>Scott Berlin 小林めぐみ</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	On Board for More World Adventures	Scott Berlin 小林めぐみ	金星堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	On Board for More World Adventures	Scott Berlin 小林めぐみ	金星堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。																																																																		
学生へのメッセージ	毎回授業には出席し、積極的に取り組んで下さい。 南アメリカからアフリカ、アジア、ヨーロッパの国々の英語にふれる機会です。各国の文化や歴史を知り、楽しく英語を勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 6
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目	英語 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。																																																																		
学生へのメッセージ	Attitude is more important than ability. A good attitude will get a good result.																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 8
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 一美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	英語でアウトプットすることへの負担軽減—音声面を中心に			
到達目標	英語の発音に関する知識を深め、本を通して英語らしい表現や言い回しを理解する。			
授業方法と留意点	大きく3タームに分かれ、第1タームでは英語の正しい発音を知ることに関心を当てる。第2タームでは本を通して英語らしい表現や言い回しを理解し、第3タームでは実際の運用(発表)につなげる。			
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の流れ・受講時の注意点・成績などに関する説明	課題レポート
	2	英語によるコミュニケーションの難しさについて	コミュニケーションについて深く考え討論し、英語が果たす役割について学ぶ	復習:自分のコミュニケーションの取り方について考える 予習:日本語と英語の発音のそれぞれの特徴について考えてくる
	3	英語の音声について(1)	子音	復習:本時の内容 予習:次回の内容
	4	英語の音声について(2)	子音	復習:本時の内容 予習:次回の内容
	5	英語の音声について(3)	母音	復習:本時の内容 予習:小テストに向けての準備
	6	小テストならびにフォニックスについて	・英語の音声に関する小テスト(第3回~第5回の内容) ・知っておきたいフォニックスルール	復習:本時の内容 予習:小テストに向けての準備
	7	小テストならびに英語表現の理解(1)	・フォニックスに関する小テスト ・本などを通して英語のリズムやイントネーションを学ぶ	復習:本時の内容 予習:次回の内容
	8	英語表現の理解(2)	・本などを通して英語のリズムやイントネーションを学ぶ	復習:本時の内容 予習:次回の内容
	9	英語表現の理解(3)	・本などを通して英語のリズムやイントネーションを学ぶ	復習:本時の内容 予習:次回の内容
	10	英語表現の理解(4)	・本などを通して英語のリズムやイントネーションを学ぶ	復習:本時の内容 予習:発表に向けての準備
	11	発表(1)	これまで学んだ内容を実践に活かすべくグループ単位で英語による発表	復習:本時の内容 予習:発表に向けての準備
	12	発表(2)	これまで学んだ内容を実践に活かすべくグループ単位で英語による発表	復習:本時の内容 予習:発表に向けての準備
	13	発表(3)	これまで学んだ内容を実践に活かすべくグループ単位で英語による発表	復習:本時の内容 予習:発表に向けての準備
	14	発表(4)	これまで学んだ内容を実践に活かすべくグループ単位で英語による発表	復習:これまでの内容を見直す
	15	総括	・コミュニケーションについて考える ・英語(音声面)の特徴についての総まとめ	予習:定期試験に向けて準備
関連科目	英語 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業態度 15% 小テスト/課題 15% 実践 30% 定期試験 40%			
学生へのメッセージ	アウトプットを中心とした授業を行うが私語は厳禁。講義内では英語やコミュニケーションについて深く考えるため、意見交換がある。そのため、「自分ならどうする」という考えをもって授業に取り組むこと。			
担当者の研究室等				
備考				

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目	英語Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Language Note</td> <td>Richard McMahon</td> <td>languagenote.com</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Language Note	Richard McMahon	languagenote.com	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Language Note	Richard McMahon	languagenote.com																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。																																																																		
学生へのメッセージ	This class will enable you to build up friendships with your fellow students as there is a lot of pairwork and group work activities, and talking in many different situations. Please come prepared to help create a positive atmosphere.																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E4
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction
	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work
事前・事後学習課題	Students should study the content of the day's lesson		
関連科目	英語Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。		
学生へのメッセージ	Attitude is more important than ability. A good attitude will get a good result.		
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。		

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E 6
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ショーン マクガバン
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目	英語Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。																																																																		
学生へのメッセージ	All the classwork and all course assignments will be in English. Be prepared and willing to study and learn using English.																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 マクガバン研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 Prints and teacher-prepared materials will be given.																																																																		

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E8
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目	英語Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Let's Read Aloud and Learn English!</td><td>角山照彦</td><td>成美堂</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Let's Read Aloud and Learn English!	角山照彦	成美堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Let's Read Aloud and Learn English!	角山照彦	成美堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 一美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英語でアウトプットすることへの負担軽減—ライティングを中心に
到達目標	日本語と英語の違いを改めて理解し、和訳や英作などを通して英語らしい表現や言い回しを理解する。
授業方法と留意点	大きく3タームに分かれ、第1タームでは和訳や英作を行う際に注意すべきことに焦点を当てる。第2タームではその注意点をもとに英語らしい表現や言い回しを理解に努め、第3タームでは実際の運用につなげる。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			課題
1	ガイダンス	講義の流れ・受講時の注意点・成績などに関する説明	課題
2	なぜ和訳や英作が苦手なのか	課題を通して、英語で表現することの難しさについて考える	復習：本時の内容 予習：次回の内容
3	和訳や英作のコツ1	和訳や英作をする際の英語らしい表現について解説	復習：本時の内容 予習：次回の内容
4	和訳や英作のコツ1	和訳や英作をする際の英語らしい表現について解説	復習：本時の内容 予習：小テストに向けての準備
5	小テストならびに5文型	・和訳や英作に関する小テスト ・+V, S+V+C, S+V+O, S+V+O+O, S+V+O+C	復習：本時の内容 予習：小テストに向けての準備
6	小テストならびに和訳実践ならびに解説1	・5文型のテスト ・和訳問題ならびに解答解説	復習：本時の内容 予習：小テストに向けての準備
7	和訳実践ならびに解説2	和訳問題ならびに解答解説	復習：本時の内容 予習：次回の内容
8	和訳実践ならびに解説3	和訳問題ならびに解答解説	復習：本時の内容 予習：次回の内容
9	和訳実践ならびに解説4	和訳問題ならびに解答解説	復習：本時の内容 予習：次回の内容
10	和訳実践ならびに解説5	和訳問題ならびに解答解説	復習：本時の内容 予習：次回の内容
11	共同学習1	事前に予習したものをグループでシェアし、よりよい表現方法を共同で考える	復習：本時の内容 予習：次回の内容
12	共同学習2	事前に予習したものをグループでシェアし、よりよい表現方法を共同で考える	復習：本時の内容 予習：次回の内容
13	共同学習3	事前に予習したものをグループでシェアし、よりよい表現方法を共同で考える	復習：本時の内容 予習：次回の内容
14	共同学習4	事前に予習したものをグループでシェアし、よりよい表現方法を共同で考える	復習：これまでの内容を見直す
15	総括	・英語(writing)の特徴についての総まとめ	予習：定期試験に向けて準備

関連科目	英語Ⅱ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業態度 15% 小テスト/課題 15% 実践 30% 定期試験 40%
----------	---

学生へのメッセージ	アウトプットを中心とした授業を行い、共同学習に取り組むが私語は厳禁。講義内ではよりよい表現を模索するため、意見交換がある。そのため、「自分ならどうする」という考えをもって授業に取り組むこと。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2F)
----------	---------------

備考	授業の事前・事後学習にかかる学習総時間はおおむね15時間程度とする。
----	------------------------------------

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E3
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目	英語Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Let's Read Aloud and Learn English!</td><td>角山照彦</td><td>成美堂</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Let's Read Aloud and Learn English!	角山照彦	成美堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Let's Read Aloud and Learn English!	角山照彦	成美堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E5
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目	英語Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。																																																																		
学生へのメッセージ	Attitude is more important than ability. A good attitude will get a good result.																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	E7
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	國友 万裕
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	4技能(読む・書く・聞く・話すこと)の基礎能力を身につけるために、4技能統合型の授業を行う。																																																																		
到達目標	インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	必ず予習して出席すること。授業中の応答、学習活動への積極的な参加を重視する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Introduction</td><td>Orientation and Self-Introduction</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>2</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>3</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>4</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>5</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>6</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>7</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>8</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>9</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>10</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>11</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>12</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>13</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>14</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> <tr><td>15</td><td>Exercises</td><td>Individual Task, Pair work, and group work</td><td>Students should study the content of the day's lesson</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson	2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson	15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson																																																																
関連科目	英語Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Step Up with Movie English</td><td>井村誠 他</td><td>金星堂</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Step Up with Movie English	井村誠 他	金星堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Step Up with Movie English	井村誠 他	金星堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。確認テスト等を行うこともある。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、およびコンピュータ利用に関する技能検定へ足掛かりとする
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。身近なものとしては MOS (マイクロソフトオフィススペシャリスト) が挙げられる。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明とガイダンス	———
2	コンピュータ基礎知識の確認	パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート	確認用課題
3	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題
4	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	文書作成練習課題 1
5	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	文書作成練習課題 2
6	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	文書作成練習課題 3
7	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術: レポート、論文の作成	文書作成練習課題 4
8	前半まとめと確認	確認テスト	文書作成技法復習と技能修得度の確認
9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題 1
10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	表計算練習課題 2
11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	表計算練習課題 3
12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題 4
13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 散布図および分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題 5
14	情報の蓄積と連携	レポート活用の為のアプリケーションソフトの連携	Word および Excel 複合練習課題
15	後半まとめと確認	確認テスト	表計算技法復習と技能修得度の確認

関連科目 ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	安積 淳 他	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	出席率 80%以上を必須とする。授業参加状況、毎回の課題 (練習問題)、実技を含む試験を総合して評価する。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。																																																																		
到達目標	Office「Word」「Excel」の基本操作をマスターする。																																																																		
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作方法</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>情報の収集と選択</td> <td>インターネット環境と情報の検索方法</td> <td>情報検索課題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>情報の処理技術 (1)</td> <td>文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1</td> <td>文書作成練習課題 1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>情報の処理技術 (2)</td> <td>文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2</td> <td>文書作成練習課題 2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>情報の処理技術 (3)</td> <td>文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他</td> <td>文書作成練習課題 3</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>情報の処理技術 (4)</td> <td>文字情報処理の応用 1 文書作成技術：レポート、論文の作成 1</td> <td>文書作成練習課題 4</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>情報の処理技術 (5)</td> <td>文字情報処理の応用 2 文書作成技術：レポート、論文の作成 2</td> <td>文書作成練習課題 5</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>前半まとめと確認</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>情報の蓄積と利用 (1)</td> <td>表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理</td> <td>表計算練習課題 1</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>情報の蓄積と利用 (2)</td> <td>表計算基礎 2 関数利用技術</td> <td>表計算練習課題 2</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>情報の蓄積と利用 (3)</td> <td>表計算基礎 3 グラフ処理</td> <td>表計算練習課題 3</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>情報の蓄積と利用 (4)</td> <td>表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術</td> <td>表計算練習課題 4</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>情報の蓄積と利用 (5)</td> <td>表計算応用 2 分析ツールと回帰分析基本</td> <td>表計算練習課題 5</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>情報の蓄積と連携</td> <td>アプリケーションソフトの連携</td> <td>複合練習課題</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>後半まとめと確認</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作方法	—————	2	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題	3	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	文書作成練習課題 1	4	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	文書作成練習課題 2	5	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	文書作成練習課題 3	6	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術：レポート、論文の作成 1	文書作成練習課題 4	7	情報の処理技術 (5)	文字情報処理の応用 2 文書作成技術：レポート、論文の作成 2	文書作成練習課題 5	8	前半まとめと確認	まとめ	まとめ	9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題 1	10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	表計算練習課題 2	11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	表計算練習課題 3	12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題 4	13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題 5	14	情報の蓄積と連携	アプリケーションソフトの連携	複合練習課題	15	後半まとめと確認	まとめ	まとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作方法	—————																																																																
2	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題																																																																
3	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	文書作成練習課題 1																																																																
4	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	文書作成練習課題 2																																																																
5	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	文書作成練習課題 3																																																																
6	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術：レポート、論文の作成 1	文書作成練習課題 4																																																																
7	情報の処理技術 (5)	文字情報処理の応用 2 文書作成技術：レポート、論文の作成 2	文書作成練習課題 5																																																																
8	前半まとめと確認	まとめ	まとめ																																																																
9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題 1																																																																
10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	表計算練習課題 2																																																																
11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	表計算練習課題 3																																																																
12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題 4																																																																
13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題 5																																																																
14	情報の蓄積と連携	アプリケーションソフトの連携	複合練習課題																																																																
15	後半まとめと確認	まとめ	まとめ																																																																
関連科目	ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回授業時に出す課題 (100%) をもとに評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。																																																																		
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 6 階 (経営学部事務室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	課題やレポート、卒業論文作成のために必要な情報活用能力の習得、およびコンピュータ利用に関する技能検定へ足掛かりとする
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。身近なものとしてはMOS (マイクロソフトオフィススペシャリスト) が挙げられる。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明とガイダンス	———
2	コンピュータ基礎知識の確認	パーソナルコンピュータ基本知識の習得とレポート	確認用課題
3	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題
4	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	文書作成練習課題 1
5	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	文書作成練習課題 2
6	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	文書作成練習課題 3
7	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術: レポート、論文の作成	文書作成練習課題 4
8	前半まとめと確認	確認テスト	文書作成技法復習と技能修得度の確認
9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題 1
10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	表計算練習課題 2
11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	表計算練習課題 3
12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題 4
13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 散布図および分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題 5
14	情報の蓄積と連携	レポート活用の為のアプリケーションソフトの連携	Word および Excel 複合練習課題
15	後半まとめと確認	確認テスト	表計算技法復習と技能修得度の確認

関連科目 ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8・Office2013 による情報処理入門	安積 淳 他	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	出席率80%以上を必須とする。授業参加状況、毎回の課題 (練習問題)、実技を含む試験を総合して評価する。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	情報処理 I	科目名 (英文)	Information Processing I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	Windows と実用的なアプリケーションソフトを用いた演習を通じて、情報の収集と選択、情報の処理技術、情報の蓄積と利用を学習し、課題やレポート、卒業論文を効果的に作成するために必要な情報活用能力を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能を知るとともに、コンピュータの持つ特性と有用性について理解し、情報処理能力の養成をはかる。
到達目標	Office 「Word」「Excel」の基本操作をマスターする。
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明、コンピュータの仕組み、Windows 基本操作方法	—————
2	情報の収集と選択	インターネット環境と情報の検索方法	情報検索課題
3	情報の処理技術 (1)	文字情報処理の基礎 1 文書作成技術 書式設定 1	文書作成練習課題 1
4	情報の処理技術 (2)	文字情報処理の基礎 2 文書作成技術 書式設定 2	文書作成練習課題 2
5	情報の処理技術 (3)	文字情報処理の基礎 3 文書作成技術 表その他	文書作成練習課題 3
6	情報の処理技術 (4)	文字情報処理の応用 1 文書作成技術：レポート、論文の作成 1	文書作成練習課題 4
7	情報の処理技術 (5)	文字情報処理の応用 2 文書作成技術：レポート、論文の作成 2	文書作成練習課題 5
8	前半まとめと確認	まとめ	まとめ
9	情報の蓄積と利用 (1)	表計算基礎 1 表計算ソフトウェアの概念、数値の処理	表計算練習課題 1
10	情報の蓄積と利用 (2)	表計算基礎 2 関数利用技術	表計算練習課題 2
11	情報の蓄積と利用 (3)	表計算基礎 3 グラフ処理	表計算練習課題 3
12	情報の蓄積と利用 (4)	表計算応用 1 データベースとピボットテーブル活用技術	表計算練習課題 4
13	情報の蓄積と利用 (5)	表計算応用 2 分析ツールと回帰分析基本	表計算練習課題 5
14	情報の蓄積と連携	アプリケーションソフトの連携	複合練習課題
15	後半まとめと確認	まとめ	まとめ

関連科目 ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 出席点、課題点をもとに評価する。この授業は演習中心であるため、出席および課題提出が単位取得の必要条件となります。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。

担当者の研究室等 6 号館 1 1 階 (非常勤講師室)

備考

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、情報処理の基礎を学習する。効果的な論文ツールの学習およびプレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。後半では、アイコンやアバター作成等に必要とされる画像編集等の各種アプリケーションソフトの学習を通じ、情報発信に必要とされる画像処理の基本知識を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解する。
到達目標	効率的な論文ツールの活用、および就職面接等におけるプレゼンテーション能力の獲得
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			配布資料の確認	内容の把握と整理
1	レポート・論文作成におけるツールの学習(1)	効果的な論文作成のためのツールの確認と学習1	配布資料の確認	内容の把握と整理
2	レポート・論文作成におけるツールの学習(2)	論文作成とツールの利用	配布資料の確認	内容の把握と整理 論文練習課題
3	情報の表現(1)	紙メディアから電子メディアへの移行 プレゼンテーション技術1 スライド基本操作	配布資料の確認	内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題1
4	情報の表現(2)	プレゼンテーション技術2 図の挿入と編集、クリップアートとスマートアート アニメーションの設定	配布資料の確認	内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題2
5	情報の表現(3)	プレゼンテーション技術3 発表の基本	配布資料の確認	内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題3
6	情報の表現(4)	画像編集の基本知識 ペイント系画像編集アプリケーションソフト基本学習	配布資料の確認	内容の把握と整理 画像編集練習課題
7	情報の発信(1)	Web上における能動的プレゼンテーションソフトの学習1	配布資料の確認	内容の把握と整理 web系プレゼンテーション応用課題1
8	情報の発信(2)	Web上における能動的プレゼンテーションソフトの学習2	配布資料の確認	内容の把握と整理 web系プレゼンテーション応用課題2
9	課題制作1(1)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認	内容の把握と整理、評価
10	課題制作1(2)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認	内容の把握と整理、評価
11	課題制作1(3)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認	内容の把握と整理、評価
12	課題制作2 グループ発表(1)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認	内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
13	課題制作2 グループ発表(2)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認	内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
14	プレゼンテーション発表(1)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表	内容の把握と整理
15	プレゼンテーション発表(2)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表	内容の把握と整理

関連科目	「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて資料を配付する。一部、情報処理Ⅰのテキストを使用		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	80%以上の出席率を必要とする。授業参加状況、毎回の課題(練習問題)、実技を含む試験を総合して評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、情報処理の基礎を学習する。プレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。プレゼンテーションソフトは、研究成果や調査結果の報告、商品企画の発表など、様々な用途で用いられており、コンピュータ社会において重要なツールである。本講義では、プレゼンテーションソフトを応用的に活用するスキルも学ぶ。
到達目標	Office「Powerpoint」の基本操作および応用的活用をマスターする。
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	ビジネスシーンを想定したスライド作成スキル以外に、簡易的な画像処理技術、ポスター制作スキルなどの応用技術も習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法の説明	特になし
2	PowerPoint 基本操作	基本操作の復習する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
3	PowerPoint 図の活用1	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
4	PowerPoint 図の活用2	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
5	PowerPoint 動画の活用	PowerPoint で動画を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
6	PowerPoint 画像処理1	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
7	PowerPoint 画像処理2	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
8	PowerPoint 画像処理3	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
9	PowerPoint 応用 1_図形の合成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
10	PowerPoint 応用 2_名刺の作成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
11	PowerPoint 実践1_スライドの作成	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
12	PowerPoint 実践2_スマートアートの活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
13	PowerPoint 実践3_アニメの有効活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
14	提出課題の発表	各自作成した課題を発表する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
15	まとめ	まとめ、およびフォローアップを行う	特に困難な箇所の確認と復習

関連科目 「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 毎回授業時に出す課題(100%)をもとに評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件となります。

学生へのメッセージ 毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、可能な限り欠席や遅刻をしないようにしましょう。欠席するとそれ以降の授業の理解が困難となります。もし万一欠席したときには周りの友人などに授業内容・課題を聞いたりしておくとういでしょう。

担当者の研究室等 11号館6階(経営学部事務室)

備考

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、情報処理の基礎を学習する。効果的な論文ツールの学習およびプレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。後半では、アイコンやアバター作成等に必要とされる画像編集等の各種アプリケーションソフトの学習を通じ、情報発信に必要とされる画像処理の基本知識を習得する。これらの作業によって、コンピュータの機能についてさらに知識を深め、その特性と有用性についてより深く理解する。
到達目標	効率的な論文ツールの活用、および就職面接等におけるプレゼンテーション能力の獲得
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	コンピュータ利用に関する技能検定に挑戦するためにも役立つ講座である。資格取得の足掛かりとして活用してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			配布資料の確認	内容の把握と整理
1	レポート・論文作成におけるツールの学習(1)	効果的な論文作成のためのツールの確認と学習1	配布資料の確認	内容の把握と整理
2	レポート・論文作成におけるツールの学習(2)	論文作成とツールの利用	配布資料の確認	内容の把握と整理 論文練習課題
3	情報の表現(1)	紙メディアから電子メディアへの移行 プレゼンテーション技術1 スライド基本操作	配布資料の確認	内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題1
4	情報の表現(2)	プレゼンテーション技術2 図の挿入と編集、クリップアートとスマートアート アニメーションの設定	配布資料の確認	内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題2
5	情報の表現(3)	プレゼンテーション技術3 発表の基本	配布資料の確認	内容の把握と整理 プレゼンテーション練習課題3
6	情報の表現(4)	画像編集の基本知識 ペイント系画像編集アプリケーションソフト基本学習	配布資料の確認	内容の把握と整理 画像編集練習課題
7	情報の発信(1)	Web上における能動的プレゼンテーションソフトの学習1	配布資料の確認	内容の把握と整理 web系プレゼンテーション応用課題1
8	情報の発信(2)	Web上における能動的プレゼンテーションソフトの学習2	配布資料の確認	内容の把握と整理 web系プレゼンテーション応用課題2
9	課題制作1(1)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認	内容の把握と整理、評価
10	課題制作1(2)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認	内容の把握と整理、評価
11	課題制作1(3)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成	配布資料の確認	内容の把握と整理、評価
12	課題制作2 グループ発表(1)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認	内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
13	課題制作2 グループ発表(2)	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成 グループ発表準備および資料の作成	配布資料の確認	内容の把握と整理 プレゼンテーション発表打ち合わせと準備
14	プレゼンテーション発表(1)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表	内容の把握と整理
15	プレゼンテーション発表(2)	グループ発表、および質疑応答と評価	プレゼンテーション発表	内容の把握と整理

関連科目	「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて資料を配付する。一部、情報処理Ⅰのテキストを使用		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	80%以上の出席率を必要とする。授業参加状況、毎回の課題(練習問題)、実技を含む試験を総合して評価する。
学生へのメッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	情報処理Ⅱ	科目名(英文)	Information Processing II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	情報処理Ⅰに引き続き、パーソナルコンピュータを操作して、情報処理の基礎を学習する。プレゼンテーションソフトの基本操作を通して、スライドの作成、プレゼンテーションの構成と実行を行う。プレゼンテーションソフトは、研究成果や調査結果の報告、商品企画の発表など、様々な用途で用いられており、コンピュータ社会において重要なツールである。本講義では、プレゼンテーションソフトを応用的に活用するスキルも学ぶ。
到達目標	Office「Powerpoint」の基本操作および応用的活用をマスターする。
授業方法と留意点	テキストと配布資料を用いて演習形式で行う。毎回、課題が出題される。その課題を提出しない場合は欠席とみなされるので注意すること。授業時間内に課題を完成できない場合、次週までに提出することが求められる。出席率が8割に満たない場合は単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	ビジネスシーンを想定したスライド作成スキル以外に、簡易的な画像処理技術、ポスター制作スキルなどの応用技術も習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法の説明	特になし
2	PowerPoint 基本操作	基本操作の復習する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
3	PowerPoint 図の活用1	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
4	PowerPoint 図の活用2	PowerPoint で図を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
5	PowerPoint 動画の活用	PowerPoint で動画を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
6	PowerPoint 画像処理1	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
7	PowerPoint 画像処理2	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
8	PowerPoint 画像処理3	PowerPoint で画像処理を活用する方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
9	PowerPoint 応用 1_図形の合成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
10	PowerPoint 応用 2_名刺の作成	PowerPoint の応用的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
11	PowerPoint 実践1_スライドの作成	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
12	PowerPoint 実践2_スマートアートの活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
13	PowerPoint 実践3_アニメの有効活用	PowerPoint の実践的な活用方法を学ぶ	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
14	提出課題の発表	各自作成した課題を発表する	該当する項目について配布資料をもとに復習を行う
15	まとめ	まとめ、およびフォローアップを行う	特に困難な箇所の確認と復習

関連科目	「情報処理Ⅰ」を修得していることが望ましい
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	出席点、課題点をもとに評価する。この授業は演習中心であるため、出席および課題提出が単位取得の必要条件となります。
----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、可能な限り欠席や遅刻をしないようにしましょう。欠席するとそれ以降の授業の理解が困難となります。もし万一欠席したときには周りの友人などに授業内容・課題を聞いたりしておくとういでしょう。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館6階(非常勤講師室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practice of Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目 (バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目 (サッカー・ソフトボール・テニス・ラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習 I と II で同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>屋内種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価	4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館 1F 体育館事務室にきてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)																																																																		

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practice of Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目 (バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目 (サッカー・ソフトボール・テニス・ラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習 I と II で同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>屋内種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム (グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価	4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム (グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館 1F 体育館事務室にきてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)																																																																		

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目(サッカー・ソフトボール・テニス・ラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之、川野 裕姫子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活力のある生活を営むためには、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	① 運動技術の向上 ② 競技ルールの理解 ③ 学生相互のコミュニケーション能力の向上																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他の種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 授業での開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン・バレーボール・バスケットボール・卓球など) ・屋外種目(サッカー・ソフトボール・テニス・ラグビーなど) ※尚、各種目の人数が多すぎる場合や少なすぎる場合は、他の種目に移動、もしくは開講しないことがあります。また、第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習、簡易試合</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	各コース別実技	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	審法、戦術の解説、攻防技術練習、ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習、簡易試合	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習・健康論・スポーツ科学概論・保険論・健康科学・スポーツ指導者入門・スポーツ文化論・スポーツプログラミング・発育発達論・ヘルスエクササイズ理論と実際・スポーツ教育学・スポーツの歴史・スポーツトレーニングの基礎・武道論・フィットネストレーニングの理論と実際・スポーツ医学の基礎・体力測定とスポーツ相談・スポーツ栄養学・スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室にきてください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for a Specific Purpose F I
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、実践と解説を中心に行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Eメールの基本1</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Eメールの基本2</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Eメール1</td> <td>近況を知らせるメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Eメール2</td> <td>お知らせメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Eメール3</td> <td>お誘いメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Eメール4</td> <td>リマインドメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Eメール5</td> <td>問い合わせ/質問メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Eメール6</td> <td>依頼メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Eメール7</td> <td>アポイント/日程調整メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Eメール8</td> <td>お礼のメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Eメール9</td> <td>断りメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Eメール10</td> <td>クレームのメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>手紙</td> <td>お礼状を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習・確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	――	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習	5	Eメール2	お知らせメール	復習	6	Eメール3	お誘いメール	復習	7	Eメール4	リマインドメール	復習	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習	9	Eメール6	依頼メール	復習	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習	11	Eメール8	お礼のメール	復習	12	Eメール9	断りメール	復習	13	Eメール10	クレームのメール	復習	14	手紙	お礼状を書く	復習	15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	――																																																																
2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習																																																																
5	Eメール2	お知らせメール	復習																																																																
6	Eメール3	お誘いメール	復習																																																																
7	Eメール4	リマインドメール	復習																																																																
8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習																																																																
9	Eメール6	依頼メール	復習																																																																
10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習																																																																
11	Eメール8	お礼のメール	復習																																																																
12	Eメール9	断りメール	復習																																																																
13	Eメール10	クレームのメール	復習																																																																
14	手紙	お礼状を書く	復習																																																																
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。																																																																		

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for a Specific Purpose F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。			
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業方法と留意点	授業は、講義と実践を中心に行う。			
科目学習の効果(資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動2	自己PRを書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習・確認テスト	総復習・確認テスト	復習
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。			

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation F I
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美徳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。																																																																		
科目学習の 効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
9	トピック⑧	議論	復習																																																																
10	トピック⑨	議論	復習																																																																
11	トピック⑩	議論	復習																																																																
12	トピック⑪	議論	復習																																																																
13	トピック⑫	議論	復習																																																																
14	トピック⑬	議論	復習																																																																
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。																																																																		
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の 研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	8	トピック⑦	議論	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
8	トピック⑦	議論	復習																																																																
9	トピック⑧	議論	復習																																																																
10	トピック⑨	議論	復習																																																																
11	トピック⑩	議論	復習																																																																
12	トピック⑪	議論	復習																																																																
13	トピック⑫	議論	復習																																																																
14	トピック⑬	議論	復習																																																																
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading F I
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、日本人向けに書かれた一般書を読み、表面的な意見や情報だけでなく、含意された意見や立場なども理解できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	読んだ内容について、表面的な意見や情報だけでなく、含意された意見や立場なども理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は以下のような流れで進める。 ①文章のテーマに関する知識をクラス内で共有する。②学習目標とそれを達成するために必要なスキルを確認する。③各自で文章を読み、タスクを解く。④教員による解説を行う。⑤自己評価を行う。 また、語彙力の増強のため、適宜単語テストを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための基礎力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 心のバリアフリー</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>30代ビジネスマンの「心の病」を考える</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「少女マンガ家ぐらし」へ</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>プロフィール</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>インタビュー</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>いつも学びがある</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「早朝時間」のフル活用で成功した人たち①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「早朝時間」のフル活用で成功した人たち②</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>緑のカーテン</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>環境立国ニッポンの挑戦①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>環境立国ニッポンの挑戦②</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>フリーズする脳①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>フリーズする脳②</td> <td>読解、内容理解</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 心のバリアフリー	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習	2	30代ビジネスマンの「心の病」を考える	読解、内容理解	復習	3	「少女マンガ家ぐらし」へ	読解、内容理解	復習	4	プロフィール	読解、内容理解	復習	5	インタビュー	読解、内容理解	復習	6	いつも学びがある	読解、内容理解	復習	7	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち①	読解、内容理解	復習	8	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち②	読解、内容理解	復習	9	緑のカーテン	読解、内容理解	復習	10	環境立国ニッポンの挑戦①	読解、内容理解	復習	11	環境立国ニッポンの挑戦②	読解、内容理解	復習	12	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解	復習	13	フリーズする脳①	読解、内容理解	復習	14	フリーズする脳②	読解、内容理解	復習	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 心のバリアフリー	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習																																																																
2	30代ビジネスマンの「心の病」を考える	読解、内容理解	復習																																																																
3	「少女マンガ家ぐらし」へ	読解、内容理解	復習																																																																
4	プロフィール	読解、内容理解	復習																																																																
5	インタビュー	読解、内容理解	復習																																																																
6	いつも学びがある	読解、内容理解	復習																																																																
7	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち①	読解、内容理解	復習																																																																
8	「早朝時間」のフル活用で成功した人たち②	読解、内容理解	復習																																																																
9	緑のカーテン	読解、内容理解	復習																																																																
10	環境立国ニッポンの挑戦①	読解、内容理解	復習																																																																
11	環境立国ニッポンの挑戦②	読解、内容理解	復習																																																																
12	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解	復習																																																																
13	フリーズする脳①	読解、内容理解	復習																																																																
14	フリーズする脳②	読解、内容理解	復習																																																																
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	日本語読解II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	単語テスト、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進度等に応じて変更する場合があります。																																																																		

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

基礎科目

授業概要・目的	この授業では、日本人向けに書かれた一般書を批判的に読むことができるようになることを目指す。			
到達目標	一般向けに書かれた文章を批判的に読むことができるようになる。			
授業方法と留意点	授業は基本的に2回で1つの文章を読む。 1回目の授業では、文章のテーマに関する知識をクラス内で共有し、学習目標とそれを達成するために必要なスキルを確認した上で各自文章を読み、教員による解説を行う。 2回目の授業では、1回目の授業で読んだ文章を批判的に読むためのタスクを行う。			
科目学習の効果 (資格)	文章を批判的に読む力が身につく。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 批判的な読み方の練習	授業の進め方の説明 批判的な読み方を練習する	復習
	2	私のニュースの読み方①	内容理解	復習
	3	私のニュースの読み方②	批判的に読む	ミニレポート
	4	価値の一様性①	内容理解	復習
	5	価値の一様性②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	6	経済学とは何か①	内容理解	復習
	7	経済学とは何か②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	8	住まい方の思想①	内容理解	復習
	9	住まい方の思想②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	10	ことばの構造、文化の構造①	内容理解	復習
	11	ことばの構造、文化の構造②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	12	化粧する脳①	内容理解	復習
	13	化粧する脳②	批判的に読む	復習 ミニレポート
	14	メディアがもたらす環境変容に関する意識調査	内容理解、 批判的に読む	復習
	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習
関連科目	日本語読解 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ミニレポート、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	文章を批判的に読めるよう、一緒に練習しましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進捗等に応じて変更する場合があります。			

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing F I
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学びます。レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付けることを目指します。																																																																		
到達目標	レポートや論文に必要な、論理的な文章の書き方を身に付ける。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の文章の書き方について、説明と実践を行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を築く																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>復習 ミニレポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習・確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習	5	段落②	実践練習	復習 ミニレポート	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習	7	経過説明②	実践練習	復習 ミニレポート	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習	10	分類・定義	実践練習	復習 ミニレポート	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習	13	要約②	実践練習	復習 ミニレポート	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習	15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習																																																																
5	段落②	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習																																																																
13	要約②	実践練習	復習 ミニレポート																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習																																																																
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進度等に応じて変更する場合があります。																																																																		

科目名	日本語表現作文F II	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、レポートや論文を書くための基礎を学びます。レポートや論文の構成、適した表現、書き方のルールを身につけることを目指します。			
到達目標	レポートや論文の構成、適した表現、書き方のルールを身につける。			
授業方法と留意点	授業では、実際にテーマを決め、レポートを書き進めていきます。			
科目学習の効果 (資格)	大学で求められるレポートや論文を書く力の基礎を築く			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集めてくる
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
	7	序論①	序論の内容と書き方 (課題、目的の提示) を学ぶ	復習
	8	序論②	序論を書く	復習
	9	本論①	本論の内容と書き方 (データ、意見提示) を学ぶ	復習
	10	本論②	本論の内容と書き方 (考察、結論提示) を学ぶ	復習
	11	本論③	本論を書く	復習
	12	結論①	結論の内容と書き方 (全体のまとめ、今後の課題) を学ぶ	復習
	13	結論②	結論を書く	復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習
関連科目	日本語表現作文 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題、レポート、授業への参加態度を総合的に評価します。授業内で書き進めたレポートを最終的に提出してもらい、評価の対象とします。			
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	(1)授業外の質問等については、メールで対応する。 (2)授業内容は、進捗等に応じて変更する場合があります。			

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar F I
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、中上級の文型を取り上げ、機能ごとにまとめて学びます。中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになることを目指します。																																																																		
到達目標	中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、教員による解説と練習問題を繰り返します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 文型の理解度チェック</td> <td>授業の進め方の説明 文型の理解度チェック</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>動作の対象</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>目的・手段・媒介</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>起点・終点・限界・範囲</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>時点・場面</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>時間的同时性・時間的前後性</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>進行・相関関係</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>付帯・非付帯</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>限定</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>非限定・付加</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>比較・最上級・対比</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>判断の立場・評価の視点</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>基準</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>関連・対応</td> <td>文型の解説、練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 文型の理解度チェック	授業の進め方の説明 文型の理解度チェック	復習	2	動作の対象	文型の解説、練習	復習	3	目的・手段・媒介	文型の解説、練習	復習	4	起点・終点・限界・範囲	文型の解説、練習	復習	5	時点・場面	文型の解説、練習	復習	6	時間的同时性・時間的前後性	文型の解説、練習	復習	7	進行・相関関係	文型の解説、練習	復習	8	付帯・非付帯	文型の解説、練習	復習	9	限定	文型の解説、練習	復習	10	非限定・付加	文型の解説、練習	復習	11	比較・最上級・対比	文型の解説、練習	復習	12	判断の立場・評価の視点	文型の解説、練習	復習	13	基準	文型の解説、練習	復習	14	関連・対応	文型の解説、練習	復習	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 文型の理解度チェック	授業の進め方の説明 文型の理解度チェック	復習																																																																
2	動作の対象	文型の解説、練習	復習																																																																
3	目的・手段・媒介	文型の解説、練習	復習																																																																
4	起点・終点・限界・範囲	文型の解説、練習	復習																																																																
5	時点・場面	文型の解説、練習	復習																																																																
6	時間的同时性・時間的前後性	文型の解説、練習	復習																																																																
7	進行・相関関係	文型の解説、練習	復習																																																																
8	付帯・非付帯	文型の解説、練習	復習																																																																
9	限定	文型の解説、練習	復習																																																																
10	非限定・付加	文型の解説、練習	復習																																																																
11	比較・最上級・対比	文型の解説、練習	復習																																																																
12	判断の立場・評価の視点	文型の解説、練習	復習																																																																
13	基準	文型の解説、練習	復習																																																																
14	関連・対応	文型の解説、練習	復習																																																																
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	日本語文法 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	各回の練習問題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	中上級の文法を再確認し、苦手を克服しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、中上級の文型を取り上げ、機能ごとにまとめて学びます。中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになることを目指します。																																																																		
到達目標	中上級の文型への理解を深め、正しく運用できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、教員による解説と練習問題を繰り返します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション 前期の復習</td><td>授業の進め方の説明 前期の学習内容の確認、復習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>無関係・無視・例外</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>例示</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>強調</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>話題</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>逆説・譲歩</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>原因・理由</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>仮定条件・確定条件</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>逆説仮定条件</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>不可能・可能・困難・容易</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>傾向・状態・様子</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>経過・結末</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>否定・部分否定</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>伝聞・推量</td><td>文型の解説、練習</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>総復習、確認テスト</td><td>総復習、確認テスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業の進め方の説明 前期の学習内容の確認、復習	復習	2	無関係・無視・例外	文型の解説、練習	復習	3	例示	文型の解説、練習	復習	4	強調	文型の解説、練習	復習	5	話題	文型の解説、練習	復習	6	逆説・譲歩	文型の解説、練習	復習	7	原因・理由	文型の解説、練習	復習	8	仮定条件・確定条件	文型の解説、練習	復習	9	逆説仮定条件	文型の解説、練習	復習	10	不可能・可能・困難・容易	文型の解説、練習	復習	11	傾向・状態・様子	文型の解説、練習	復習	12	経過・結末	文型の解説、練習	復習	13	否定・部分否定	文型の解説、練習	復習	14	伝聞・推量	文型の解説、練習	復習	15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業の進め方の説明 前期の学習内容の確認、復習	復習																																																																
2	無関係・無視・例外	文型の解説、練習	復習																																																																
3	例示	文型の解説、練習	復習																																																																
4	強調	文型の解説、練習	復習																																																																
5	話題	文型の解説、練習	復習																																																																
6	逆説・譲歩	文型の解説、練習	復習																																																																
7	原因・理由	文型の解説、練習	復習																																																																
8	仮定条件・確定条件	文型の解説、練習	復習																																																																
9	逆説仮定条件	文型の解説、練習	復習																																																																
10	不可能・可能・困難・容易	文型の解説、練習	復習																																																																
11	傾向・状態・様子	文型の解説、練習	復習																																																																
12	経過・結末	文型の解説、練習	復習																																																																
13	否定・部分否定	文型の解説、練習	復習																																																																
14	伝聞・推量	文型の解説、練習	復習																																																																
15	総復習、確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	日本語文法 I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	各回の練習問題、確認テスト、授業への参加態度を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	中上級の文法を再確認し、苦手を克服しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等については、メールで対応する。 (2) 授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society F I
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、 発表準備
14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法 (基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情F II	科目名(英文)	Japanese Culture and Society F II
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします。
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化についての理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
	2	映画1：テーマ「民族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	3	映画1：テーマ「民族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	4	映画1：テーマ「民族」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	5	映画2：テーマ「愛と死」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	6	映画2：テーマ「愛と死」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	7	映画2：テーマ「愛と死」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
	9	映画3：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	10	映画3：「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	11	映画3：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	12	映画4：「高齢化社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	13	映画4：「高齢化社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	14	映画4：「高齢化社会」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法(基準)	各課題、授業への参加度、レポート等により総合的に評価します。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

教 養 科 目

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>【授業概要】観光業界でのインターンシップに参加するための必要な知識や態度と、接客に必要なホスピタリティを毎週学ぶことができます。講義形式に加え、ロールプレイやグループワークなどが取り入れられ、実践の場で生かせるように配慮します。</p> <p>【目的】インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じてもらうことです。</p>
到達目標	観光業界でのインターンシップに参加するための知識と態度、外国人のお客様に対応できる英語の知識が身に付きます。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業ですので、真剣に将来を考えて、積極的に参加することを求めます。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を設定し、準備ができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・インターンシップの狙い、参加目的を考える	なぜ観光業界で働いてみたいのかを言えるようにしてきてください。
2	フロントサービス 1	・観光業界の動向 ・フロントサービスの英語 1	予習と復習をしてきてください。
3	フロントサービス 2	・自己研鑽の重要性 ・フロントサービスの英語 2	予習と復習をしてきてください。
4	フロントサービス 3	・身だしなみと挨拶 ・フロントサービスの英語 3	予習と復習をしてきてください。
5	フロントサービス 4	・言葉づかい 1 ・フロントサービスの英語 4	予習と復習をしてきてください。
6	インフォメーション 1	・言葉づかい 2 ・インフォメーションの英語 1	予習と復習をしてきてください。
7	インフォメーション 2	・言葉づかい 3 ・インフォメーションの英語 2	予習と復習をしてきてください。
8	インフォメーション 3	・自己理解と応募書類作成 ・インフォメーションの英語 3	予習と復習をしてきてください。
9	インフォメーション 4	・電話対応 ・インフォメーションの英語 4	予習と復習をしてきてください。
10	ハウスキーピング 1	・電子メール ハウスキーピングの英語 1	予習と復習をしてきてください。
11	ハウスキーピング 2	・来客対応 ・ハウスキーピングの英語 2	予習と復習をしてきてください。
12	ハウスキーピング 3	・訪問の仕方 ・ハウスキーピングの英語 3	予習と復習をしてきてください。
13	レストラン 1	・指示の受け方とハウレンソウ ・レストランの英語 1	予習と復習をしてきてください。
14	レストラン 2	・顧客対応 ・レストランの英語 2	予習と復習をしてきてください。
15	レストラン 3	・レストランの英語 3 ・振り返り	インターンシップ参加の具体的な目標を考えて来ててください。

関連科目 インターンシップⅡ（観光業界での就業体験実習）を希望する学生は、必ずこの科目を同時履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Collins Hotel and Hospitality English	MIke Seymour	Collins
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、提出物 (30%)、授業態度 (40%) による総合評価とします。
学生へのメッセージ	一生懸命働いている人の姿はいつも輝いています。この授業では観光業界で働いている自分の姿をイメージしながら、楽しく、そして本気で取り組んでください。
担当者の研究室等	西川 真由美 7号館4階 (西川研究室) 富岡 直美 7号館3階 (キャリア教育推進室)
備考	

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることである。 事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループ内の自分の役割を考えること。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	グループの最大の力を出すために、自分に何が出来るかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目 この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 発表（40%）、レポート等の提出物（30%）、授業態度（30%）を総合的に評価する。

学生へのメッセージ
インターンシップの流れは以下のとおりである。
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始（予定）
インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。

担当者の研究室等 7号館5階 キャリア教育推進室（石井）、7号館3階 キャリア教育推進室（富岡）

備考
教科書・・・必要に応じてレジュメを配布
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示
インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西川 真由美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本インターンシップの目的は、観光業界の現場で実際に働いている社会人の方々の中に加えていただき、「観光業界で働くとはどういうことか」「観光業界はどんな仕組みなのか」「観光業界でどんな人材を求めているのか」などを肌で感じることです。この経験を通して、「自分がこれからどうしたいか」「何をすべきか」を見つけます。
到達目標	インターンシップⅡでは、インターンシップ実習を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げることを目標とします。 上記の到達状況を体験報告書やプレゼンテーションなどにより報告していただきます。
授業方法と留意点	事前指導→観光インターンシップ実習→事後指導。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	直前教育2 6月27日(土) 3限目(予定)	インターンシップ実習の注意点 観光業界で求められること	マナーについて考えて下さい
3	インターンシップ実習	夏季休暇中に約4週間	他者に何かを伝える際に気を付けることを考えて下さい
4	インターンシップ実習	夏季休暇中に約4週間	人の言うことをよく聞き、自分の意見をしっかり伝えましょう
5	インターンシップ実習	夏季休暇中に約4週間	実習中は毎日日誌をつけること
6	インターンシップ実習	夏季休暇中に約4週間	事前に立てた目標を意識して参加してください
7	体験報告書の作成	報告書の作成指導	事前指導の通りに作成する 提出前に必ず推敲を行うこと
8	体験報告書の教育指導	教師による体験報告書のチェックと指導	誤字脱字がないか確認してください
9	報告書の提出	インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	何度も読み返して報告書の内容をチェックしてください
10	事後指導1 9月26日(土) 2限目(予定)	体験報告会	報告のレジメを準備してください
11	事後指導2 9月26日(土) 3限目(予定)	体験報告会	プレゼンテーションの準備をしておいてください
12	事後指導3 10月17日(土) 2限目(予定)	体験報告会	代表者はパワーポイントで報告できるように準備してください
13	事後指導4 10月17日(土) 3限目(予定)	体験報告会	代表者はパワーポイントで報告できるように準備してください
14	事後指導5 11月14日(土) 1限目(予定)	全体報告会 学生代表者の発表	学生代表者は報告ができるように準備してください
15	事後指導6 11月14日(土) 2限目(予定)	全体報告会 受け入れ企業管理者の講演とまとめ	全員スーツ着用

関連科目	インターンシップⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	実習先による報告書(20%)と学生の報告書(30%)、発表(20%)、および授業態度(30%)により評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	インターンシップⅠを必ず履修すること。 3月のガイダンスに出席し、受講申し込み書を提出すること。 履修希望者が多い場合には、選考することがある。
-----------	--

担当者の研究室等	西川 真由美 7号館4階(西川研究室) 富岡 直美 7号館3階(キャリア教育推進室)
----------	---

備考	
----	--

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月20日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認	社会人を意識したスーツ着用のこと。身だしなみを自分なりに整えてくること。
	2	直前学修② 6月20日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー・身だしなみの最終確認	マナーについて考えること。
	3	直前学修③ 6月27日(土) 3限目(予定)	・プレゼンテーション①	他者に何かを伝える際に気を付けることを考えること。
	4	直前学修④ 6月27日(土) 4限目(予定)	・プレゼンテーション②	インターンシップで何を学びたいのかを考えること。
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	実習中は毎日日誌をつけること。
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	事前に立てた目標を意識して参加すること。
	7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
	8	事後学修① 9月26日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
	9	事後学修② 9月26日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
	10	事後学修③ 10月17日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
	11	事後学修④ 10月17日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
	12	事後学修⑤ 10月24日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	実習記録簿を見直してこること。
	13	事後学修⑥ 10月24日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	実習記録簿を見直してこること。
	14	事後学修⑦ 11月14日(土) 1限目(予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ 11月14日(土) 2限目(予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ	全員スーツ着用	

関連科目	インターンシップⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(40%)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 「インターンシップⅠ」の履修には、2月のガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。
-----------	---

	履修希望者が多い場合は、選考することもある。
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）、7号館3階 キャリア教育推進室（富岡）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。

科目名	英語で学ぶ工学入門（ものづくり編）	科目名（英文）	Introduction to Manufacturing Engineering
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森脇 俊道
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	The lecture is intended to give fundamental knowledge of mechanical manufacturing processes, machines and systems in English to those who are not necessarily to be specialists of the subject.
到達目標	The target of the lecture is that the students can understand the general idea of manufacturing and exchange opinions with others about manufacturing in English.
授業方法と留意点	The lecture is given in English. Slides and movies will be frequently utilized to assist understanding of the contents of the lecture. The students are requested to study the contents of the subject in advance and to prepare for presentation of the home work in the class room each time.
科目学習の効果（資格）	The students will be able to understand basic manufacturing engineering and exchange ideas about manufacturing with others in English.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Overview of manufacturing engineering	Role of manufacturing engineering. Classification and history of manufacturing technology.	Examine typical manufacturing methods in early days.
	2	Examples of industrial products and their functions	Anatomy of industrial products, such as car, air plane, train and home appliances.	Examine structure and function of a product at hand.
	3	Engineering materials	Ferrous materials, non-ferrous metals, plastics, ceramics etc.	Name materials at hand and examine their fundamental properties.
	4	Fundamental properties of materials	Elasticity, plasticity, strength, specific weight etc.	Compare mechanical properties of materials at hand.
	5	Manufacturing of raw materials	Manufacturing processes of steel, Aluminum and other materials.	Name typical raw materials before processing.
	6	Casting	Basic and advanced casting processes and examples of casted products.	Name typical casted parts or products.
	7	Forming and forging	Basic and advanced forming and forging processes and examples of formed or forged products.	Name typical formed or forged parts or products.
	8	Welding and joining	Basic and advanced welding and joining processes and examples of welded or joined products.	Name typical welded or joined parts and products.
	9	Cutting	Metal cutting process and cutting tools. Examples of cut parts.	Name typical cut parts or products.
	10	Grinding and polishing	Grinding process and grinding methods. Examples of ground parts.	Name typical ground parts or products.
	11	Machine tools	Basic structure of machine tools. Conventional and computer controlled machine tools.	Name typical machine tools and examine their functions.
	12	Non-traditional processing	Laser processing, electro discharge machining, additive manufacturing etc.	Name typical parts or products processed by non-traditional methods.
	13	Manufacturing systems	Manufacturing systems and their components. History of manufacturing systems.	Examine functions of manufacturing systems.
	14	Industrial robots	Application of industrial robots to manufacturing and advanced robot technology.	Examine types and functions of industrial robots.
	15	Summary of manufacturing engineering	Review of the lecture.	Summarize the key points of the lecture.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	50% of the points are given based on the contribution to the lecture including presentation of the home-work in the class room. Another 50% of the points are given based on the test results at the end of the term.
----------	---

学生へのメッセージ	The lecture is not intended to give specific knowledge of manufacturing engineering, but to give rather general knowledge of manufacturing engineering so that they can broaden their minds and deepen knowledge of English.
-----------	--

担当者の研究室等	1 2 号館 6 階 森脇教授室
----------	------------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	環境学	科目名(英文)	Environmental Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木本 浩一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	複数の分野にまたがって成立する環境学について、「学としての特徴」「主要なトピック」などを解説し、環境学の導入とする。本講義では、主として、社会学、地理学、経済学などに近接する論点を扱う。
到達目標	多角的な見方、多彩な知識を必要とする「環境学」の概要を身につけることができる。
授業方法と留意点	板書を中心に、適宜プリントを配布して解説する。また、ビデオ教材を毎回使用し、具体的な事例を示しつつ、環境問題の深刻さを浮き彫りにしたい。
科目学習の効果(資格)	1) 環境学という学問体系についての概略を理解する 2) 環境学に関わる主要な論点について整理する 3) 環境学に関わる現代的な課題について、問題設定ができる

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ー環境学とは何か?ー	・授業の進め方について説明する。 ・科学の社会的な役割、環境学の生い立ちについて、整理する。	【事前】環境学とは何か、について自分の考えをまとめておく。 【事後】環境を「問題」とせざるを得ない時代状況について、自分の考えをまとめる。
2	環境問題というとならえ方 ー環境学の特徴ー	・人間と自然の関係の学としての環境学 ・環境概念について	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
3	環境学の背景	・前回の続き ・環境学の背景	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
4	社会科学理論と環境	・社会科学理論と環境 ・環境パラダイム	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
5	環境学の論点 (1)	・成長、変化、国際問題、人口など、環境学の主要論点について検討する	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
6	環境学の論点 (2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
7	社会科学と環境革命 (1)	・環境革命「前夜」 ・マルサスとダーウィン ・人間生態学	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
8	社会科学と環境革命 (2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
9	人口と環境 (1)	・世界人口の動向 ・人口転換 ・3つの人口論	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
10	人口と環境 (2)	・成長論 ・国際的な政策	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
11	環境運動 (1)	・歴史的背景 ・環境運動の現在 ・環境運動の構造	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
12	環境運動 (2)	・前回の続き	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
13	環境とエネルギー	・エネルギー論 ・エネルギー危機の背景 ・新エネルギーという考え方	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
14	飢餓と環境	・土地、水、エネルギーと飢餓 ・食糧生産と環境	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。
15	まとめー環境のオルタナティブー	・環境と社会構造	【事前】授業で提示したキーワードについて調べておく。 【事後】課題をまとめる。

関連科目 「風土と地理」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	小テスト(2回)およびレポートを総合して評価する。
学生への	環境学は頭の体操です。

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館5階(木本研究室)
備考	



科目名	北河内学—摂南大学と北河内を知る—	科目名(英文)	Introduction to regional partnership between Kitakawachi area and Setsunan University
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	尾山 廣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	[授業概要]学部共通の入門科目として、摂南大学と大学が立地する「北河内地域」の地歴・環境・文化・産業や同地域内にある地方自治体の現状と課題、また、同地域に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動を広範囲にわたって紹介する。[目的]摂南大学の学生として大学や地域に愛着を持てるようになり、学生生活の中で自分自身を見つける機会とする。また、地域貢献活動や地域社会での実践教育の動機づけとする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりにおける摂南大学の役割を理解し、地域の一員として地域貢献活動への参画意識を身につける。
授業方法と留意点	摂南大学地域連携センター関係教員のほか、北河内地域(寝屋川市・枚方市・交野市・門真市)に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとが学外講師として参画し、オムニバス(リレー)形式による講義を行う。各時間内に質疑応答の時間を設け、毎回、時間内に小レポートを提出する。なお、事前学習として、北河内地域の市の広報HPを閲覧しておくこと。
科目学習の効果(資格)	自分自身が学ぶ摂南大学の歴史を知り、また、地域で活躍する人びとの人生観に触れ、大学と地域に愛着を持ち学生生活の中で自分自身を見つける機会となり地域貢献活動への関心が高まり活動への動機付けが図られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	北河内の地歴と文化を学ぶ(1)	北河内地域の歴史的建造物について講義する。	事後学習：建造物とその時代背景などを調べ、北河内に関する理解を深めること。
3	北河内の地歴と文化を学ぶ(2)	淀川とその流域の北河内地域の地理・歴史や文化について講義する。地元の研究家が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、図書館を活用するなど淀川とその流域の地理・歴史や文化について理解を深めること。
4	北河内の地歴と文化を学ぶ(3)	都市(寝屋川市)と地方(和歌山県すさみ町)の連携をはかる取り組みを紹介し、両者が共存共栄するための考え方と具体的な施策について地元の方が解説する。	事後学習：寝屋川市と協定を結んでいる和歌山県すさみ町との協働事業について、それぞれのホームページを参照し、調べてみる。
5	北河内のまちを知る(1)寝屋川市	寝屋川市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と寝屋川市を見比べるほか、図書館を活用するなど寝屋川市の現状と課題について理解を深めること。
6	北河内のまちを知る(2)枚方市	枚方市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と枚方市を見比べるほか、図書館を活用するなど枚方市の現状と課題について理解を深めること。
7	北河内のまちを知る(3)交野市	交野市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と交野市を見比べるほか、図書館を活用するなど交野市の現状と課題について理解を深めること。
8	北河内のまちを知る(4)門真市	門真市のすがたの現状と課題、本学の学生に対する期待について講義する。市役所の幹部が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、ホームページで自分の住む街と門真市を見比べるほか、図書館を活用するなど門真市の現状と課題について理解を深めること。
9	北河内で活躍する人びとや団体を知る(1)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
10	北河内で活躍する人びとや団体を知る(2)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
11	北河内で活躍する人びとや団体を知る(3)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
12	北河内で活躍する人びとや団体を知る(4)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
13	北河内で活躍する人びとや団体を知る(5)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
14	北河内で活躍する人びとや団体を知る(6)	本学との交流関係が深い各種の団体・機関などが、地元での活動や本学学生に期待する活動内容について講義する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、団体・機関のホームページや図書館を活用するなどして活動を再確認し理解を深めること。
15	北河内の産業を知る	北河内地域での産業活動の具体例について講義する。地元の北大阪商工会議所や寝屋川市工業会の役員が講義を担当する。	事後学習：講義で学習した内容をもとに、関係するホームページや図書館を活用するなどして産業活動を再確認し理解を深めること。

関連科目	地理、歴史、文化、経済、産業などに関する教養科目
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の講義の最後に行う小テストまたはレポート（75%）に加えて、講義全体に関して課せられるレポート課題（25%）を総合して評価する。			
学生への メッセージ	<p>毎回必ず出席してください。地域で活躍されている各分野のいろいろな人の話を聞くことで、摂南大学と地域が密接につながっていること、そして自分もこの地域とのつながりを大切にすることの意義がわかるようになり、自信を持って本学での勉学に励むことができるようになります。</p> <p>なお、本講義は地域で活躍されている方々の協力のもとに行われます。講師に対する礼を逸することなく、私語を慎み、遅刻、居眠り、途中退室などをしないように心がけてください。態度が悪い学生は受講を認めないことがあります。</p>			
担当者の 研究室等	1号館9階 尾山教授室			
備考	<p>学外講師の事情により、授業計画の内容及び順序が変更になります。4月の第1回の講義時に説明します。</p> <p>学外講師の関係者が聴講することがあります。</p> <p>また、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。</p>			

科目名	経済学入門	科目名(英文)	Introduction to Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 和子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的 経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。

到達目標 経済学の基本的な考え方や用語を理解する。簡単なビジネス英単語を使えるようになる。

授業方法と留意点 基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。また、これらと並行して課題を課す。適宜、レジュメを配布する。

科目学習の効果(資格) 経済学的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	何故経済学を勉強するのか？経済学の対象と経済学的考え方	経済学とは何か、授業の進め方、成績評価について説明する	講義内容の復習
2	大きな社会問題、身近な経済問題(1)	アベノミクスとは何かなど、身近な経済問題について考える	テキストの復習
3	大きな社会問題、身近な経済問題(2)	グローバル化が経済にどのような影響を与えているのか考える：TPP交渉とミッキーマウスなど	テキストの復習
4	大きな社会問題、身近な経済問題(3)	日本財政の現状：世界一の財政赤字	テキストの復習
5	経済学的な発想とは(1)	効率とは？格差とは？衡平とは？	講義内容の復習、小テスト
6	経済学的な発想とは(2)	需要と供給の世界：マイクロ経済学(1)	講義内容の復習
7	経済学的な発想とは(3)	需要と供給の世界：マイクロ経済学(2)	講義内容の復習
8	経済学的な発想とは(4)	経済全体を丸ごとつかむ：マクロ経済学	講義内容の復習
9	財政について考える(1)	現代財政の3つの機能	講義内容の復習
10	まとめと中間テスト	中間テスト	講義内容の復習、中間テスト
11	財政について考える(2)	増税と公債	講義内容の復習
12	協力の科学としての経済学	ゲーム理論とは	講義内容の復習
13	為替レートの決まり方	為替で確実に儲ける方法？	講義内容の復習
14	成長戦略	イノベーションをどのように促進するか？	講義内容の復習
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習

関連科目 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教養としての経済学	一橋大学経済学部	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験、小テスト・中間テスト、授業への参加や発表に基づく総合評価による。

学生へのメッセージ 経済学で使う典型的な考え方や用語をマスターし、ビジネス英語が理解できるようになりましょう。疑問点・わからない点があれば授業中がかまいませんので聞いてください。

担当者の研究室等 1号館7階 後藤教授室(経済学部)

備考 受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。

科目名	芸術論	科目名(英文)	Fine Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的
芸術は作者、時代、思想などさまざまな要素から成り立っている。この講義では各時代の代表的な作品を鑑賞しながら、どうい社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法や技術の完成度はどうかなどを解説する。日本の美術や文化を知ることが、人生を豊かにするだけでなく、グローバル社会において自分を支える力になるだろう。

到達目標
日本美術の基本的な知識を修得する。教養として必要な程度の知識を身につけるとともに、美術や歴史への関心を高める。

授業方法と留意点
講義は常時スライドや教材表示装置を使用する。必要に応じノートに書き留めてもらいたい。

科目学習の効果(資格)
日本文化・美術に関する基本的な知識を身につける。学芸員資格に必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	奈良時代 飛鳥美術	仏教美術の伝来/法隆寺の美術/高松塚古墳壁画	飛鳥時代の歴史について調べておく
2	奈良時代 天平美術	興福寺・東大寺の仏像/正倉院の工芸	奈良時代の歴史について調べておく
3	平安時代 密教美術	図像/曼荼羅/密教彫刻	平安初期の歴史について調べておく
4	平安時代 浄土教美術	平等院/浄土教絵画	平安後期の歴史について調べておく
5	平安時代 絵巻物	源氏物語絵巻/信貴山縁起/伴大納言絵巻/鳥獣戯画	院政期の歴史について調べておく
6	鎌倉時代 鎌倉彫刻	運慶/快慶	鎌倉初期の歴史について調べておく
7	鎌倉時代 絵巻物	祖師絵伝絵巻/社寺縁起絵巻	鎌倉時代の歴史について調べておく
8	鎌倉時代 肖像画	頂相/似絵	鎌倉時代の歴史について調べておく
9	室町時代 水墨画	詩画軸/雪舟	室町時代の歴史について調べておく
10	桃山時代 金碧障壁画	狩野永徳/南蛮美術	桃山時代の歴史について調べておく
11	江戸時代 流派体制の確立	狩野探幽/土佐光起	江戸初期の歴史について調べておく
12	江戸時代 琳派の継承	俵屋宗達/尾形光琳	江戸前期の歴史について調べておく
13	江戸時代 錦絵の誕生	菱川師宣/鈴木春信	江戸前期の歴史について調べておく
14	江戸時代 写生派・文人画	円山応挙/与謝蕪村	江戸後期の歴史について調べておく
15	江戸時代 後期浮世絵	歌麿/写楽/北斎/広重	幕末の歴史について調べておく

関連科目
日本史・日本文化史

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	原色日本の美術		小学館
2	人間の美術	梅原猛	学習研究社
3			

評価方法(基準)
定期試験80%、小レポート20%

学生へのメッセージ
専用のノートを作り、毎回持参すること。博物館・美術館・寺・神社などに出かけて実際に美術を見に行ってください。

担当者の研究室等
7号館5階(岩間研究室)

備考

教養科目

科目名	健康科学	科目名(英文)	Health Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	我が国では、交通手段の発達や家事の自動化等により身体活動量が著しく低下しており、さらに食生活の欧米化等も影響して、生活習慣病にかかる人口は増加の一途をたどっている。一方で、うつ病等にかかる人口も激増しており、メンタルヘルスの保持増進も重要課題となっている。本講義では、学生諸君が在学中のみならず生涯にわたり心身の健康を維持・増進するため、健康に関して科学的な裏付けに基づいた知識を幅広く身につけ、講義内容を実践できる能力を身につけることを目的とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I]
到達目標	健康に関する幅広い知識を理解し、実生活に応用することができる。
授業方法と留意点	毎回の授業開始時にレジュメを配布する。授業終了後、課題を課すので次週の授業開始時に提出のこと。
科目学習の効果(資格)	

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	日本人の健康に関する現状を把握し、本講義の意義について述べる。	授業終了時に課題を提示する。
2	健康づくりの三本柱	健康づくりのための三本柱とされている「運動」「栄養」「休養」と、その相互作用について解説する。学生諸君は自身の生活について振り返り、改善すべき点があるか検討する。	授業終了時に課題を提示する。
3	身体の生理機能	食べたものはどこへいくか？吸った酸素はどこでどんな作用をするか？生体の生理について復習する。	授業終了時に課題を提示する。
4	運動トレーニングが肥満対策になる所以	メタボリック症候群の定義、その温床にある内臓肥満について解説する。また肥満、糖尿病、脂質異常症など生活習慣病について解説し、その予防になぜ運動トレーニングが効果的なのか、最新の知見と関連させて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
5	運動トレーニングで何が変わるか？	運動トレーニングにより、筋力増強、持久力向上、骨代謝、エネルギー代謝などが改善される。それらのメカニズムについて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
6	どんな運動(種類・時間・頻度)が健康によいのか？	第5回で解説した運動トレーニングの効果は、運動方法によってその作用が異なる。肥満解消、筋力増大、骨の増強など目的に応じたトレーニング方法について解説する。	授業終了時に課題を提示する。
7	基礎栄養学	各栄養素の種類や機能について解説する。日ごろの食生活を振り返り、改善すべき点があるか否か検討する。	授業終了時に課題を提示する。
8	食生活と健康	前回の内容を踏まえ、望ましい食事について「食事バランスガイド」に基づいて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
9	ダイエット計画	近年、性別や年齢による身体の見え方や中身(体重や体脂肪率など)の違いが明らかになっている。この違いを理解したうえで、望ましいダイエット方法について解説する。	授業終了時に課題を提示する。
10	女性の健康・男性の健康	性別による身体的特徴と性ホルモンの作用、さらに男女それぞれの加齢変化も踏まえて解説する。	授業終了時に課題を提示する。
11	ストレスマネジメント	近年増加しているうつ病について概説し、うつ病やメンタルヘルス、ストレス対策として運動が有効なのか、最新の知見を紹介しながら解説する。また他の精神障害についても概説する。	授業終了時に課題を提示する。
12	睡眠	睡眠がどのような役割を果たしているか解説する。日ごろの睡眠について振り返り、改善すべき点があるか否か検討する。	授業終了時に課題を提示する。
13	アルコールと喫煙、薬物、性感染症	アルコールやタバコ、薬物が身体にどのように影響を及ぼすか解説する。またHIVなど性感染症についても解説する。	授業終了時に課題を提示する。
14	高齢者の介護予防と運動	わが国は超高齢化社会となり、今後さらに高齢者人口が増大することが見込まれている。運動がなぜ介護予防に効果的なのか、解剖学・生理学の立場から解説する。	授業終了時に課題を提示する。
15	総括	本講義の総括と、健康に関する諸問題について考える。	本授業で習得した内容を総括。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、生涯スポーツ実習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末試験 50%、レポート 30%、授業態度 20%の割合で評価する。			
学生への メッセージ	皆さんが将来、知的職業人として社会で活躍するためには、まず心身の健康の保持増進が大切です。健康科学の基本を理解して、心身のセルフマネジメントができるようになることを希求します。			
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 藤林研究室			
備考	1) 毎回の課題は 1 時間以上かけて作成のこと。 2) 毎回の課題以外に、講義の予習復習として 30 分以上かけること。 3) 自主学習は試験の準備を含めて、20 時間かけること。			

科目名	健康論	科目名 (英文)	Health Care
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	現代社会の傾向として、身体活動の不足による体力の低下や生活習慣病、またストレスの増大に伴う心身の不適応現象などがあげられる。そこで本授業では、これらの諸問題に対処して、自ら心身の健康の維持・増進が図れるように学習する。また実生活に生かし、生活の質が向上することを目的とする。
到達目標	運動不足・生活習慣の乱れなどが起因する健康被害・精神の不調の原因を知的に理解することによって、今後の学生生活・社会生活を円滑に過ごせるよう心身を自己理解することができる。
授業方法と留意点	講義方式で授業を進める。なお、資料配布やVTRなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果 (資格)	この講義を受講することにより、健康な身体を取り戻すための第一歩を踏み出すことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	保健体育論についての概論	内容説明	健康度をチェックし把握しておく。
	2	健康とは (1)	健康観・ライフスタイルからみた健康の成り立ち	各自で健康観をまとめておく
	3	健康とは (2)	嗜好品との関わり	配布した資料を読んでおく
	4	健康とは (3)	食生活と健康	体脂肪 BMI を算出する
	5	日本人の大型化 (1)	急速な大型化	配布資料を算出する
	6	日本人の大型化 (2)	正しい栄養摂取	配布資料を算出する
	7	日本人の大型化 (3)	正しい運動処方	公害について調べる
	8	運動と健康	運動不足が引き起こす生活習慣病	生活習慣を調べる
	9	心とからだの健康 (1)	大脳・自立神経・ホルモン分泌の働き	配布資料を読んでおく
	10	心とからだの健康 (2)	からだの老化、心の老化	配布資料を読んでおく
	11	食育・食育	正しい栄養摂取	レポートを提出する
	12	免疫機能と健康	免疫のしくみ・歴史的感染症と新興感染症	配布資料を読んでおく
	13	健康と生きがい	生きがいの必要性	アンケートを答える
	14	ストレス	ストレス社会での健康法	休養の必要性をまとめる
	15	まとめ	前期講義の理解度の確認(小テスト)	全体の要点を説明する

関連科目	スポーツ科学実習 I・II
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト及びレポート(60%)と授業態度(40%)の総合点で評価する。
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	質問などがある場合は、総合体育館1階事務室へ来てください。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	総合体育館1階 体育館事務室
----------	----------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	現代社会と法	科目名(英文)	Law in Contemporary Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 このような法の特徴と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々な法規範を適用ないし運用する上で、当該法規範の趣旨を確認し、さらにその修正規範を確実におさえる。 民事法と刑事法の違いについて、具体的に他者に説明できるようにする。 身近な事例について法学的アプローチをすることができるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義形式によるが、教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	家族関係と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> 婚姻とその不当破棄 内縁と重婚の内縁関係 婚姻の効果 婚姻費用 日常家事債務 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	家族関係と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> 離婚 協議離婚と調停離婚 裁判離婚 離婚原因 有責配偶者の離婚請求ほか 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	家族関係と法(3)	<ul style="list-style-type: none"> 親子 認知と非嫡出子 親族間の扶養 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	家族関係と法(4)	<ul style="list-style-type: none"> 相続 遺留分 寄与分 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	財産関係と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> 契約と意思表示 契約と当事者 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	財産関係と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> 債務不履行と危険負担 契約の解除 瑕疵担保責任 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	財産関係と法(3)	<ul style="list-style-type: none"> 事務管理と不当利得 不法行為 使用者責任 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	医療と法	<ul style="list-style-type: none"> 医療契約 医療過誤 専断的医療行為 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	消費者と法	<ul style="list-style-type: none"> 訪問販売 マルチ商法 ローンとクレジット契約 製造物責任法 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	職場と法	<ul style="list-style-type: none"> 労働法とは何か 労働紛争の諸類型 ブラック企業 非正規雇用の問題点 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	犯罪と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> 刑法の意義 罪刑法定主義とその派生原則 犯罪論 緊急行為 未遂と共犯 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
13	犯罪と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> 逮捕と勾留 捜索と差押 公訴の提起 少年法の特例 死刑をめぐる諸問題 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	人権と国際法	<ul style="list-style-type: none"> 立憲主義と憲法 自由権と社会権 国際関係と紛争 集团的自衛権 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	法の適用、法源及び法の解釈	<ul style="list-style-type: none"> 制定法と慣習法 判例・学説・条理 概念法学と自由法学 文理解釈と論理解釈 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎からわかる法学(第2版)	谷口 貴都=松原 哲	成文堂

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己＝加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 （基準）	・原則として定期試験の得点により評価するが、質疑応答をした場合はその内容を得点にプラスの方向で反映させる。			
学生への メッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	・受講生の興味や関心に応じて、例えば、刑事法や家族法分野を増やすなど、講義内容を多少変更することがある。			

科目名	社会と人権	科目名(英文)	Human rights and Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一, 林田 敏子, 松島 裕一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>本科目は、人間が人間として尊重されるということの意味を、具体的な生活や行動と関わらせて考えること、またそのような思索の成果を実際の生活や行動に反映させることを目的とし、そのための知識や見方・考え方を受講生に提示する。</p> <p>本年度は、有馬(倫理学)、林田(西洋史)、松島(法哲学)を専門する教員が、それぞれ4ないし5回ずつ授業を行う。</p>
到達目標	<p>本授業を履修した学生は、次の項目について一定水準に達することが期待されます。</p> <p>① 社会と人権にかかわる事柄について倫理的観点から説明できる ② 社会と人権にかかわる事柄について西洋史的観点から説明できる ③ 社会と人権にかかわる事柄について法哲学的観点から説明できる ④ 社会と人権にかかわる事柄について、具体的な自分の生活と行動の場面に即して考えることができる</p>
授業方法と留意点	(有馬担当分) 板書・配付資料による講義形式。 (林田担当分) 板書・配布資料による講義形式。少人数であればディスカッションもおこないます。
科目学習の効果(資格)	人権問題について、印象論ではなく、正確な知識に基づいた理解を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「社会と人権について考える」ことを考える	担当者:松島、有馬、林田 ・授業内容・評価方法についての確認 ・社会と人権について履修生がどのような考え方をもっているかの確認	【事後学習】 人権にかかわるニュースを幅広く収集する(1時間)
2	自由と自己決定	担当者:松島 日本国憲法にはさまざまな自由権が規定されていますが、そもそも「自由」とは何でしょうか? J・S・ミルやI・バーリンらの議論を手掛かりにしなが、人権概念の根幹をなす「自由」というものの本質について考えてみます。	【事後学習】 パターナリズムにかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
3	表現の自由とその限界	担当者:松島 近年日本で社会問題になっているヘイトスピーチは、そもそも表現の自由(憲法21条)で保障される発言なのでしょうか? アメリカとドイツの法規制の違いを手がかりにして、表現の自由の限界について考えてみたいと思います。	【事後学習】 ヘイトスピーチにかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
4	格差社会における「平等」	担当者:松島 「自由」と並び、「平等」は人権概念の根幹をなす重要な概念ですが、そもそも平等とは何なのでしょう? J・ロールズやR・ドゥオーキンらの議論を手がかりにして、平等の本質について考えてみたいと思います。	【事後学習】 積極的差別是正措置にかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
5	動物の権利	担当者:松島 人権とはもちろん「人」に保障される権利ですが、それでは、人以外の「動物」にはいっさい権利が認められないのでしょうか? ビーター・シンガーの議論を手がかりにして、「動物の権利」について考えてみたいと思います。	【事後学習】 動物実験の是非にかんする具体的な設問を提示しますので、授業中にその問題について皆で議論し、後日レポート1000字程度を提出してください。(4時間)
6	人工妊娠中絶の是非をめぐって(1)	担当者:有馬 ・人工妊娠中絶をめぐる「プロ・ライフ」(中絶反対派)と「プロ・チョイス」(中絶擁護派)の論争とその社会的背景について解説をする。 ・トムソンの論文について解説をした上で、トムソンの主張について周囲の学生とディスカッションをする。	【事前学習】 「プロ・ライフ」、「プロ・チョイス」という言葉の意味を調べておく。 【事後学習】 トムソンの主張についての自分の考えをまとめて、レポートを提出する。(合計4時間)
7	人工妊娠中絶の是非をめぐって(2)	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ。 ・パーソン論と人工妊娠中絶問題とのつ	【事前学習】 パーソンという言葉の意味を調べてくる。 【事後学習】 トゥーリの主張について自分の考えをまとめて、レ

			ながりを説明する。 ・トゥーリの論文について解説をした上で、トゥーリの主張についてディスカッションをする。	レポートを提出する。 (合計4時間)																
8	安楽死をめぐる(1)	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ ・終末期医療における人権問題の概要 ・日本における「尊厳死」の問題について解説をする。		【事前学習】 日本尊厳死協会のホームページを読んでおく。 「安楽死」、「尊厳死」という言葉の意味を調べておく。 【事後学習】 安楽死と尊厳死の違いについて、概念整理をして、レポートを提出する。 (合計4時間)																
9	安楽死をめぐる(2)	担当者:有馬 ・前回のディスカッションのまとめ ・「死ぬ権利」に対するオランダやベルギーの考え方を紹介する。 ・安楽死の是非についてディスカッションをする。		【事前学習】 安楽死に関係する海外のニュースを調べておく。 【事後学習】 安楽死についてのオランダ、ベルギーの考え方について、自分なりの意見をまとめて、レポートを提出する。 (合計4時間)																
10	生きることと善く生きること	担当者:有馬 「善く生きる」とはどのようなことを考えます。		【事前学習】 『ソクラテスの弁明』を通読しておく。 (3時間)																
11	女性と人権	担当者:林田 ・差別と区別 ～女性専用車両をめぐる～ ・「女らしさ」と「男らしさ」		【事前学習】 「女性と人権」という言葉から連想する社会問題を列挙し、もっとも興味のあるものについて自分の意見をまとめてくる。(4時間)																
12	人権宣言の歴史的背景	担当者:林田 ・人権概念の歴史的生成過程～アメリカ独立宣言を中心に～ ・もう一つのフランス革命～オランブ・ドゥ・グージュの「女性の人権宣言」～		【事後学習】 人権宣言の画期的な点と、「残された問題」についてまとめる。(4時間)																
13	女性は戦争をどう「戦った」か	担当者:林田 ・犠牲者としての女性 ・戦いを鼓舞する女性		【事後学習】 「戦争があぶりだすジェンダー問題」についてまとめる。(4時間)																
14	戦場における女性	担当者:林田 ・「戦う」女性～募兵運動、兵器製造、従軍～ ・女性兵士をめぐる		【事後学習】 「女性兵士」の是非をめぐる議論の要点をまとめてくる。(4時間)																
15	「ジェンダー・フリー」の罨	担当者:林田 セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスから女性専用車両にいたるまで、身近にあるジェンダー問題を通して、ジェンダー・フリーへ向けた取り組みが抱える問題について考える(ディスカッションもしくは、小発表形式)。		【事前学習】 3回の授業内容を踏まえ、ディスカッション(もしくは小発表)の内容を踏まえて、自分の考えをまとめる。(4時間)																
関連科目	法学などのさまざまな科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	3名の担当者が課す課題を100点満点で評価し、その平均点で評価します。 それぞれの担当者の評価方法については、授業計画で確認ください。																			
学生へのメッセージ	教室に来て、座って聞いているだけでも、もちろんためになります。それだけではなく、自分で考えてもらうための作業をたくさん行います。																			
担当者の研究室等	有馬(7号館4階) 林田(7号館4階) 松島(11号館9階)																			
備考	有馬担当 参考図書 加藤・飯田編 『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会 三井美奈 『安楽死のできる国』 新潮新書																			

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準): 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ: 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考: 7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西座 由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松田 剛典
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西座 由紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	2	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	3	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	4	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	5	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	6	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	7	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	8	テスト	中間テスト	2~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	9	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	11	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	12	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	13	論理	ブラックボックス・物の流れ	ブラックボックス・物の流れについて復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

評価方法(基準): 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ: 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考: 7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をおこなしましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講座の目的・意義	シラバス熟読
	2	テスト	実力確認テスト	シラバス熟読
	3	方程式	方程式	方程式を復習しておくこと
	4	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと
	5	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと
	6	分数問題	仕事算・分割払い	文章題による仕事算・分割払いについて復習しておくこと
	7	金銭問題	損益算	文章題による損益算について復習しておくこと
	8	場合の数・確率	場合の数・確率	文章題による場合の数・確率を復習しておくこと
	9	テスト	中間テスト	2~8回目の範囲を事前に勉強しておくこと
	10	集合・領域	集合の基礎・領域	集合・領域を復習しておくこと
	11	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと
	12	論理	命題・推論①	命題について復習しておくこと
	13	論理	推論②	推論について復習しておくこと
	14	総復習	総復習①	全ての範囲を事前に勉強しておくこと
	15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと

関連科目: キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校6年間の算数が6時間でわかる本	間地 秀三	PHP 研究所
	2			
	3			

評価方法(基準): 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ: 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をおこなしましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等: 7号館3階 キャリア教育推進室

備考:

科目名	食品機能学	科目名(英文)	Functional Food Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	青笹 治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系(体調リズム)、神経系(精神の高揚や鎮静)などの生体機能の調節に関与する機能性食品の特性についての知識を習得する。本講義では、食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。また、がんや老化に加え、肥満、高血圧、脂質異常症(高脂血症)、糖尿病などの生活習慣病を取り上げ、食生活とヒトの健康のかかわりについて習得する。 学科の学習・教育目標との対応:[A],[F]			
到達目標	食品に含まれる栄養・機能成分が列挙でき、それぞれ生体調節機能と、ヒトの健康との係わりについて説明できる。			
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、板書・プロジェクターにより講義を行う。 中間試験を行う。 1回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明する。			
科目学習の効果(資格)	食品成分の機能についての知識が得られ、健康と食生活とのかかわりが理解できるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	食品とは	食品の特性、一次機能(栄養素)、二次機能(味、食感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	2	機能性食品	保健機能食品、特別用途食品および健康食品など、新しい食品の形態や制度について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	3	活性酸素	活性酸素の生成メカニズムについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	4	活性酸素と疾病、がん、および老化	活性酸素と疾病、がん、および老化などの関連について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	5	抗酸化(活性酸素除去)機能	ポリフェノールなど抗酸化物質と、それら含む抗酸化機能性食品らについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	6	消化、吸収のメカニズム	消化、吸収のメカニズムとミネラルについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	7	消化吸収促進と代謝改善機能	ミネラル吸収機能食と、大豆イソフラボンなどの代謝改善機能食品について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	8	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品および乳酸菌類について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	9	脂質関連代謝機能	n-3系脂肪酸とn-6系脂肪酸、ジアシルグリセロールおよび中左脂肪酸について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	10	コレステロールの吸収・代謝	コレステロールの吸収・代謝と共役リノールについて解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	11	血圧、消化酵素阻害と糖尿病	レニン・アンジオテンシン系と血圧、消化酵素阻害と糖尿病について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	12	酵素阻害、酵素活性機能	血圧が高めのヒトのための食品、血糖値が気になり始めた人に適した食品、肥満の人のための食品および酵素活性化について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	13	免疫機能におよぼす機能	我が国における食物アレルギー患者の現状と、その発症機構および免疫機能を活性化する食品成分について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	14	神経系におよぼす機能	カプサイシン、γ-アミノ酸、杜仲葉における有用成分、食品タンパク質から得られる鎮静効果のあるペプチドなどの機能について解説する。	事前に教科書を学習し、講義後、復習する。
	15	演習	総復習	事前に、これまでの講義内容について整理しておく。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	臨時試験(50%)、中間試験(30%)、講義に取り組む姿勢(20%)により、総合的に評価する。 講義に取り組む姿勢を重視する。			
学生へのメッセージ	本講義により、健康と食生活とのかかわりについての知識が得られます。授業では、理解度を確認するために演習問題に取り組んでもらいます。積極的に参加して下さい。 1回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明します。履修する場合は、必ず、出席してください。			

担当者の 研究室等	1号館8階 環境分析学(青笹) 研究室
備考	

科目名	数学	科目名(英文)	Mathematics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業で扱う題材は、高校までに一度は勉強したことのある算数や数学が中心です。授業では、そのような題材の、復習や日常生活の中に現れている例や関連する問題を紹介しながら、「考え、そして表現する」ことを行なってもらいます。授業を重ねるにつれ、「考えることは結構楽しい」「数学も悪くない」と思えるようになってもらうことが目的です。
到達目標	日常生活での問題の中には、数学的な思考が役に立つこともあります。そのような考え方の例を知り、実際の問題において応用しようと試みられるようになること、が到達目標です。
授業方法と留意点	与えられた問題について、まず問題設定を聴き、次にいろいろ考え、さらに考えたことを発表し、最後に解説を聴く、というような「よく聴き、よく考え、そして理解する」を1コマで行なってもらいますので、講義を通じて高い集中力が要求されます。
科目学習の効果(資格)	公務員試験の「数的推理」「判断推理」やSPIの非言語問題などの対策に効果があると思います。

教養科目

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	数と式、因数分解	計算テクニックをいくつかを紹介します。どれも易しく説明できます。	講義で扱ったテクニックを実生活でも使ってみよう。
2	平面幾何	主に中学校までで勉強した平面幾何について振り返ります。それをふまえて、「変な」命題を紹介します。	三角形の合同条件など、三角形について知っていることを確認しておこう。	
3	一次関数	一次関数について振り返ります。それをふまえて、一見一次関数と関係ないような変わった話題を紹介します。	一次関数について今までに勉強してきたことを復習しておこう。	
4	二次関数	二次関数のグラフの形は放物線です。放物線の性質について紹介します。	身の回りの放物線の形をしているものを探してみよう。	
5	確率	確率について振り返ります。応用として条件付き確率も扱います。	確率の計算の考え方を復習しておこう。	
6	指数	指数の定義と性質について振り返り、指数に関連する日常的な問題を考えてみます。	身の回りの指数に関連する事柄を探してみよう。	
7	対数	対数の定義と性質について振り返り、対数に関連する日常的な問題を考えてみます。	身の回りの対数に関連する事柄を探してみよう。	
8	数列	等差数列や等比数列について振り返り、SPIなどで実際に出題されている数列の問題を考えてみます。	数列に関するSPIの問題にチャレンジしてみよう。	
9	Σ記号と数学的帰納法	前回の数列と関連して、Σ記号と数学的帰納法を扱います。	Σ記号とはどのような記号なのか、数学的帰納法とはどのような証明方法なのか、復習しておこう。	
10	整数	約数や倍数、素数や素因数分解など、整数に関することを扱います。	約数、倍数、素数、素因数分解など整数に関して知っている用語の意味を確認しておこう。	
11	命題	命題に関することを振り返り、命題を証明する方法の1つである「背理法」を用いるような問題を考えてみます。	背理法とはどのような証明方法なのか、復習しておこう。	
12	パリティ	ちょっとした発想の転換で解決する問題は結構あります。そうしたコツの1つにパリティがあることを紹介します。	パリティとは何か、調べておこう。	
13	算数における「なぜ？」	算数において疑問に思われることが多そうな話題を取り上げてみます。	今では開けない(?)算数や数学での素朴な疑問はなかったか、思い出してみよう。	
14	無限	無限をテーマにした、変わった話題を紹介します。	応用問題をレポート課題として出題します。	
15	講義のまとめ	授業全体のまとめと課題の解答、解説をします。	レポート課題を提出して下さい。	

関連科目	特にありません。
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点とレポートを勘案して評価します。授業での発表など、授業に対して積極的に取り組む姿勢を平常点として評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	授業計画では、テーマも内容・方法等も思わせぶりなことしか書いていませんので、それだけ読んでもよくわからないことが多いと思います。実際にどのような内容なのか、好奇心を持って授業に臨んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階(数学研究室)
----------	--------------

備考	1時限の授業ですが、遅刻や居眠りは厳禁です。
----	------------------------

科目名	住まいとデザイン	科目名(英文)	Design and Living Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平田 陽子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	古来より人間は自然の力をかりて暮らしてきており、そこには多くの知恵と工夫を見ることができる。この授業では、インテリア・住宅・建築・まちを対象として、住まい方・デザイン・環境などに関するさまざまな事例を紹介しながら、デザイン性に優れた心地の良い空間を創り出し、快適・安全に暮らすための工夫や知恵について説明する。 将来、住み手の立場として必要となる基礎知識を身につけることが目標である。
到達目標	将来、住み手の立場で、住宅を購入したり借りるようになった時に必要な基礎知識を身につけ、賢い消費者となることを目指す。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。
科目学習の効果(資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	子どものための生活空間	子どもの成長・発達段階を踏まえて、どのような生活空間が望ましいかについて学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。また、近年の遊び場の状況についても考えてみよう。
3	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	高齢者の生活環境の広がり と支援	高齢者の外出行動、生活環境の広がり と求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	住宅とまちの関係	地区の文脈を継承しつつ持続的に変容して いく住まいとまちについて、生活の質とは何か、継承と変化がもたらすそれぞれの課題について考えていく。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	福祉住環境のデザイン	人々は自立的な生活を営むために、常に 他者の助けを必要としている。その住むこと の多様性を支える場のあり方を福祉住環境 のデザインを通して探っていく。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	自然の力をかりた住宅デザイン	古代より人間は自然と共生するために さまざまな工夫をこらした。世界各地に おけるそれらの住まいの事例を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	CGを用いた空間デザイン	CG (Computer Graphics) を用いて空間 を表現する手法についての基礎的な知識 と身近な事例について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	安心・安全な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法 についての基礎的な知識と、計画手法を 学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	インテリアの照明計画	インテリアデザインにおける照明の役割 と、さまざまな照明計画手法を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	生活の中における香の活用	屋内外の香りと人との関わりのはなし から、香りの人への心理生理的影響や香 りの積極的な利用方法について学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	日本における木造住宅の考 え方	日本の木造住宅はどのように変化して きたのか。その過去と未来を材料・構 造・文化的側面から理解し、今後どのよ うに進化させるべきかに役立てる。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	世界の住宅：デザイン・材 料・構法・文化	世界各地の住宅はなぜそのようなデザ インをしているのか。材料の制約が新し い構法を生み、新しい表現を建築文化に もたらしてきた事例を学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	冷暖房システムのエコ技術	日本の気候風土と冷暖房システムの現 状を再考し、今後の暮らしのあり方につ いて学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	都市デザインにおけるエコ 技術	ヒートアイランド対策をはじめとする、 都市デザインにおけるエコ技術につ いて学ぶ。	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	各講義ごとに講義メモの提出やレポート課題の作成が課せられる。または小テストが行われる場合もある。それらを合わせて評価する。		
学生への メッセージ	自分の周りにある住宅や建物、街並みなどを興味を持って眺めて下さい。また、室内の家具や照明などにも目を向けてください。きっと新しい発見があることでしょう。		
担当者の 研究室等	12号館7階(平田研究室)		
備考			

科目名	生活のなかの数学	科目名(英文)	Mathematics in Daily Life
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業で扱う題材は、高校までに一度は勉強したことのある算数や数学が中心です。授業では、そのような題材の、復習や日常生活の中に現れている例や関連する問題を紹介しながら、「考え、そして表現する」ことを行なってもらいます。授業を重ねるにつれ、「考えることは結構楽しい」「数学も悪くない」と思えるようになってもらうことが目的です。
到達目標	日常生活での問題の中には、数学的な思考が役に立つこともあります。そのような考え方の例を知り、実際の問題において応用しようと試みられるようになること、が到達目標です。
授業方法と留意点	与えられた問題について、まず問題設定を聴き、次にいろいろ考え、さらに考えたことを発表し、最後に解説を聴く、というような「よく聴き、よく考え、そして理解する」を1コマで行なってもらいますので、講義を通じて高い集中力が要求されます。
科目学習の効果(資格)	公務員試験の「数的推理」「判断推理」やSPIの非言語問題などの対策に効果があると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	数と式、因数分解	計算テクニックをいくつかを紹介します。どれも易しく説明できます。	講義で扱ったテクニックを実生活でも使ってみよう。
2	平面幾何	主に中学校までで勉強した平面幾何について振り返ります。それをふまえて、「変な」命題を紹介します。	三角形の合同条件など、三角形について知っていることを確認しておこう。
3	一次関数	一次関数について振り返ります。それをふまえて、一見一次関数と関係ないような変わった話題を紹介します。	一次関数について今までに勉強してきたことを復習しておこう。
4	二次関数	二次関数のグラフの形は放物線です。放物線の性質について紹介します。	身の回りの放物線の形をしているものを探してみよう。
5	確率	確率について振り返ります。応用として条件付き確率も扱います。	確率の計算の考え方を復習しておこう。
6	指数	指数の定義と性質について振り返り、指数に関連する日常的な問題を考えてみます。	身の回りの指数に関連する事柄を探してみよう。
7	対数	対数の定義と性質について振り返り、対数に関連する日常的な問題を考えてみます。	身の回りの対数に関連する事柄を探してみよう。
8	数列	等差数列や等比数列について振り返り、SPIなどで実際に出題されている数列の問題を考えてみます。	数列に関するSPIの問題にチャレンジしてみよう。
9	Σ記号と数学的帰納法	前回の数列と関連して、Σ記号と数学的帰納法を扱います。	Σ記号とはどのような記号なのか、数学的帰納法とはどのような証明方法なのか、復習しておこう。
10	整数	約数や倍数、素数や素因数分解など、整数に関することを扱います。	約数、倍数、素数、素因数分解など整数に関して知っている用語の意味を確認しておこう。
11	命題	命題に関することを振り返り、命題を証明する方法の1つである「背理法」を用いるような問題を考えてみます。	背理法とはどのような証明方法なのか、復習しておこう。
12	パリティ	ちょっとした発想の転換で解決する問題は結構あります。そうしたコツの1つにパリティがあることを紹介します。	パリティとは何か、調べておこう。
13	算数における「なぜ？」	算数において疑問に思われることが多そうな話題を取り上げてみます。	今では開けない(?)算数や数学での素朴な疑問はなかったか、思い出してみよう。
14	無限	無限をテーマにした、変わった話題を紹介します。	応用問題をレポート課題として出題します。
15	講義のまとめ	授業全体のまとめと課題の解答、解説をします。	レポート課題を提出して下さい。

関連科目	特にありません。
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点とレポートを勘案して評価します。授業での発表など、授業に対して積極的に取り組む姿勢を平常点として評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	授業計画では、テーマも内容・方法等も思わせぶりなことしか書いていませんので、それだけ読んでもよくわからないことが多いと思います。実際にどのような内容なのか、好奇心を持って授業に臨んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階(数学研究室)
----------	--------------

備考	1時限の授業ですが、遅刻や居眠りは厳禁です。
----	------------------------

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名(英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマニエールの授業であり、青少年育成ファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																		
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																		
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>活動受入機関は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業である。</p> <p>① 活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ② 守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③ 安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④ 救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ ⑤ 安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥ コミュニケーションスキルA：対象者理解、人のかかわり方を学ぶ ⑦ コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧ コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨ コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方 ⑩ 活動プログラミング・スキル：課題設定・企画立案・実施・評価方法 ⑪ 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践 ⑫ 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2015年1月・2月に実施済）に授業担当者（外国語学部・浅野教授）から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																		
備考																			

科目名	生命と物質	科目名(英文)	Life and Physical Matters
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 哲郎
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	授業内容はほぼヒトの生体の話である。生体内とはとりもなおさず、10の器官系からなる我々の体の中のしくみと働きである。しかしながら、案外、我々は自分の体の中で行われていることを知らない。この半年間、生物学のうちで最も身近な対象である人体の構造・生理を中心に解説し、併せて最近話題となっているトピックスについて解説する。
到達目標	新聞・ニュース等で解説される生物学の用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。授業中に理解してしまえば、特に新たな勉強は必要ない。
科目学習の効果(資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
	2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約60兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシヤボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
	8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	12	生殖系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖系の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	13	生殖系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖系のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
	15	習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目 自然科学 II と連動している。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新生物図表		浜島書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 小テストを40%、臨時テストを40%および授業態度を20%で評価する

学生へのメッセージ 社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。

担当者の研究室等 枚方・薬学部6号館3階病理学研究室1

備考

講義後の復習（ノートをまとめ、重要単語を暗記する1時間X15回）。



科目名	世界の政治	科目名(英文)	World Politics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	椿原 敦子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	国際政治についての基礎的理解は、グローバル化の影響を日常生活レベルで受ける今日、日本で生活する上でも欠かせないものです。メディアで報道される事件について、解説を鵜呑みにしたり、感情的に反応するのではなく、なぜその事件が報じられるのか、誰にどんなインパクトを与えるのかといった次元で冷静に分析するメディア・リテラシーを養いながら、自分の意見を述べる力を伸ばします。																																																																		
到達目標	国際政治を理解する上での基礎的な用語を習得し、それを用いて時事問題を説明できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	新聞の国際面で報じられる出来事を様々な角度から理解し、分析する能力を養うことが本講座のねらいです。そのため、以下の訓練を授業の中・および授業外の作業を通じて行います。 1) ニュースの重要性をはかり、情報の取捨選択をする 2) 他の知識・情報との関連を説明する 3) まとまった長さの文章を短時間で書く また、毎回の講義でいくつかのキーワードを提示し、次の回に小テストを行います。簡潔に説明できるように準備してください。																																																																		
科目学習の効果(資格)	グローバル化時代に必要な情報を収集・分析し、ビジネスや日常生活に活かせるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業の進め方、授業目標についてのガイダンス</td> <td>レポートの作成(課題は講義にて指示)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>メディアと国際政治</td> <td>提出されたレポートへのコメントと討論</td> <td>小テスト準備(キーワードの整理)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>イデオロギーとユートピア(1)</td> <td>ナショナリズム、国家、主権</td> <td>小テスト準備(キーワードの整理)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>イデオロギーとユートピア(2)</td> <td>権威主義、全体主義</td> <td>小テスト準備(キーワードの整理)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>イデオロギーとユートピア(3)</td> <td>人権、民主主義</td> <td>レポートの作成(課題は講義にて指示)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>文明の衝突(1)</td> <td>植民地主義</td> <td>小テスト準備(キーワードの整理)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>文明の衝突(2)</td> <td>冷戦、東西ブロック</td> <td>小テスト準備(キーワードの整理)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>文明の衝突(3)</td> <td>ポスト冷戦</td> <td>レポートの作成(課題は講義にて指示)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>グローバル化と国家(1)</td> <td>グローバリゼーション、ネオリベラリズム</td> <td>小テスト準備(キーワードの整理)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>グローバル化と国家(2)</td> <td>移民、難民</td> <td>小テスト準備(キーワードの整理)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>グローバル化と国家(3)</td> <td>環境、開発</td> <td>レポートの作成(課題は講義にて指示)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>戦争と平和(1)</td> <td>安全保障</td> <td>小テスト準備(キーワードの整理)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>戦争と平和(2)</td> <td>紛争</td> <td>小テスト準備(キーワードの整理)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>戦争と平和(3)</td> <td>テロリズム</td> <td>レポートの作成(課題は講義にて指示)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総論</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方、授業目標についてのガイダンス	レポートの作成(課題は講義にて指示)	2	メディアと国際政治	提出されたレポートへのコメントと討論	小テスト準備(キーワードの整理)	3	イデオロギーとユートピア(1)	ナショナリズム、国家、主権	小テスト準備(キーワードの整理)	4	イデオロギーとユートピア(2)	権威主義、全体主義	小テスト準備(キーワードの整理)	5	イデオロギーとユートピア(3)	人権、民主主義	レポートの作成(課題は講義にて指示)	6	文明の衝突(1)	植民地主義	小テスト準備(キーワードの整理)	7	文明の衝突(2)	冷戦、東西ブロック	小テスト準備(キーワードの整理)	8	文明の衝突(3)	ポスト冷戦	レポートの作成(課題は講義にて指示)	9	グローバル化と国家(1)	グローバリゼーション、ネオリベラリズム	小テスト準備(キーワードの整理)	10	グローバル化と国家(2)	移民、難民	小テスト準備(キーワードの整理)	11	グローバル化と国家(3)	環境、開発	レポートの作成(課題は講義にて指示)	12	戦争と平和(1)	安全保障	小テスト準備(キーワードの整理)	13	戦争と平和(2)	紛争	小テスト準備(キーワードの整理)	14	戦争と平和(3)	テロリズム	レポートの作成(課題は講義にて指示)	15	総論		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方、授業目標についてのガイダンス	レポートの作成(課題は講義にて指示)																																																																
2	メディアと国際政治	提出されたレポートへのコメントと討論	小テスト準備(キーワードの整理)																																																																
3	イデオロギーとユートピア(1)	ナショナリズム、国家、主権	小テスト準備(キーワードの整理)																																																																
4	イデオロギーとユートピア(2)	権威主義、全体主義	小テスト準備(キーワードの整理)																																																																
5	イデオロギーとユートピア(3)	人権、民主主義	レポートの作成(課題は講義にて指示)																																																																
6	文明の衝突(1)	植民地主義	小テスト準備(キーワードの整理)																																																																
7	文明の衝突(2)	冷戦、東西ブロック	小テスト準備(キーワードの整理)																																																																
8	文明の衝突(3)	ポスト冷戦	レポートの作成(課題は講義にて指示)																																																																
9	グローバル化と国家(1)	グローバリゼーション、ネオリベラリズム	小テスト準備(キーワードの整理)																																																																
10	グローバル化と国家(2)	移民、難民	小テスト準備(キーワードの整理)																																																																
11	グローバル化と国家(3)	環境、開発	レポートの作成(課題は講義にて指示)																																																																
12	戦争と平和(1)	安全保障	小テスト準備(キーワードの整理)																																																																
13	戦争と平和(2)	紛争	小テスト準備(キーワードの整理)																																																																
14	戦争と平和(3)	テロリズム	レポートの作成(課題は講義にて指示)																																																																
15	総論																																																																		
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	小テスト20%、講義課題レポート30%、最終レポート50% 受講生の人数によっては、評価方法を変更することがあります。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等																																																																			
備考																																																																			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法及び留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。

科目学習の効果(資格)	ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ	ダイバーシティをイメージしてみましょう。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	私たちの周りにある伝統や習慣について考えてみましょう。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学	フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて考えてみましょう。
4	日本の近代化	・明治の落とし物	明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習とは何かを考えてみましょう。
5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	国際的な統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えてみましょう。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	性役割を理解し、幼児期から振り返ってみましょう。
7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考えてみましょう。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	日本と世界を比較しながら、女性労働について考えてみましょう。
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べてみましょう。
10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	アサーティブネス理論を学びましょう。
11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	スキルを身に付けることで、実生活に活かしてみよう。
12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	男女共同参画社会に関して調べましょう。
13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較	発展している企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究してみよう。
14	ダイバーシティ・マネジメント②	・プレゼンテーション	事例研究した内容をプレゼンテーションできるようにしましょう。
15	まとめ		

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	共に学ぶ女性学 ー明日を共に生きるためにー	石井三恵	泉文堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	ロールプレイ(30%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。事例を通して体験しながら、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)
----------	---------------------

備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。
----	---

教養科目

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動I」を初めて履修する学生を対象とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月8日水曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月15日水曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月22日水曜日6時限目:1134教室)「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中旬・スカイラウンジにおいて)各自活動報告をする。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3のみ水曜日6時限目に教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(鳥居研究室)																
備考	事前授業を4月8日 第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はサービラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適正を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、昨年度「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみが登録できる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前教育1 (4月8日水曜日6時限目:1134教室) 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前教育2 (4月15日水曜日6時限目:1134教室) マナー講座・小中学校の教育現場について(学外講師を含む)</p> <p>事前教育3 (4月22日水曜日6時限目:1134教室)「守秘義務」の意味とその内容について(教育委員会からの学外講師)</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 (1月中旬・スカイラウンジにおいて)各自活動報告をする。</p> <p>※注意事項 事前教育1~3のみ水曜日6時限目に教室で授業。事前教育授業に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室) 7号館4階(浦野研究室) 7号館3階(鳥居研究室)																		
備考	事前授業を4月8日 第6時限目1134教室で行います。必ず出席してください。																		

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1] チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果 (資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク (予定) ・チームの10カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームを機能させるために必要なこと	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	配布資料を精読する。
5	チームビルディングを身につけるためのアクティビティ①	・チームでワークに取り組み、情報の読み取りと活用、合意形成を学ぶ	配布資料を精読する。
6	チームビルディングを身につけるためのアクティビティ②	・チームでワークに取り組み、情報の読み取りと活用、合意形成を学ぶ	配布資料を精読する。
7	ビジネス記事を活用したディスカッション①	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返る。
8	メンバーを支援する	・質問だけで話し合いを進める ・ヒーローインタビュー	入学から今までを振り返って「最も達成した事柄」を思い出しておく。
9	チームでプロジェクトを企画する	・第二回チーム分け ・自己紹介ワーク ・チームでプロジェクトを企画する	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
13	プロジェクトのプレゼンテーション	第9回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
14	チーム力を上げる	・メンバーの力でチーム全体の力を上げる方法を考える	講義後日常生活で活かせるような箇所を実践する。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト
------	-----------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	チームでの提出物30%、ワーク後の振り返りシート20%、授業態度20%、最終レポート30% で総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室 (水野研究室)
----------	-------------------------

備考	
----	--

科目名	哲学から学ぶ	科目名(英文)	Philosophy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学的に問うことの本質を明らかにしながら、いくつかの哲学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。
到達目標	哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々の哲学的なテーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。また、必要に応じて資料を配付する。
科目学習の効果(資格)	哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義へのイントロダクション	哲学とは何かについて解説をする。 古代ギリシアにおける哲学 近代哲学における精神と物質の二元論 現代哲学の諸課題	哲学に対する自分なりのイメージをまとめておく。
2	知識について(1)	どうやって私たちは何かを知るのだろうか。 経験論と合理論	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
3	知識について(2)	科学と哲学との対立と対話	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
4	知識について(3)	言葉が意味を持つとはどういうことか。 どうしてコミュニケーションが可能になるのか。 言葉の意味と音としての言葉	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
5	心の問題(1)	心の中というものはあるのだろうか。 現象学と行動主義	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
6	心の問題(2)	他人の心を知ることはできるのだろうか。 独我論と共同主観性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
7	心の問題(3)	心と身体の関係はどうなっているのだろうか。 身心問題の難しさ。 観念論と実在論を越えた身体のある方	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
8	自由と因果性(1)	私たちの行為は自由に基づいているのか、それとも、何らかの法則に決定されているのか。 カントの倫理思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
9	自由と因果性(2)	実存哲学の自由に対する捉え方 因果性と関係性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
10	悪について	正しいことと悪いこととの区別はどのような根拠があるのか。 悪とは何か。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
11	生と死(1)	生きることの意味。死ぬこととはどういうことか	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
12	生と死(2)	ハイデガーの死に関する思想 仏教の死に関する思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
13	神について	神は存在するのか。 魂の不死の問題	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
14	世界について	我々の生きる世界とはいかなるものか。 人間の世界における位置。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
15	まとめ	講義を通じて明らかになった哲学的な考え方の特徴を改めてまとめてみる。	授業全体をまとめておくこと。

関連科目	教養特別講義「社会と人権」
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	<子ども>のための哲学	永井均	講談社現代新書
2	ダンゴムシに心はあるのか	森山徹	PHPサイエンス・ワールド新書
3			

評価方法(基準)	授業中に周囲でディスカッションをする時間を作るので、欠席をしないように。 ディスカッションについてまとめた小レポートを提出してもらいます。 哲学の古典を一冊読んで、内容のまとめと感想を書いてもらいます。本のリストは授業中に指示します。 最終的に一つのテーマについて大きなレポートを提出してもらいます。授業で学んだ哲学的な考えをまとめた上で、自分の考えを述べて下さい。
----------	--

学生へのメッセージ	大学までは、哲学的なものの考え方を訓練する機会がなかなかなかったと思いますが、これからの困難な時代を生き抜くためには、自分でものを考えることが一番大事です。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階
----------	-------

備考	適宜参考資料を紹介する。 事前事後学習に 60 時間必要。
----	----------------------------------

科目名	統計学	科目名(英文)	Statistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	統計学を身につけるメリットは、データに裏打ちされた客観的な事実を見抜く技術を身につけることであり、論理的思考ができるようになることである。また、統計学の考え方は、企業における意思決定支援のためのデータ解析手法として多くの場面で利用されている。この授業では、初めて統計学を学ぶ学生を対象に、表計算ソフトを使用しながら統計学の基本的な考え方を学び、統計データの解析に必要な基礎的知識を学ぶ。
到達目標	データを解析・整理・要約するための基本的な統計学の理解および知識の習得を目標とする。
授業方法と留意点	毎回提示される課題を提出すること。未提出の場合は欠席とみなす。なお、出席が8割未満の場合は単位を認めない。Microsoft EXCELを使用するので情報処理の基本知識を有していることが望ましい。
科目学習の効果(資格)	卒業論文やレポートなどにおけるデータの整理や解析方法の習得が期待される。また、企業においては多方面で統計学の知識が活用されていることから、就職活動にも役立つものと考えられる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業計画概要と受講注意事項、学内ネットワーク説明、統計学概要	シラバスの確認
2	統計学とEXCEL基礎	統計における効果的なグラフ表現	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
3	変量のデータ(1)	ヒストグラム、度数分布表	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
4	変量のデータ(2)	平均と分散、標準偏差	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
5	確率分布(1)	確率分布、正規分布	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
6	統計的推定(1)	母集団と標本、区間推定	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
7	統計的推定(2)	検定統計量、棄却域 カイ二乗検定	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
8	統計的推定(3)	t検定対応なし	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
9	統計的推定(4)	t検定対応あり	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
10	前半まとめ	確認テスト	内容の把握と整理、評価 前半復習と修得度の確認
11	相関分析と回帰分析(1)	散布図と相関係数、回帰直線	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
12	相関分析と回帰分析(2)	回帰分析：判別分析1	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
13	相関分析と回帰分析(3)	回帰分析：判別分析2	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
14	相関分析と回帰分析(4)	回帰分析：数量化理論	前回の復習と課題の提出 配布資料の確認
15	後半まとめ	確認テスト	内容の把握と整理、評価 後半復習と修得度の確認

関連科目	情報処理 I
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	毎回、資料を配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	統計学がわかる	向後千春	技術評論社
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業参加状況、毎回の課題(練習問題)、実技を含む試験を総合して評価する。
----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	数学が苦手でも問題はありますが、復習は必須です。使いこなすには多くの練習時間が必要です。空き時間を使って復習することをお勧めします。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	The Japanese Constitutional Law
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法は、専断的になりがちな公権力に制限を加え、国民の基本的人権を広く保障しようとする国家の基礎法である。 ・日本国憲法は、主に基本的人権とそれを担保するための統治機構の規定から構成される。 ・こうした憲法上の規定をめぐる争われる、国民と国家機関ないし国家類似団体間での法的紛争をめぐる諸問題について、身近な事例を取り上げながら、わかりやすく解説を加える。 ・また、講義を通じて、事例から憲法上の争点を抽出する能力、争点に対する考え方(判例や学説)を理解する能力、および、争点に対する結論とその論拠についてコンパクトにまとめて提示できる能力の涵養を目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「立憲主義」とはどのようなものかを説明できるようになる。 ・日本国憲法上の論点(問題の争点)を抽出し、それに対する判例や通説の見解を説明できる。 ・公務員試験に出題される憲法に関する問題を素早く解けるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として講義形式で行うが、質疑応答を通じて受講生との双方向理解につとめたい。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の公務員試験(行政職、警察官、消防官など)では、必ず、憲法やそれに関連する問題が出題されます。 ・これらの試験を受けようとする人は十分に理解してください。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	憲法と立憲主義	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法と法律 ・立憲主義 ・権力分立と法の支配 	教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
2	日本国憲法の制定過程	<ul style="list-style-type: none"> ・マッカーサー・ノート ・大日本帝国憲法改正限界論 ・日本国憲法の正当性 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
3	平和主義	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法9条1項の解釈 ・日本国憲法9条2項の解釈 ・自衛隊の海外活動 ・集団的自衛権 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
4	基本的人権	<ul style="list-style-type: none"> ・人権とは何か ・近代自然法と社会契約説 ・夜警国家と福祉国家 ・公共の福祉 ・プログラム規定 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
5	基本的人権の享有主体 憲法の私人間効力	<ul style="list-style-type: none"> ・天皇の人権享有主体性 ・外国人の人権享有主体性 ・子どもの人権とその制約 ・憲法の直接適用説と間接適用説 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
6	精神的自由権(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・思想良心の自由 ・信教の自由とその限界 ・政教分離の原則と違憲審査基準 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
7	精神的自由権(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の自由とその類型 ・表現の自由に対する規制類型 ・報道の自由と限界 ・学問の自由と最先端科学研究 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
8	経済的自由権(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・職業選択と営業の自由 ・居住と移転の自由 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
9	経済的自由権(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・財産権の保障 ・財産権の限界 ・私有財産に対する正当な補償 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
10	人身の自由	<ul style="list-style-type: none"> ・適正手続の保障 ・罪刑法定主義 ・令状主義とその例外 ・接見交通権 ・黙秘権と拷問の禁止 ・残虐な刑罰と死刑制度 ・刑事補償請求権 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
11	社会権	<ul style="list-style-type: none"> ・生存権の保障 ・教育を受ける権利 ・労働基本権 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
12	包括的基本権 平等権	<ul style="list-style-type: none"> ・幸福追求権と死刑 ・新しい人権 ・機会の平等と結果の平等 ・法の下での平等をめぐる違憲審査基準 ・尊属殺人罪(刑法旧200条)と尊属傷害致死罪(刑法旧205条2項) 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
13	国会	<ul style="list-style-type: none"> ・国権の最高機関性と「政治的美称説」 ・二院制 ・委員会中心主義 ・議員の免責特権 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
14	内閣と裁判所	<ul style="list-style-type: none"> ・議院内閣制 ・独立行政委員会 ・内閣不信任決議と衆議院の解散 ・司法権の独立と「児島惟謙」 ・違憲審査制 ・違憲判決の効果 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
15	財政、地方自治、憲法の保障	<ul style="list-style-type: none"> ・財政民主主義 ・地方自治の本旨 	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理

	・憲法改正の手續と限界		
関連科目	行政法、民法及び刑法その他諸法と密接に関連しています。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	プレステップ憲法	駒村 圭吾/編
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	憲法(第6版)	芦部 信喜/高橋 和之(補訂)
	2	憲法判例集(第10版)	野中 俊彦=江橋 崇
	3		
評価方法 (基準)	・基本的に定期試験の結果で評価するが、質疑応答を行った場合、その内容も成績評価に加味する。		
学生への メッセージ	・各種国家試験や資格試験、および、公務員試験受験予定者は、この講義そのものが試験対策になり得ますので、積極的に受講してください。		
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室		
備考			

科目名	日本語上級会話F I	科目名(英文)	Advanced Japanese Speaking FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高井 美徳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では、「お金」「家族」「幸福」「労働」など、個人や社会の価値観にかかわるようなトピックについて、日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	抽象的な話題について、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目および結果について議論する。その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。																																																																		
科目学習の 効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	トピック⑦	議論	復習	8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	トピック⑦	議論	復習																																																																
8	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
9	トピック⑧	議論	復習																																																																
10	トピック⑨	議論	復習																																																																
11	トピック⑩	議論	復習																																																																
12	トピック⑪	議論	復習																																																																
13	トピック⑫	議論	復習																																																																
14	トピック⑬	議論	復習																																																																
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のテストから総合的に判断する。																																																																		
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		
担当者の 研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	日本語上級会話FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Speaking FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本語会話FⅠと同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。																																																																		
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	8	トピック⑦	議論	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	トピック①	議論	復習																																																																
2	トピック②	議論	復習																																																																
3	トピック③	議論	復習																																																																
4	トピック④	議論	復習																																																																
5	トピック⑤	議論	復習																																																																
6	トピック⑥	議論	復習																																																																
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
8	トピック⑦	議論	復習																																																																
9	トピック⑧	議論	復習																																																																
10	トピック⑨	議論	復習																																																																
11	トピック⑩	議論	復習																																																																
12	トピック⑪	議論	復習																																																																
13	トピック⑫	議論	復習																																																																
14	トピック⑬	議論	復習																																																																
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)																																																																		
備考																																																																			

教養科目

科目名	日本語上級作文F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、実践と解説を中心に行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Eメールの基本1</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Eメールの基本2</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Eメール1</td> <td>近況を知らせるメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Eメール2</td> <td>お知らせメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Eメール3</td> <td>お誘いメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Eメール4</td> <td>リマインドメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Eメール5</td> <td>問い合わせ/質問メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Eメール6</td> <td>依頼メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Eメール7</td> <td>アポイント/日程調整メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Eメール8</td> <td>お礼のメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Eメール9</td> <td>断りメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Eメール10</td> <td>クレームのメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>手紙</td> <td>お礼状を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習・確認テスト</td> <td>総復習、確認テスト</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	――	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習	5	Eメール2	お知らせメール	復習	6	Eメール3	お誘いメール	復習	7	Eメール4	リマインドメール	復習	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習	9	Eメール6	依頼メール	復習	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習	11	Eメール8	お礼のメール	復習	12	Eメール9	断りメール	復習	13	Eメール10	クレームのメール	復習	14	手紙	お礼状を書く	復習	15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	――																																																																
2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習																																																																
5	Eメール2	お知らせメール	復習																																																																
6	Eメール3	お誘いメール	復習																																																																
7	Eメール4	リマインドメール	復習																																																																
8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習																																																																
9	Eメール6	依頼メール	復習																																																																
10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習																																																																
11	Eメール8	お礼のメール	復習																																																																
12	Eメール9	断りメール	復習																																																																
13	Eメール10	クレームのメール	復習																																																																
14	手紙	お礼状を書く	復習																																																																
15	総復習・確認テスト	総復習、確認テスト	復習																																																																
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進捗等に応じて変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語上級作文FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。			
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業方法と留意点	授業は、講義と実践を中心に行う。			
科目学習の効果(資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動2	自己PRを書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習・確認テスト	総復習・確認テスト	復習
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等については、メールで対応する。 (3)授業内容は、進度等に応じて変更する場合がある。			

科目名	日本語上級読解FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に、正確に、正確に読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 プレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2～3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2～3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2～3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2～3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2～3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2～3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2～3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2～3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。																																																																		

科目名	人間の探求	科目名(英文)	Study on Humanity
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 清
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	フロイトの精神分析は、現在でも多くの批判にさらされているとはいえ、無意識という新しい観点から人間の考え方や振舞い方の意味を考えるその立場は、西欧の伝統的な人間論と深い関係をもっている。授業では、フロイトの精神分析の過激性に注目しながら、その理論的厳密性を紹介する。また、後半では、授業で得た知識を確認するために、映画『Blade Runner』を観る。																																																																		
到達目標	他者との関係、自分自身との関係、見ることの複雑性、記憶の現在性などに対する問題意識の形成																																																																		
授業方法と留意点	テキストは使用しない。板所はかなりの量になるので、ノートは必ず準備すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	人間論によって自分自身の存在あるいは死について考えることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>はじめに</td><td>講義の概要</td><td>—————</td></tr> <tr><td>2</td><td>フロイトの生涯</td><td>フロイトの人生と思想の流れ</td><td>シラバスの熟読</td></tr> <tr><td>3</td><td>無意識の存在</td><td>ヒステリー研究</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>4</td><td>—————</td><td>夢の解釈方法</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>5</td><td>心的外傷</td><td>抑圧の事後性</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>6</td><td>—————</td><td>現実か幻想か</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>7</td><td>エディプス論</td><td>エディプス・コンプレックス</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>8</td><td>—————</td><td>罪悪感の起源としての原父殺害</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>9</td><td>死の欲動</td><td>糸巻き遊びによる反復強迫</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>10</td><td>—————</td><td>快感原則と現実原則</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>11</td><td>ラカンの精神分析</td><td>自我の誕生としての鏡像</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>12</td><td>—————</td><td>言語と無意識</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>13</td><td>生と死の意味</td><td>『Blade Runner』鑑賞</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>14</td><td>生と死の意味</td><td>『Blade Runner』鑑賞及び分析</td><td>前回のノートの見直し</td></tr> <tr><td>15</td><td>試験対策</td><td>試験問題答案の書き方</td><td>これまでのノートの見直し</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに	講義の概要	—————	2	フロイトの生涯	フロイトの人生と思想の流れ	シラバスの熟読	3	無意識の存在	ヒステリー研究	前回のノートの見直し	4	—————	夢の解釈方法	前回のノートの見直し	5	心的外傷	抑圧の事後性	前回のノートの見直し	6	—————	現実か幻想か	前回のノートの見直し	7	エディプス論	エディプス・コンプレックス	前回のノートの見直し	8	—————	罪悪感の起源としての原父殺害	前回のノートの見直し	9	死の欲動	糸巻き遊びによる反復強迫	前回のノートの見直し	10	—————	快感原則と現実原則	前回のノートの見直し	11	ラカンの精神分析	自我の誕生としての鏡像	前回のノートの見直し	12	—————	言語と無意識	前回のノートの見直し	13	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞	前回のノートの見直し	14	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞及び分析	前回のノートの見直し	15	試験対策	試験問題答案の書き方	これまでのノートの見直し
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	講義の概要	—————																																																																
2	フロイトの生涯	フロイトの人生と思想の流れ	シラバスの熟読																																																																
3	無意識の存在	ヒステリー研究	前回のノートの見直し																																																																
4	—————	夢の解釈方法	前回のノートの見直し																																																																
5	心的外傷	抑圧の事後性	前回のノートの見直し																																																																
6	—————	現実か幻想か	前回のノートの見直し																																																																
7	エディプス論	エディプス・コンプレックス	前回のノートの見直し																																																																
8	—————	罪悪感の起源としての原父殺害	前回のノートの見直し																																																																
9	死の欲動	糸巻き遊びによる反復強迫	前回のノートの見直し																																																																
10	—————	快感原則と現実原則	前回のノートの見直し																																																																
11	ラカンの精神分析	自我の誕生としての鏡像	前回のノートの見直し																																																																
12	—————	言語と無意識	前回のノートの見直し																																																																
13	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞	前回のノートの見直し																																																																
14	生と死の意味	『Blade Runner』鑑賞及び分析	前回のノートの見直し																																																																
15	試験対策	試験問題答案の書き方	これまでのノートの見直し																																																																
関連科目	思想系の科目。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加、定期試験などにより総合的に評価。																																																																		
学生へのメッセージ	自分自身のあり方、人間関係のあり方、生きるあるいは死ぬとはどういうことか、こうした根本的な問題に関して、答えは出ないものの、新しい見方をすることができると思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	犯罪被害者と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の教回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「被害者」概念について説明できるようになる。 ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。 ・犯罪被害者の支援制度について理解する。
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	事前:「犯罪被害者」について調べてみよう 事後:重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット) ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> ・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> ・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 ・被告人質問と意見陳述 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる
8	小テスト	第7回目までの理解度確認	事前:前回までの復習 事後:わからなかった箇所を再確認
9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間 	事前:「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後:重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立 	事前:前回の復習 事後:重要事項をまとめる

	11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者救護基金 ・交通事故犯罪 ・犯罪による精神被害 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	12	少年事件における被害者保護	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害	<ul style="list-style-type: none"> ・DVとは何か ・配偶者による犯罪 ・DV被害者の保護と支援 ・保護命令 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	修復的司法	<ul style="list-style-type: none"> ・修復的司法の意義 ・わが国における修復的司法の展望 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑事政策</td> <td>川出 敏裕＝金 光旭</td> <td>成文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑事政策	川出 敏裕＝金 光旭	成文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	刑事政策	川出 敏裕＝金 光旭	成文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>その他の専門文献は開講時に紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その他の専門文献は開講時に紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	その他の専門文献は開講時に紹介する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストおよび期末試験の成績を総合評価する。なお、質疑応答を交えた場合は、その応答内容をプラスの方向でのみ評価する。 																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。 																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習：内容に記載した事項につき、毎回0.5時間以上の予習に取り組む。 事後学習：講義内容についてノートにまとめるなど、毎回1時間以上の復習に取り組む。																			

科目名	ビジネスマナー	科目名(英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	富岡 直美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<p>目的： 社会人としてふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。</p> <p>授業概要： ビジネスの現場で顧客、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するために必要となるの基本的知識、技能、態度を修得する。</p>																																																																		
到達目標	<p>【自分を客観視する力】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自分を客観視することの必要性を説明できる。 2) 自分をとりまく環境と自己の関係を認識して行動を選択する。 3) 自分の考えをまとめて伝える。 <p>【コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。 2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。 3) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。 4) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。 <p>【チームワーク】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) チームワークの重要性を例示して説明できる。 2) チームに参加し、協調的態で役割を果たす。 3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。 																																																																		
授業方法と留意点	<p>グループワーク、ケーススタディ、ロールプレイなどを取り入れます。</p> <p>授業の参加者として、積極的に授業に参加してください。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>社会人になるための目標を見つけ、自信をもってそれに向かってください。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション ビジネスマナーの必要性</td> <td>授業オリエンテーション 社会人として仕事をすること 組織の仕組み</td> <td>受講目的が言えるようにしておいてください。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第一印象</td> <td>第一印象の重要性 第一印象をよくする方法</td> <td>第一印象コントロールの実践とレポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>身だしなみと態度</td> <td>社会人に必要な身だしなみ あいさつ、姿勢、表情</td> <td>敬語確認テスト</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>言葉づかいの基本</td> <td>言語コミュニケーションにおける心得 敬語の特徴と、基本の使い方を知る 敬語の仕組みと使い方</td> <td>敬語の応用問題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>言葉づかいの応用</td> <td>複雑な関係性を意識した敬語の使い方</td> <td>ビジネスマナーの知識に関する常識問題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>指示の受け方</td> <td>仕事の事例を用いたケーススタディ 組織の仕組み 指示の受け方 ホウレンソウの重要性 ビジネス文書の書き方</td> <td>企業、組織に関する一般常識</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>優先順位、スケジューリング</td> <td>優先順位の立て方 スケジューリングの方法</td> <td>自分のスケジュールを立てる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>電話のマナー</td> <td>電話のかけ方、受け方 電話対応の事例をもちいた実践練習</td> <td>ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>電子メール</td> <td>電子メールの書き方と注意点 事例のメールでの対応ケースを用いた練習</td> <td>実際にメールを送る</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ビジネス文書</td> <td>社外文書の基本、社外文書と社外文書 事例の文書での対応ケースを用いた練習</td> <td>ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ホウレンソウ</td> <td>報告・連絡・相談の仕方</td> <td>ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>訪問</td> <td>会社訪問事例を用いて訪問の仕方を考える アポイントメントの取り方、訪問準備、 席次、名刺交換、事後処理など</td> <td>ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接遇</td> <td>受付、案内、お茶出し、見送りなど</td> <td>レポート課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>情報の取り扱い</td> <td>ファイリング 環境整備 情報共有の重要性 コンプライアンス</td> <td>未提出のレポート等がないか確認をして下さい。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>振り返りとまとめ</td> <td>授業の振り返り まとめ</td> <td>レポート課題の提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション ビジネスマナーの必要性	授業オリエンテーション 社会人として仕事をすること 組織の仕組み	受講目的が言えるようにしておいてください。	2	第一印象	第一印象の重要性 第一印象をよくする方法	第一印象コントロールの実践とレポート	3	身だしなみと態度	社会人に必要な身だしなみ あいさつ、姿勢、表情	敬語確認テスト	4	言葉づかいの基本	言語コミュニケーションにおける心得 敬語の特徴と、基本の使い方を知る 敬語の仕組みと使い方	敬語の応用問題	5	言葉づかいの応用	複雑な関係性を意識した敬語の使い方	ビジネスマナーの知識に関する常識問題	6	指示の受け方	仕事の事例を用いたケーススタディ 組織の仕組み 指示の受け方 ホウレンソウの重要性 ビジネス文書の書き方	企業、組織に関する一般常識	7	優先順位、スケジューリング	優先順位の立て方 スケジューリングの方法	自分のスケジュールを立てる	8	電話のマナー	電話のかけ方、受け方 電話対応の事例をもちいた実践練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題	9	電子メール	電子メールの書き方と注意点 事例のメールでの対応ケースを用いた練習	実際にメールを送る	10	ビジネス文書	社外文書の基本、社外文書と社外文書 事例の文書での対応ケースを用いた練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題	11	ホウレンソウ	報告・連絡・相談の仕方	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題	12	訪問	会社訪問事例を用いて訪問の仕方を考える アポイントメントの取り方、訪問準備、 席次、名刺交換、事後処理など	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題	13	接遇	受付、案内、お茶出し、見送りなど	レポート課題	14	情報の取り扱い	ファイリング 環境整備 情報共有の重要性 コンプライアンス	未提出のレポート等がないか確認をして下さい。	15	振り返りとまとめ	授業の振り返り まとめ	レポート課題の提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション ビジネスマナーの必要性	授業オリエンテーション 社会人として仕事をすること 組織の仕組み	受講目的が言えるようにしておいてください。																																																																
2	第一印象	第一印象の重要性 第一印象をよくする方法	第一印象コントロールの実践とレポート																																																																
3	身だしなみと態度	社会人に必要な身だしなみ あいさつ、姿勢、表情	敬語確認テスト																																																																
4	言葉づかいの基本	言語コミュニケーションにおける心得 敬語の特徴と、基本の使い方を知る 敬語の仕組みと使い方	敬語の応用問題																																																																
5	言葉づかいの応用	複雑な関係性を意識した敬語の使い方	ビジネスマナーの知識に関する常識問題																																																																
6	指示の受け方	仕事の事例を用いたケーススタディ 組織の仕組み 指示の受け方 ホウレンソウの重要性 ビジネス文書の書き方	企業、組織に関する一般常識																																																																
7	優先順位、スケジューリング	優先順位の立て方 スケジューリングの方法	自分のスケジュールを立てる																																																																
8	電話のマナー	電話のかけ方、受け方 電話対応の事例をもちいた実践練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題																																																																
9	電子メール	電子メールの書き方と注意点 事例のメールでの対応ケースを用いた練習	実際にメールを送る																																																																
10	ビジネス文書	社外文書の基本、社外文書と社外文書 事例の文書での対応ケースを用いた練習	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題																																																																
11	ホウレンソウ	報告・連絡・相談の仕方	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題																																																																
12	訪問	会社訪問事例を用いて訪問の仕方を考える アポイントメントの取り方、訪問準備、 席次、名刺交換、事後処理など	ビジネスマナーの知識に関する一般常識問題																																																																
13	接遇	受付、案内、お茶出し、見送りなど	レポート課題																																																																
14	情報の取り扱い	ファイリング 環境整備 情報共有の重要性 コンプライアンス	未提出のレポート等がないか確認をして下さい。																																																																
15	振り返りとまとめ	授業の振り返り まとめ	レポート課題の提出																																																																
関連科目	<p>キャリアデザイン、インターンシップ、エンプロイメントデザイン</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書																																																																			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出物・授業態度 40 点、レポート 20 点、期末テスト 40 点で総合評価する。100 点満点中 60 点以上で合格。			
学生への メッセージ	マナーを身に付けることは社会人に仲間入りする第一歩です。何のためにそれをするのかを考え、積極的に参加してください。また、必要になってすぐできるものではありません。日頃から実践するように意識してください。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7号館3階 キャリア教育推進室 富岡直美			
備考				

科目名	武道論	科目名(英文)	Budo-ron (Theory of Japanese Martial Arts)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1]																																																																		
到達目標	日本伝統文化である武道（意味・種類）についての理解を深める。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深める。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。																																																																		
科目学習の効果（資格）	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業内容の説明と武道について</td> <td>武道について調べてくる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>武道とは何か</td> <td>武道の意味や言語について概説する</td> <td>武道にはどのような種類があるのか調べる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>武道と武術について</td> <td>武道と武術の違いについて</td> <td>武芸十八般について調べてくる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>武道（柔道）</td> <td>柔道について</td> <td>柔道について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>武道（剣道）</td> <td>剣道について調べ内容をまとめる</td> <td>剣道について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>武道（弓道・相撲）</td> <td>弓道・相撲について</td> <td>弓道・相撲について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>武道（空手・合気道）</td> <td>空手・合気道について</td> <td>空手・合気道について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>武士道から見る日本人の道徳心①</td> <td>武士道とは何か</td> <td>著者・著作にいたる背景を調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>武士道から見る日本人の道徳心②</td> <td>武士道の道徳心について</td> <td>武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>武士道から見る日本人の道徳心③</td> <td>武士道の道徳心について</td> <td>武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>武道と修行</td> <td>武道における修行について</td> <td>修行とは何かを調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>武道の国際化</td> <td>武道の国際化について</td> <td>武道がどのように世界に普及したか調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>武道の身体技法①</td> <td>武道特有の身体技法について</td> <td>武道の身体技法とは何か調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>武道の身体技法②</td> <td>実際の身体技法を行う（総合体育館）</td> <td>武道の身体技法とは何か調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>武道論総括（テスト）</td> <td>1～4回まで行った授業の内容に関してテストを行う</td> <td>これまでの授業の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる	2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種類があるのか調べる	3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる	4	武道（柔道）	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる	5	武道（剣道）	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる	6	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる	7	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる	8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる	9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる	10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる	11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる	12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる	13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる	14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う（総合体育館）	武道の身体技法とは何か調べまとめる	15	武道論総括（テスト）	1～4回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる																																																																
2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種類があるのか調べる																																																																
3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる																																																																
4	武道（柔道）	柔道について	柔道について調べ内容をまとめる																																																																
5	武道（剣道）	剣道について調べ内容をまとめる	剣道について調べ内容をまとめる																																																																
6	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる																																																																
7	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる																																																																
8	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる																																																																
9	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる																																																																
10	武士道から見る日本人の道徳心③	武士道の道徳心について	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる																																																																
11	武道と修行	武道における修行について	修行とは何かを調べまとめる																																																																
12	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる																																																																
13	武道の身体技法①	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる																																																																
14	武道の身体技法②	実際の身体技法を行う（総合体育館）	武道の身体技法とは何か調べまとめる																																																																
15	武道論総括（テスト）	1～4回まで行った授業の内容に関してテストを行う	これまでの授業の復習																																																																
関連科目	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習 健康論 保健論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今、なぜ武道か</td> <td>中村 民雄</td> <td>日本武道館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>武道を知る</td> <td>田中 守／藤堂 良明／東 憲一／村田 直樹</td> <td>不昧堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今、なぜ武道か	中村 民雄	日本武道館	2	武道を知る	田中 守／藤堂 良明／東 憲一／村田 直樹	不昧堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	今、なぜ武道か	中村 民雄	日本武道館																																																																
2	武道を知る	田中 守／藤堂 良明／東 憲一／村田 直樹	不昧堂																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	出席率75%以上のものを試験資格者とする。遅刻は2回で1回の欠席と同等とみなす。（遅刻は授業開始から30分以内に入室したことをいう）武道論総括(15回目)におけるテストを100%の割合で評価を行う。（ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象とする。）																																																																		
学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 横山講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中のさまざまな人々の多様な生の理解を通して、私たち人類が地球上に生き、存在するということがどのような事態なのかを探究してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかを理解すること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解すること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念、方法論について概説する。	特になし
2	人類学の誕生 (1) : 博物学から人類学へ	19 世紀におこった博物学から進化論人類学へという変化をとおしていわゆる人類学の誕生をあとづける。	特になし
3	人類学の誕生 (2) : 進化論人類学	タイラー、モーガン、フレイザーの研究を例に進化論人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	特になし
4	機能主義人類学 (1) : マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、マリノフスキーとラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	特になし
5	機能主義人類学 (2) : 有機的全体としての社会	前回の続き	特になし
6	アメリカ文化人類学の誕生 (1) :	フランツ・ボアズの研究を概説する。	特になし
7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き	特になし
8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、アメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	特になし
9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き	特になし
10	構造主義 (1)	モースとレヴィ=ストロースの研究を中心に構造主義について概説する。	特になし
11	構造主義 (2)	前回の続き	特になし
12	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	特になし
13	解釈人類学 (2)	前回の続き	特になし
14	文化を書く	80 年代以降のポストモダン人類学について概説する。	特になし
15	ポスト・ポストモダン人類学と文化の行方	これまでの議論のまとめと総括を行う。	特になし

関連科目	学芸員課程
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	100%試験によって評価する。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。
学生へのメッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	

科目名	法学入門	科目名(英文)	Jurisprudence
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 このような法の特徴と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いごとを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々な法規を適用ないし運用する上で、当該法規の趣旨を確認し、さらにその修正規範を確実におさえる。 民事法と刑事法の違いについて、具体的に他者に説明できるようにする。 身近な事例について法学的アプローチをすることができるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義形式によるが、教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	家族関係と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> 婚約とその不当破棄 内縁と重婚の内縁関係 婚姻の効果 婚姻費用 日常家事債務 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	家族関係と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> 離婚 協議離婚と調停離婚 裁判離婚 離婚原因 有責配偶者の離婚請求ほか 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	家族関係と法(3)	<ul style="list-style-type: none"> 親子 認知と非嫡出子 親族間の扶養 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	家族関係と法(4)	<ul style="list-style-type: none"> 相続 遺留分 寄与分 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	財産関係と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> 契約と意思表示 契約と当事者 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	財産関係と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> 債務不履行と危険負担 契約の解除 瑕疵担保責任 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	財産関係と法(3)	<ul style="list-style-type: none"> 事務管理と不当利得 不法行為 使用者責任 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	医療と法	<ul style="list-style-type: none"> 医療契約 医療過誤 専断的医療行為 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	消費者と法	<ul style="list-style-type: none"> 訪問販売 マルチ商法 ローンとクレジット契約 製造物責任法 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	職場と法	<ul style="list-style-type: none"> 労働法とは何か 労働紛争の諸類型 ブラック企業 非正規雇用の問題点 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	犯罪と法(1)	<ul style="list-style-type: none"> 刑法の意義 罪刑法定主義とその派生原則 犯罪論 緊急行為 未遂と共犯 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
13	犯罪と法(2)	<ul style="list-style-type: none"> 逮捕と勾留 捜索と差押 公訴の提起 少年法の特例 死刑をめぐる諸問題 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	人権と国際法	<ul style="list-style-type: none"> 立憲主義と憲法 自由権と社会権 国際関係と紛争 集团的自衛権 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	法の適用、法源及び法の解釈	<ul style="list-style-type: none"> 制定法と慣習法 判例・学説・条理 概念法学と自由法学 文理解釈と論理解釈 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎からわかる法学(第2版)	谷口 貴都=松原 哲	成文堂

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己＝加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 （基準）	・原則として定期試験の得点により評価するが、質疑応答をした場合はその内容を得点にプラスの方向で反映させる。			
学生への メッセージ	・法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室			
備考	・受講生の興味や関心に応じて、例えば、刑事法や家族法分野を増やすなど、講義内容を多少変更することがある。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名(英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。 学科の学習・教育目標との対応：[II]
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。
科目学習の効果(資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
	15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目	マーケティング論
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
----------	------------------------

学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましよう。
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	武居教授室
----------	-------

備考	
----	--

科目名	マーケティング入門	科目名(英文)	Introduction to Marketing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	近年、ビジネスにおいてマーケティングは欠かすことのできないツールとなった。商品を生産すれば売れた時代とは違い、現在では多様化する消費者ニーズに的確に対応することが、企業にとって市場で生き残っていくためのカギとなっている。本講義では、マーケティングの基本について学習する。なぜマーケティングが必要であるのか、どのように行えば良いのか、その手法と実際を紹介する。			
到達目標	マーケティングの基礎知識を学習し、現実の問題について考えることで、世の中で行われているマーケティング手法について身近に理解できるようになる。			
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスーマーケティングとはー	マーケティングとは何か、基本的な用語について	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	2	マーケティングの基礎	マーケティングの歴史、4P、様々な分析手法について	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	3	マーケティング戦略1	製品戦略について	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	4	マーケティング戦略2	価格戦略について	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	5	マーケティングと流通	流通の基礎知識について	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	6	マーケティング戦略3	チャネル戦略について	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	7	マーケティング戦略4	プロモーションについて	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	8	マーケティング戦略5	マーケティングと消費行動	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	9	マーケティング戦略6	消費行動の歴史の変遷	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	10	マーケティング戦略7	マーケティング・リサーチ	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	11	マーケティング戦略8	高付加価値戦略	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	12	マーケティング戦略9	市場細分化戦略	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	13	マーケティング戦略10	製品ライフサイクル戦略	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	14	ニュービジネス設計	競争の戦略	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
	15	講義まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で関連する内容を読みましよう。
関連科目	特になし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動	武居奈緒子	晃洋書房
	2			
	3			
評価方法(基準)	講義内課題 30%、期末試験 70%			
学生へのメッセージ	日ごろ自分達がどのように考え、どういった商品を購入しているかを思い浮かべつつ、講義に臨んでもらいたい。			
担当者の研究室等	11号館8階、武居研究室			
備考				

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [I1]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の教え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	3	犯罪はなぜ起こるのか？ どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？ どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識

			売の実態、取締の方法を紹介する。	を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青バト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「少年法」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえらると思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考																				

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。 学科の学習・教育到達目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、1~5回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	企業・製造業・仕事の基本とは① 4月9日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事に基本①の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
	2	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月16日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
	3	企業・製造業・仕事の基本とは③ 4月23日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本②~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
	4	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月7日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	-----
	5	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月14日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得、および5S・安全・環境教育を通じて、社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④~⑤の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
	6	品質教育① 5月21日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	-----
	7	品質教育② 5月28日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	-----
	8	品質教育③ 6月4日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する(座学と実習)	品質教育①~③の講義終了後、レポートを提出する(書式は別途)
	9	原価・コスト教育① 6月11日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
	10	原価・コスト教育② 6月18日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
	11	原価・コスト教育③ 6月25日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出する(書式は別途)
	12	課題解決教育① 7月2日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
	13	課題解決教育② 7月9日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
	14	課題解決教育③ 7月16日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途) また、14回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
	15	全体討議・質疑応答 7月23日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』または『ものづくり海外インターンシップ』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

教養科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%とした総合評価を行う。			
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック(株)と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」または「ものづくり海外インターンシップ」を同時に受講することが前提です。			
担当者の 研究室等	1号館4階 奥野教授室			
備考	<p>毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。ものづくり海外インターンシップ履修予定者については別途定める授業計画に沿って進める場合がある。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、福田祥一、高岡清</p>			

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名(英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川野 常夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ(川野ほか担当)」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナーなどを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ(川野ほか担当)」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。
科目学習の効果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEICや英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス, 海外渡航手続き概要	パスポート, チケット予約(航空機, ホテル), 保険, 海外渡航準備	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
2	海外事情, 日系企業のグローバル化	海外の文化, 経済, グローバル化事情	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
3	研修先 事前調査	文化, 歴史, 経済事情, 企業・大学	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
4	社会人基礎力	社会人として必要な基礎力	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
5	英語コミュニケーション実習1	海外渡航, 海外生活	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション実習2	自己紹介, 大学紹介, 日本紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション実習3	専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション実習4	海外研修を想定したグループ実習1	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション実習5	海外研修を想定したグループ実習2	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション実習6	海外研修を想定したグループ実習3	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	マナー実習1	挨拶, 礼儀, 服装	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	マナー実習2	ミーティング, 質疑, 懇親会	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習3	感謝, 気配り, 機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航, 海外生活	渡航準備, 入出国, 習慣, 食生活, 健康管理	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
15	英語による成果発表?	まとめ	成果発表の準備, 反省

関連科目	ものづくり海外インターンシップ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本企業が欲しがらる「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社	
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店	

評価方法(基準)	課題レポート60%, 取組み姿勢20%, 成果発表20%として評価を行う。
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館4階 川野教授室 12号館7階 白鳥准教授室 8号館3階 加嶋教授室 12号館7階 榑准教授室
----------	---

備考	【事前事後学習】 レポート作成, 復習の学習時間: 20時間程度 【共同担当者】 白鳥准教授, 加嶋教授, 榑准教授, 理工学部インターンシップ委員会委員
----	--

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。 学科の学習・教育到達目標との対応：[II]																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック(株)人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、インターンシップⅡの準備 7/9(木) 6限目 ・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/16(木) 6限目 <p>宿泊実習(パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～3日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと ・4～5日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得(設計～生産)し、目標達成のためのチームワーク・QCD問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと ・6日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと ・7日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月29日(土) 2～5限目 プレゼンテーション指導 <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 体験報告書の添削指導 ・2回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・4回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・5回目 研修成果報告会(2回目) ・6回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・7回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評 																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習成果 40%、研修成果報告会(2回) 20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。																		

学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。
担当者の研究室等	奥野教授室 (1号館4階)
備考	<p>期間：2015年8月24日(月)～8月28日(金)、8月31日(月)～9月1日(火) パナソニック(株)人材開発カンパニーでの宿泊研修です。8月29日(土)には撰大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】 レポート作成、プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名 (英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	川野 常夫
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化の中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。業種は製造業（機械・電気系）、または建設業（建築・デザイン系）とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																		
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。																		
授業方法と留意点	東南アジアは、フィリピン2箇所とタイ1箇所（合計3箇所）を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインタ																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習/ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の川上である企画・設計部門、または建築・デザイン部門。（グループ演習） 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学、建築・デザイン作品見学、交流会 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイデアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習、または建設系のワークショップなど 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など、または建設系の建築・デザインワークショップなど。（グループ演習） 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「日本企業が欲しが「グローバル人材」の必須スキル</td> <td>内永ゆか子</td> <td>朝日新聞出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旅の英会話伝わるフレーズ集</td> <td>ニック・ウィリアムソン</td> <td>ナツメ社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版</td> <td>高橋書店編集部</td> <td>高橋書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「日本企業が欲しが「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版	2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社	3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「日本企業が欲しが「グローバル人材」の必須スキル	内永ゆか子	朝日新聞出版																
2	旅の英会話伝わるフレーズ集	ニック・ウィリアムソン	ナツメ社																
3	さすが!と言われる ビジネスマナー 完全版	高橋書店編集部	高橋書店																
評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%、実習・授業態度 20%、実習成果プレゼン 20%）、実習前後の学習 5%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2回）15%として評価を行う。																		
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班、川野ほか担当）」の受講を必須とする。																		
担当者の研究室等	1号館4階 川野教授室 1号館3階 伊藤教授室 1号館7階 白鳥准教授室 8号館3階 加嶋教授室																		
備考	【注意事項】研修予定期間：2015年8月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間：20時間程度																		

【共同担当者】 伊藤教授, 白鳥准教授, 加嶋教授、理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	役立つ金融知力	科目名(英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となるためには、まずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく必要があります。経済や法律そして金融に関する正しい知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。 本講義の目的は、人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けることです。
到達目標	実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付け、経済生活やビジネスライフにおいて適宜的確に行動できるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書を使用した講義形式の授業により、次の三つのステップで進めます。 ① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。 ② 次に、金融の基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。 ③ 更に、それらを統合的に活用する能力(=金融インテリジェンス)を、社会生活に応用する方法を学びます。
科目学習の効果(資格)	経済生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、金融知識を活用する実践的な金融インテリジェンスの基本を身に付けていきます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「金融知力の必要性」	テキスト<P4~15> ・私たちの暮らしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P38~49> ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~29> ・金融の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P147~149・152~159> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
5	リスクと向き合う ①	「リスクマネジメント」	テキスト<P74~81・150~152・159~161> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P82~91> ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P92~98> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~37・50~53> 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品(株式等)」	テキスト<P118~129> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品(債券他)」	テキスト<P111~118> ・預貯金 ・信託 ・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト<P99~111> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「資産分散と時間分散」	テキスト<P130~146> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P54~63> ・ライフプランニング
14	ライフプランニング ②	「ライフイベントごとの課題」	テキスト<P64~73> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
15	最終まとめ 試験 及び レポート提出	「講義のまとめ」 課題レポート提出 試験	全体まとめ 講義で得た金融インテリジェンスの確認と応用

関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎』		金融知力普及協会

	ISBN：978-4-907341-00-8（必須。授業では毎回この教科書を使用しますので、必ず購入してください。）		
2			
3			
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本科目への取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験 : 20% (知識の正確性) ・レポート : 50% (自分で考え、問題解決する能力) ・平常点 : 30% (受講状況、質疑応答、課題・討議など) 		
学生への メッセージ	<p>本講義でより高い成果を得るためには、下記の二点が非常に重要なポイントです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 受講内容の復習を行い、身近な経済・時事問題などに疑問を持って考えること。 ② 最終回までに表計算ソフト「エクセル」(講義では教えません)で簡易な表を作成し、内容を精査すること。 		
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、SMBC日興証券グループによる「寄附講座」です。 ・「事前・事後学習課題」について 予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む):30分程度 復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する):30分程度 当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。 		

科目名	歴史に学ぶ	科目名(英文)	Introducton to History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ヨーロッパを中心にファッションの歴史をたどる。現代のファッション文化は、外部の刺激(暑さや寒さ/他者の視線など)から体を守るという衣服本来の役割をこえたところに成立している。こうした「おしゃれ」に対する現代的感覚は、歴史上、いかにして形成されたものなのだろうか。歴史を振り返ることで、ファッションに関する現代の「常識」を相対化し、その機能や役割について深く考える視座を獲得する。
到達目標	歴史的観点から身近なもの(ファッション)をとらえることで、今ある常識や価値観を相対化することの大切さを理解する。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果(資格)	ファッションという身近なテーマを通して、歴史に対する理解を深める。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史としてのファッション	なぜ、ファッションに注目するのか	ファッションの歴史と聞いてイメージするものを文章にしてくる。
2	ファッションの機能	「必要最低限の服」しかなかったらなぜ困るのか	ファッションに関するアンケートにこたえる。
3	ファッションと階級	奢侈禁止令にみる階級のシンボルとしてのファッション	ヨーロッパと日本の奢侈禁令例の共通点をまとめる。
4	近代以前のファッション(1)	女性服・男性服・子供服の区別がなかった時代	近代以前と以後のファッションの違いについてまとめる。
5	近代以前のファッション(2)	着飾るのをやめた男たち～男性服の画一化～	現代の男性服の特徴について考えてくる。
6	服飾産業の女性化～作る・売る・買う～	「流行」は誰がつくるのか～有名デザイナーに男が多いのはなぜか～	女性デザイナーの多い分野は何か、またその理由は何か考えてくる。
7	モデル・チェンジがもつ意味	・家電・車・パソコン・ファッション ・中間テストの実施	モデル・チェンジがもつ意味について考えてくる。
8	「どこで」「どのように」買うか(中間テスト)	・デパートの誕生 ・中間テストの解説	自分の消費行動に照らして、授業内容をまとめる。
9	オートクチュールから既製服へ(中間テスト解説)	ファッションの大衆化	ファッションから階級性が失われる過程をまとめる。
10	ファッションとメディア	ファッション・ショーとモデルの歴史	「最新のファッション」をどのように摂取するか、自分の例を文章にしてくる。
11	古着への回帰	カウンターカルチャーとしてのストリート・ファッション	「新しいもの」がもつ価値について自分の意見をまとめてくる。
12	下着の歴史	コルセットからの解放～カラーバリエーションのある装飾性の高い下着はいかにして生まれたか～	近代以前と以後の下着の特徴の違いをまとめる。
13	子ども服の歴史	『不思議の国のアリス』の世界	子ども服の特徴についてまとめる。
14	ユニセックス・ファッション	ジェンダーの壁をこえるファッション	ユニセックス・ファッションの具体例について考えてくる。
15	異性装の歴史	ジェンダー・セクシュアリティ・ファッション	異性装が果たす機能についてまとめる。

関連科目	世界の歴史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験を実施
----------	---------

学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(林田研究室)
----------	--------------

備考	事前事後学習に要する総時間数は約60時間。
----	-----------------------

キャリア形成科目

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Development I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマに沿って本学の教職員から多様な生き方を聴く。大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみることを、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかがかわることについて考える契機となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活を充実させる方法～（担当：教務課 係長 古屋豊吾）	大学生活で熱中できるものを見つけ、粘り強く取り組めば、働くことも怖くない！ みなさんと同じ摂大生としてラグビー部で身に付けた力を社会で活かせる経験をもとにお話しします。	・講義を振り返る
3	学生生活② 成功曲線を描くために！ ～諦めないコツ教えます～（担当：入試部 田中恵三）	学生時代の経験を活かして、いかに自分自身の力を養えるか。目標達成へのプロセスとそれが将来の自分にどのように繋がるか。自身の経験と現在を合わせて伝えます。	・講義を振り返る
4	学生生活③ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室講師 富岡直美）	・第2回、3回までの講義のまとめ ・レポートの書き方	・講義を振り返る
5	学修① 大学生活における学習への動機づけ（担当：経営学部 准教授 牧野幸志）	大学での学習における様々な動機づけについて考える機会を提供する。大学の勉強とは？この席に座っている人が成績は良いのか？やる気はあるのか？など。また、どのように学習が大学では効率的かを心理学的に解説する。	・講義を振り返る ・第1回「学生生活」に関するレポート締切
6	学修② チャンスだらけの摂南大学-学生時代に飛躍する方法-（担当：経営学部 准教授 久保貞也）	(1) 摂南大学をうまく活かした先輩たち（事例紹介） (2) チャンスを失う典型的な学生（注意喚起） (3) 摂大でチャンスを得る方法	・講義を振り返る
7	学修③ 基礎科学における大学院進学と研究職への道（担当：理工学部 講師 東武大）	本講義では基礎科学分野での大学院での研究の在り方、及びポストドクター問題等研究職に就くまでの様々な現実について解説します。	・講義を振り返る
8	学修④ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室 教授 石井三恵）	・第5回から7回までの講義のまとめ ・第1回「学生生活」レポートからの反省と第2回レポートに向けて	・講義を振り返る
9	キャリアパス① 法律とスポーツと将来の職（担当：法学部 准教授 石井信輝）	法とスポーツとの関係性は見出しにくいですが、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。	・講義を振り返る ・第2回「学修」に関するレポート締切
10	キャリアパス② グローバル人材ってどんな人？留学したらグローバル人材？英語ができればグローバル人材？（国際交流センター 長谷川来夢）	グローバルに活躍する人が持っている能力とは何か、メキシコでの留学経験、国際交流センターでの業務を通して感じた「グローバル人材とは何か」という疑問について、みなさんと一緒に考えていきます。	・講義を振り返る
11	見えないものを見にいこう～山登りとダイビングが教えてくれた人生で大事なこと～（担当：就職部 部長 伊藤勝彦/キャリア教育推進室 講師 水野武）	山と海を趣味とする講師両名の経験談をもとに「人生に向き合う姿勢」や「社会人としての生き方」のヒントを探ります。	・講義を振り返る
12	キャリアパス④ 「私のキャリア」 キャリアアップを考える（担当：経済学部 教授 持永政人）	30年間の民間企業でのキャリアアップ経験を披露することによってキャリアアップとは何かを考えてもらう。パワーポイントによる講義形	・講義を振り返る

キャリア形成科目

			式で行います。	
	13	キャリアパス⑤ 自分の履歴を残す (担当: キャリア教育推進室 水野武)	自分の取り組んでいる事柄と結果に関してしっかりと『履歴を残す』ことの大事さを学ぶ。	・講義を振り返る
	14	キャリアパス⑥ 私 (藤林) の失敗談と、健康保持促進の秘訣 (担当: スポーツ振興センター保健体育教室 講師 藤林真美)	前半は、担当教員のこれまでの人生における数々の失敗のお話しをします。何かを学んでください。キャリアパスの基本条件はまず、心身共に健康であること！ 授業後半では、健康を保持増進するための秘訣をお話しします。	・講義を振り返る
	15	講義のまとめ (担当: キャリア教育推進室 講師 水野武)	・キャリアパスを中心としたエンプロイメントデザインⅠの振り返り ・まとめのワークシート ・まとめのレポート書き方指導	・講義を振り返る ・講義のまとめのレポート
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のミニッツペーパー (30%)、レポート3回 (60%)、まとめワークシート (10%) を総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	学生生活4年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。			
担当者の研究室等	7号館5階 (石井) 7号館3階 (富岡・水野)			
備考	教科書: 各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書: 各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。			

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Career Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう!大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂大学①	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・学生生活において“目標とするもの”を考える	キャリアデザイン I のテキスト P11~P17 を熟読すること。
4	摂大学②	・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
5	グループ課題の設定	・グループワーク(インタビュープロジェクト)の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	キャリアデザイン I のテキスト P27~P37 を熟読すること。
8	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。 キャリアデザイン I のテキスト P59~P69 を熟読すること。
9	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	キャリアデザイン I のテキスト P59~P69 を熟読すること。
10	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	キャリアデザイン I のテキスト P79~P88 を熟読する事。
11	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	他者に紹介したい本を選んでおくこと。
12	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
13	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をすること。
14	グループ活動の振り返り	・グループ活動を振り返り、コミュニケーション、ホスピタリティ、マナーについて考える	グループ活動の経緯を振り返ること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	夏休み以降の大学生活の目標を考えること

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	キャリアデザインⅠ	摂南大学就業力向上運営委員会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

キャリア形成科目

評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)
備考	参考書・・・必要に応じて授業内でレジユメを配布する

科目名	キャリアプランニング	科目名 (英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣, 家口 美智子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、前期の「キャリアデザイン」で学んだことと連動しています。社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の将来の進路や職業（キャリアプラン）について考えていきます。さらに後半は、将来のキャリアにつながる6つの職業分野によって構成されるパッケージプログラムについての概要を学びます。
到達目標	社会の仕組みや現状を知ることで自分の卒業後の仕事や方向性に意識を向け、それを将来就職活動に活かせるようになることを目標とします。また、様々な職業分野の概要を学び、次年度から開講される6つのパッケージプログラムの中からコースを選択します。
授業方法と留意点	講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。第7回～第12回（計6回）については、2クラス合同で授業を行うため、教室変更に注意してください。
科目学習の効果（資格）	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会を知る（1） 就活と仕事の現状	全国および学内のデータに基づいて現状を把握する。また、社会と仕事の関係を学ぶ。	配布資料などを熟読すること。
3	社会を知る（2） 4年生またはOB/OGの就活体験談	4年生またはOB/OGの就活体験談を聴くとともに、質疑応答形式で学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。	自分の将来（進路）について考えてみよう。
4	社会を知る（3） 一般常識とマナー	社会人としての常識やマナーがあるが、学生時代に習得、実践できるものが多いことを学ぶ。	学んだ一般常識やマナーを実践してみよう。
5	自分のキャリア（進路・職業） を考える	自分の将来の進路・職業を意識しながら、キャリアプランについて考えてみる。	どのような職業や業種があるのか調べてみよう。
6	パッケージプログラムの趣 旨と概要	パッケージプログラムの種類と内容を把握し、自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムの選択について考えていく。	配布資料や説明の内容をしっかりと理解すること。
7	パッケージプログラムの紹介（1）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
8	パッケージプログラムの紹介（2）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
9	パッケージプログラムの紹介（3）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
10	パッケージプログラムの紹介（4）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
11	パッケージプログラムの紹介（5）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
12	パッケージプログラムの紹介（6）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
13	パッケージプログラムの仮 応募 各職業に関連する資格の紹介	パッケージプログラムの仮応募を行う。各職業に関連する資格を紹介する。	どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考えよう。 資格やその勉強法について調べてみよう。
14	キャリアプランのレポート 作成・提出 パッケージプログラムの仮 応募の結果	自分のキャリアプランについてのレポートを作成し、提出する。 パッケージプログラムの仮応募の結果を発表する。（必要な者は再選択）	レポートを作成すること。
15	総括（まとめ）	これまで学んできたことを総括する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみよう。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインⅠ、Ⅱなど
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢、提出物などから総合的に評価します。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	この授業を通じて、これからの大学生活でやるべきことや、卒業後の進路・職業について考えてみてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階（中島研究室）
----------	--------------

備考	
----	--

キャリア形成科目

科目名	キャリアプランニング	科目名(英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一、鳥居 祐介
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、前期の「キャリアデザイン」で学んだことと連動しています。社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の将来の進路や職業（キャリアプラン）について考えていきます。さらに後半は、将来のキャリアにつながる6つの職業分野によって構成されるパッケージプログラムについての概要を学びます。
到達目標	社会の仕組みや現状を知ることで自分の卒業後の仕事や方向性に意識を向け、それを将来就職活動に活かせるようになることを目標とします。また、様々な職業分野の概要を学び、次年度から開講される6つのパッケージプログラムの中からコースを選択します。
授業方法と留意点	講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。第7回～第12回（計6回）については、2クラス合同で授業を行うため、教室変更に注意してください。
科目学習の効果（資格）	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の目的、進め方、評価方法を説明する。	シラバスを熟読すること。
	2	社会を知る（1） 就活と仕事の現状	全国および学内のデータに基づいて現状を把握する。また、社会と仕事の関係を学ぶ。	配布資料などを熟読すること。
	3	社会を知る（2） 4年生またはOB/OGの就活体験談	4年生またはOB/OGの就活体験談を聴くとともに、質疑応答形式で学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。	自分の将来（進路）について考えてみよう。
	4	社会を知る（3） 一般常識とマナー	社会人としての常識やマナーがあるが、学生時代に習得、実践できるものが多いことを学ぶ。	学んだ一般常識やマナーを実践してみよう。
	5	自分のキャリア（進路・職業）を考える	自分の将来の進路・職業を意識しながら、キャリアプランについて考えてみる。	どのような職業や業種があるのか調べてみよう。
	6	パッケージプログラムの趣旨と概要	パッケージプログラムの種類と内容を把握し、自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムの選択について考えていく。	配布資料や説明の内容をしっかりと理解すること。
	7	パッケージプログラムの紹介（1）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
	8	パッケージプログラムの紹介（2）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
	9	パッケージプログラムの紹介（3）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
	10	パッケージプログラムの紹介（4）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
	11	パッケージプログラムの紹介（5）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
	12	パッケージプログラムの紹介（6）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
	13	パッケージプログラムの仮応募 各職業に関連する資格の紹介	パッケージプログラムの仮応募を行う。各職業に関連する資格を紹介する。	どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考えよう。 資格やその勉強法について調べてみよう。
	14	キャリアプランのレポート作成・提出 パッケージプログラムの仮応募の結果	自分のキャリアプランについてのレポートを作成し、提出する。 パッケージプログラムの仮応募の結果を発表する。（必要な者は再選択）	レポートを作成すること。
	15	総括（まとめ）	これまで学んできたことを総括する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみよう。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインⅠ、Ⅱなど
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢、提出物などから総合的に評価します。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	この授業を通じて、これからの大学生活でやるべきことや、卒業後の進路・職業について考えてみてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室
----------	-------------

備考	
----	--

キャリア形成科目

科目名	キャリアプランニング	科目名 (英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠、後藤 一章
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、前期の「キャリアデザイン」で学んだことと連動しています。社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の将来の進路や職業（キャリアプラン）について考えていきます。さらに後半は、将来のキャリアにつながる6つの職業分野によって構成されるパッケージプログラムについての概要を学びます。
到達目標	社会の仕組みや現状を知ることで自分の卒業後の仕事や方向性に意識を向け、それを将来就職活動に活かせるようになることを目標とします。また、様々な職業分野の概要を学び、次年度から開講される6つのパッケージプログラムの中からコースを選択します。
授業方法と留意点	講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。第7回～第12回（計6回）については、2クラス合同で授業を行うため、教室変更に注意してください。
科目学習の効果（資格）	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会を知る（1） 就活と仕事の現状	全国および学内のデータに基づいて現状を把握する。また、社会と仕事の関係を学ぶ。	配布資料などを熟読すること。
3	社会を知る（2） 4年生またはOB/OGの就活体験談	4年生またはOB/OGの就活体験談を聴くとともに、質疑応答形式で学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。	自分の将来（進路）について考えてみよう。
4	社会を知る（3） 一般常識とマナー	社会人としての常識やマナーがあるが、学生時代に習得、実践できるものが多いことを学ぶ。	学んだ一般常識やマナーを実践してみよう。
5	自分のキャリア（進路・職業）を考える	自分の将来の進路・職業を意識しながら、キャリアプランについて考えてみる。	どのような職業や業種があるのか調べてみよう。
6	パッケージプログラムの趣旨と概要	パッケージプログラムの種類と内容を把握し、自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムの選択について考えていく。	配布資料や説明の内容をしっかりと理解すること。
7	パッケージプログラムの紹介（1）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
8	パッケージプログラムの紹介（2）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
9	パッケージプログラムの紹介（3）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
10	パッケージプログラムの紹介（4）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
11	パッケージプログラムの紹介（5）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
12	パッケージプログラムの紹介（6）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
13	パッケージプログラムの仮応募 各職業に関連する資格の紹介	パッケージプログラムの仮応募を行う。各職業に関連する資格を紹介する。	どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考えよう。 資格やその勉強法について調べてみよう。
14	キャリアプランのレポート作成・提出 パッケージプログラムの仮応募の結果	自分のキャリアプランについてのレポートを作成し、提出する。 パッケージプログラムの仮応募の結果を発表する。（必要な者は再選択）	レポートを作成すること。
15	総括（まとめ）	これまで学んできたことを総括する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみよう。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインⅠ、Ⅱなど
------	----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢、提出物などから総合的に評価します。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	この授業を通じて、これからの大学生活でやるべきことや、卒業後の進路・職業について考えてみてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階
----------	-------

備考	
----	--

キャリア形成科目

科目名	キャリアプランニング	科目名 (英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹, 天野 貴史
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、前期の「キャリアデザイン」で学んだことと連動しています。社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の将来の進路や職業（キャリアプラン）について考えていきます。さらに後半は、将来のキャリアにつながる6つの職業分野によって構成されるパッケージプログラムについての概要を学びます。
到達目標	社会の仕組みや現状を知ることで自分の卒業後の仕事や方向性に意識を向け、それを将来就職活動に活かせるようになることを目標とします。また、様々な職業分野の概要を学び、次年度から開講される6つのパッケージプログラムの中からコースを選択します。
授業方法と留意点	講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。第7回～第12回（計6回）については、2クラス合同で授業を行うため、教室変更に注意してください。
科目学習の効果（資格）	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会を知る（1） 就活と仕事の現状	全国および学内のデータに基づいて現状を把握する。また、社会と仕事の関係を学ぶ。	配布資料などを熟読すること。
3	社会を知る（2） 4年生またはOB/OGの就活体験談	4年生またはOB/OGの就活体験談を聴くとともに、質疑応答形式で学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。	自分の将来（進路）について考えてみよう。
4	社会を知る（3） 一般常識とマナー	社会人としての常識やマナーがあるが、学生時代に習得、実践できるものが多いことを学ぶ。	学んだ一般常識やマナーを実践してみよう。
5	自分のキャリア（進路・職業） を考える	自分の将来の進路・職業を意識しながら、キャリアプランについて考えてみる。	どのような職業や業種があるのか調べてみよう。
6	パッケージプログラムの趣 旨と概要	パッケージプログラムの種類と内容を把握し、自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムの選択について考えていく。	配布資料や説明の内容をしっかりと理解すること。
7	パッケージプログラムの紹介（1）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
8	パッケージプログラムの紹介（2）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
9	パッケージプログラムの紹介（3）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
10	パッケージプログラムの紹介（4）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
11	パッケージプログラムの紹介（5）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
12	パッケージプログラムの紹介（6）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
13	パッケージプログラムの仮 応募 各職業に関連する資格の紹介	パッケージプログラムの仮応募を行う。各職業に関連する資格を紹介する。	どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考えよう。 資格やその勉強法について調べてみよう。
14	キャリアプランのレポート 作成・提出 パッケージプログラムの仮 応募の結果	自分のキャリアプランについてのレポートを作成し、提出する。 パッケージプログラムの仮応募の結果を発表する。（必要な者は再選択）	レポートを作成すること。
15	総括（まとめ）	これまで学んできたことを総括する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみよう。

関連科目: キャリアデザイン、エンプロイメントデザインⅠ、Ⅱなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
	2			
	3			

評価方法（基準）: 授業に取り組む姿勢、提出物などから総合的に評価します。

学生へのメッセージ: この授業を通じて、これからの大学生活でやるべきことや、卒業後の進路・職業について考えてみてください。

担当者の研究室等: 7号館3階

備考:

科目名	キャリアプランニング	科目名 (英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子, 赤澤 春彦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、前期の「キャリアデザイン」で学んだことと連動しています。社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の将来の進路や職業（キャリアプラン）について考えていきます。さらに後半は、将来のキャリアにつながる6つの職業分野によって構成されるパッケージプログラムについての概要を学びます。
到達目標	社会の仕組みや現状を知ることで自分の卒業後の仕事や方向性に意識を向け、それを将来就職活動に活かせるようになることを目標とします。また、様々な職業分野の概要を学び、次年度から開講される6つのパッケージプログラムの中からコースを選択します。
授業方法と留意点	講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。第7回～第12回（計6回）については、2クラス合同で授業を行うため、教室変更に注意してください。
科目学習の効果（資格）	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会を知る（1） 就活と仕事の現状	全国および学内のデータに基づいて現状を把握する。また、社会と仕事の関係を学ぶ。	配布資料などを熟読すること。
3	社会を知る（2） 4年生またはOB/OGの就活体験談	4年生またはOB/OGの就活体験談を聴くとともに、質疑応答形式で学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。	自分の将来（進路）について考えてみよう。
4	社会を知る（3） 一般常識とマナー	社会人としての常識やマナーがあるが、学生時代に習得、実践できるものが多いことを学ぶ。	学んだ一般常識やマナーを実践してみよう。
5	自分のキャリア（進路・職業）を考える	自分の将来の進路・職業を意識しながら、キャリアプランについて考えてみる。	どのような職業や業種があるのか調べてみよう。
6	パッケージプログラムの趣旨と概要	パッケージプログラムの種類と内容を把握し、自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムの選択について考えていく。	配布資料や説明の内容をしっかりと理解すること。
7	パッケージプログラムの紹介（1）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
8	パッケージプログラムの紹介（2）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
9	パッケージプログラムの紹介（3）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
10	パッケージプログラムの紹介（4）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
11	パッケージプログラムの紹介（5）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
12	パッケージプログラムの紹介（6）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
13	パッケージプログラムの仮応募 各職業に関連する資格の紹介	パッケージプログラムの仮応募を行う。各職業に関連する資格を紹介する。	どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考えよう。 資格やその勉強法について調べてみよう。
14	キャリアプランのレポート作成・提出 パッケージプログラムの仮応募の結果	自分のキャリアプランについてのレポートを作成し、提出する。 パッケージプログラムの仮応募の結果を発表する。（必要な者は再選択）	レポートを作成すること。
15	総括（まとめ）	これまで学んできたことを総括する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみよう。

関連科目: キャリアデザイン、エンプロイメントデザインⅠ、Ⅱなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
2				
3				

評価方法（基準）: 授業に取り組む姿勢、提出物などから総合的に評価します。

学生へのメッセージ: この授業を通じて、これからの大学生活でやるべきことや、卒業後の進路・職業について考えてみてください。

担当者の研究室等: 林田研究室（7号館4階）

備考:

キャリア形成科目

科目名	キャリアプランニング	科目名(英文)	Career Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵, 田浦 アマンダ
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つであり、前期の「キャリアデザイン」で学んだことと連動しています。社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の将来の進路や職業（キャリアプラン）について考えていきます。さらに後半は、将来のキャリアにつながる6つの職業分野によって構成されるパッケージプログラムについての概要を学びます。
到達目標	社会の仕組みや現状を知ることで自分の卒業後の仕事や方向性に意識を向け、それを将来就職活動に活かせるようになることを目標とします。また、様々な職業分野の概要を学び、次年度から開講される6つのパッケージプログラムの中からコースを選択します。
授業方法と留意点	講義と演習を織り交ぜながら行っていきます。第7回～第12回（計6回）については、2クラス合同で授業を行うため、教室変更に注意してください。
科目学習の効果（資格）	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会を知る（1） 就活と仕事の現状	全国および学内のデータに基づいて現状を把握する。また、社会と仕事の関係を学ぶ。	配布資料などを熟読すること。
3	社会を知る（2） 4年生またはOB/OGの就活体験談	4年生またはOB/OGの就活体験談を聴くとともに、質疑応答形式で学生時代に準備すべきことや、普段から心掛けるべきことを学ぶ。	自分の将来（進路）について考えてみよう。
4	社会を知る（3） 一般常識とマナー	社会人としての常識やマナーがあるが、学生時代に習得、実践できるものが多いことを学ぶ。	学んだ一般常識やマナーを実践してみよう。
5	自分のキャリア（進路・職業） を考える	自分の将来の進路・職業を意識しながら、キャリアプランについて考えてみる。	どのような職業や業種があるのか調べてみよう。
6	パッケージプログラムの趣 旨と概要	パッケージプログラムの種類と内容を把握し、自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムの選択について考えていく。	配布資料や説明の内容をしっかりと理解すること。
7	パッケージプログラムの紹介（1）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
8	パッケージプログラムの紹介（2）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
9	パッケージプログラムの紹介（3）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
10	パッケージプログラムの紹介（4）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
11	パッケージプログラムの紹介（5）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
12	パッケージプログラムの紹介（6）	各パッケージプログラムの内容を説明する。（2クラス合同で行う）	配布資料や説明の内容を理解し、自分の適性と照らし合わせて考えてみよう。
13	パッケージプログラムの仮 応募 各職業に関連する資格の紹介	パッケージプログラムの仮応募を行う。各職業に関連する資格を紹介する。	どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考えよう。 資格やその勉強法について調べてみよう。
14	キャリアプランのレポート 作成・提出 パッケージプログラムの仮 応募の結果	自分のキャリアプランについてのレポートを作成し、提出する。 パッケージプログラムの仮応募の結果を発表する。（必要な者は再選択）	レポートを作成すること。
15	総括（まとめ）	これまで学んできたことを総括する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみよう。

関連科目: キャリアデザイン、エンプロイメントデザインⅠ、Ⅱなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて指示します。		
2				
3				

評価方法（基準）: 授業に取り組む姿勢、提出物などから総合的に評価します。

学生へのメッセージ: この授業を通じて、これからの大学生活でやるべきことや、卒業後の進路・職業について考えてみてください。

担当者の研究室等: 7号館5階 松田研究室

備考:

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活に必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高嶋 藍
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活に必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
	15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 教子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活に必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
	15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	人形寺 英利子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活に必要な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
	6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	前回の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	10	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
	11	レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
	12	フィードバック レポートの書き方 2	課題 2 のフィードバック レポート作成の注意点を教える	前回の復習
	13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題 2 を見直す
	14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
	15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活に必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題1】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目: キャリアデザイン

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高嶋 藍
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活に必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

キャリア形成科目

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 教子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活に必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	人形寺 英利子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活に必要な文章の書き方を習得することができる。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につけることができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 毎回語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	社会生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	—————
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポートの作成	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題1を見直す
	7	【課題2】手紙	手紙を作成する	前回の復習
	8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
	9	フィードバック	課題2のフィードバック	前回の復習
	10	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	課題2を見直す テーマの下調べ
	11	ディスカッション2	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
	14	【課題3】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組みなど(30%)により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

キャリア形成科目

教 職 科 目



科目名	英語科教育法 I	科目名 (英文)	English Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	家口 美智子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。これから英語教師になる学生は、それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、過去の英語教育の歴史を始め、英語教授法や授業のスキル等を身につけてもらうことが、この授業の目的である。当然、更なる英語力の伸長やレベルの高いプレゼンテーション能力向上も培ってもらいたい。																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導案が書けるようになる。 2. 工夫した授業ができるようになる。 3. 自らのパフォーマンスを客観的に見て、弱点を改善することができる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では基本的に講義と演習（発表）を併用して展開します。必ず予習をして出席すること。授業での発表、態度、出席状況は特に重視する。																																																																		
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語科教育法とは 実力診断テスト</td> <td>序章</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>日本の英語教育の歴史</td> <td>第1章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>学習指導要領</td> <td>第2章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語教授法 (1) 及び指導案作成</td> <td>第3章 (前半) (1h)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語教授法 (2) 及び模擬授業</td> <td>第3章 (後半) (1h)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語教員の役割等</td> <td>第4章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>第1言語習得と第2言語習得</td> <td>第5章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>学習者理論</td> <td>第6章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>コミュニケーション能力・国際理解教育</td> <td>第7章・第8章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>4 技能の指導(1)</td> <td>第11章・第12章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>4 技能の指導(2)</td> <td>第13章・第14章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>語彙・文法指導</td> <td>第15章・第16章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>中学校での指導</td> <td>第18章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>高等学校での指導</td> <td>第19章 (1h)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>総復習</td> <td>—————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 実力診断テスト	序章	2	英語教育の基礎理論	日本の英語教育の歴史	第1章 (1h)	3	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第2章 (1h)	4	英語教育の基礎理論	英語教授法 (1) 及び指導案作成	第3章 (前半) (1h)	5	英語教育の基礎理論	英語教授法 (2) 及び模擬授業	第3章 (後半) (1h)	6	英語教育の基礎理論	英語教員の役割等	第4章 (1h)	7	英語教育の基礎理論	第1言語習得と第2言語習得	第5章 (1h)	8	英語教育の基礎理論	学習者理論	第6章 (1h)	9	英語教育の基礎理論	コミュニケーション能力・国際理解教育	第7章・第8章 (1h)	10	英語教育の実践編	4 技能の指導(1)	第11章・第12章 (1h)	11	英語教育の実践編	4 技能の指導(2)	第13章・第14章 (1h)	12	英語教育の実践編	語彙・文法指導	第15章・第16章 (1h)	13	英語教育の実践編	中学校での指導	第18章 (1h)	14	英語教育の実践編	高等学校での指導	第19章 (1h)	15	まとめ	総復習	—————
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 実力診断テスト	序章																																																																
2	英語教育の基礎理論	日本の英語教育の歴史	第1章 (1h)																																																																
3	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第2章 (1h)																																																																
4	英語教育の基礎理論	英語教授法 (1) 及び指導案作成	第3章 (前半) (1h)																																																																
5	英語教育の基礎理論	英語教授法 (2) 及び模擬授業	第3章 (後半) (1h)																																																																
6	英語教育の基礎理論	英語教員の役割等	第4章 (1h)																																																																
7	英語教育の基礎理論	第1言語習得と第2言語習得	第5章 (1h)																																																																
8	英語教育の基礎理論	学習者理論	第6章 (1h)																																																																
9	英語教育の基礎理論	コミュニケーション能力・国際理解教育	第7章・第8章 (1h)																																																																
10	英語教育の実践編	4 技能の指導(1)	第11章・第12章 (1h)																																																																
11	英語教育の実践編	4 技能の指導(2)	第13章・第14章 (1h)																																																																
12	英語教育の実践編	語彙・文法指導	第15章・第16章 (1h)																																																																
13	英語教育の実践編	中学校での指導	第18章 (1h)																																																																
14	英語教育の実践編	高等学校での指導	第19章 (1h)																																																																
15	まとめ	総復習	—————																																																																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Get It Write</td> <td>Yasuhiro Ichikawa / Peter Serafin</td> <td>Kinseido</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新学習指導要領にもとづく英語科教育法 改訂版</td> <td>望月昭彦編</td> <td>大修館書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Get It Write	Yasuhiro Ichikawa / Peter Serafin	Kinseido	2	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 改訂版	望月昭彦編	大修館書店	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Get It Write	Yasuhiro Ichikawa / Peter Serafin	Kinseido																																																																
2	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 改訂版	望月昭彦編	大修館書店																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	模擬授業(10%)+学習指導案(5%)+授業中の参加度(5%)+テスト(80%)で評価する。 模擬授業はわかりやすさと工夫度を評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	英語教師を希望する人に、英語教育の初歩から応用まで、英語教育学全般を全てを学んでもらいたいと思います。この授業が皆さんの英語教師への道のりに役に立てばと思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階(家口研究室)																																																																		
備考	高い英語力を身につけること。 Skype教材 3,200円（詳しくは初回の授業で説明する）																																																																		

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名(英文)	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	これからの時代にも対応できる英語教授法や具体的な指導のスキルを、英語に対する深い愛着と共に身につけてもらうことがこの授業の目的である。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や授業分析、評価などを演習を通して学ぶ。教育機器の効果的な使い方を覚えたり、他者の目でみたクラス構築の重要な手法も紹介する。授業指導案作成に役立つ情報は、適宜追加提示する。
到達目標	・現代の日本の中学校、高等学校での英語の授業を想定し、自分で情報を集め、授業案を作成する。 ・プランを推敲し、実際に動きにうつして、さまざまな可能性を考察し、オプションの多い授業案を作れるようになる。 ・自分の、そして他の学生による模擬授業を分析的に見て、アクションリサーチする基礎を身につける。
授業方法と留意点	・毎回の授業で予習・参加が必須。 ・英語の文法や語彙、スペルなど、基礎から各自で復習をしておく。 ・どの科目も「受講生の目」と「授業を創る側」の両方の立場で分析的に見るようにしよう。 ・理論を学ぶと共に、実際に各々が短い授業を企画・担当する。
科目学習の効果(資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習(読み方・聞き分け・調音の仕組み)
	2	英語の文法・構文指導 小学校での外国語活動(1)	文法・語彙指導とその方法 小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と英語の本の多読(1)
	3	コミュニケーション・デザイン 小学校での外国語活動(2)	言葉を介したコミュニケーションの土台となる対人関係について 小学校での外国語活動の学習活動体験	基本的な英文法の復習と英語の本の多読(2)
	4	リーディング 中学校の検定教科書(1)	読解の指導・スキミングやスキミング等を中心に 中学校の検定教科書を分析する	基本的な英文法の復習と英語の本の多読(3)
	5	リスニング 中学校の検定教科書(2)	リスニング力の向上の方法に関して 中学校で学ぶ語彙・文法について	英語の本の多読と音読(1)
	6	スピーキング	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	英語の本の多読と音読(2)
	7	ライティング 高等学校の検定教科書(1)	ライティングの指導法・方法論に関して 高等学校の検定教科書を分析する	英語の本の多読と音読(3)
	8	教材研究の仕方 高等学校の検定教科書(2)	普段の授業準備・日常の研修について 高等学校のさまざまな検定教科書を比較する	過去の受講生の模擬授業映像の分析(1)
	9	教科書の選び方	レベルと指導法・授業目標を中心に 指導案の書き方(1)	過去の受講生の模擬授業映像の分析(2)
	10	カリキュラムの立て方	カリキュラムの理論：基礎と作り方 指導案の書き方(2)	過去の受講生の模擬授業映像の分析(3)
	11	板書と教材作成	板書と教材：アイデアを最大限に生かす形で実現するには	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習
	12	5分間英語のみの模擬授業(1)	自分で企画した授業をクラスで実践する	グループ別に授業の練習(1)
	13	5分間英語のみの模擬授業(2)	自分で企画した授業をクラスで実践する	グループ別に授業の練習(2)
	14	5分間英語のみの模擬授業(3)	自分で企画した授業をクラスで実践する	グループ別に授業の練習(3)
	15	授業の自己分析と評価	ビデオ録画による分析と改善	—————

関連科目 教職科目全般と関連があるので、これまで学習した内容について、復習し整理しておくことが大切である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 ISBN: 978-4-469-24558-5	望月昭彦 編著	大修館書店
	2	『The History of the English Language』 [Oxford Bookworms Library Stage 4] ISBN: 978-0-19-423397-2	Brigit Viney	Oxford UP
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新学習指導要領』	文部科学省	文部科学省 HP に掲載
	2			
	3			

評価方法(基準)
(1) 授業に対する熱意・予習・復習・質問への応答が合格の土台となる。
(2) 模擬授業の準備から実践、自己・相互評価という一連の過程も、実技やレポートを通して評価対象とする。
(3) 実技の他に、筆記の定期試験を実施。

学生へのメッセージ
教員を希望する人に、英語教育の初歩から応用までを学んでもらいたいと思います。教育の現状と課題についても一緒に考えましょう。この授業が皆さんの英語教師への道程に役に立てばと思います。

担当者の研究室等
7号館4階(齋藤研究室)

備考	<p>責任をもって教科を教える人となるためには、その教科の正確な知識と運用力が必要です。この授業を十分に理解し、英語で lesson plan を作成するには、TOEIC550 点程度の英語の力が求められます。</p> <p>3 年次後期には TOEIC600 点以上を、卒業までには TOEIC730 点・英検準 1 級の取得をめざしましょう。</p>
----	---

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名(英文)	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	学習者や社会の変化に対応できる英語教授法や具体的な指導のスキルを、英語に対する深い愛着と共に身につけてもらうことがこの授業の目的である。スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や授業分析、評価などを演習を通して学ぶ。教育機器の効果的な使い方を覚えたり、他者の目でみたクラス構築の重要な手法も紹介する。さらに同級生と互いの授業を改善するための建設的なディスカッション方法も学ぶ。
到達目標	・現代の日本の中学校、高等学校での英語の授業を想定し、自分で情報を集め、授業案を作成する。 ・プランを推敲し、実際に動きにうつして、さまざまな可能性を考察し、オプションの多い授業案を作れるようになる。 ・自分の、そして他の学生による模擬授業を分析的に見て、アクションリサーチする基礎を身につける。
授業方法と留意点	・毎回の授業で予習・参加が必須。 ・英語の文法や語彙、スペルなど、基礎から各自で復習をしておく。 ・どの科目も「受講生の目」と「授業を創る側」の両方の立場で分析的に見るようにしよう。 ・理論を学ぶと共に、実際に各々が短い授業を企画・担当する。
科目学習の効果(資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	音声指導(1)+指導案作成	調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
	2	音声指導(2)+指導案作成	英語の音と日本語の音のちがいが	音の出し方を他人に説明する練習をする
	3	音声指導(3)+模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
	4	対面のコミュニケーションを教える(1)+模擬授業	対面コミュニケーションを支える要素	自分のスピーチをビデオ録画で観察する
	5	対面のコミュニケーションを教える(2)+模擬授業	言語と非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションを意識的に変えてみる
	6	対面のコミュニケーションを教える(3)+模擬授業	上達のためのコーチング	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
	7	教材開発：身近な題材(1)+模擬授業	何でも教材になる	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
	8	教材開発：身近な題材(2)+模擬授業	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
	9	教材開発：機器を使う(1)+模擬授業	使えるものは何でも使ってみよう：学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
	10	教材開発：機器を使う(2)+模擬授業	授業の狙いと機器の価値：実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
	11	教育実習先での授業と指導案の分析(1)	自分で企画した授業をクラスで分析する	授業見学
	12	教育実習先での授業と指導案の分析(2)	自分で企画した授業をクラスで分析する	授業見学
	13	教育実習先での授業と指導案の分析(3)	自分で企画した授業をクラスで分析する	授業見学
	14	アクションリサーチとは	問題があることに気づく・解決のために行動する	自分の行動を振り返って自己分析を書く
	15	まとめ	今学期の自分の変化を語る・今後の目標と到達のための手がかりを探す	これまでの自分の模擬授業を振り返る

関連科目 教職科目全般と関連があるので、これまで学習した内容について、復習し整理しておくことが大切である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂版 新学習指導要領にもとづく英語科教育法 ISBN: 978-4-469-24558-5	望月昭彦 編著	大修館書店
	2	The History of the English Language [Oxford Bookworms Library Stage 4] ISBN: 978-0-19-423397-2	Brigit Viney	Oxford UP
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新学習指導要領	文部科学省	文部科学省 HPに掲載
	2			
	3			

評価方法(基準)
 (1) 授業に対する熱意・予習・復習・質問への応答が合格の土台となる。
 (2) 模擬授業の準備から実践、自己・相互評価という一連の過程も実技やレポートを通して評価対象とする。
 (3) 正しく科目[英語]を教えるだけの語学の知識と運用能力があることを示すための、レポート課題

学生へのメッセージ 教員を希望する人に、英語教育について身体を動かし、感性を働かせて学んでもらいたいと思います。

担当者の研究室等 7号館4階(齋藤研究室)

備考 ・責任をもって教科を教える人となるためには、その教科の正確な知識と運用力が必要です。この講義を十分理解し、企画・実技を行うためには、

TOEIC550 点程度の英語の知識が必要です。

・3 年次後期には TOEIC600 点以上を、卒業までには TOEIC730 点・英検準 1 級の取得をめざしましょう。

科目名	英語科教育法Ⅳ	科目名(英文)	English Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	家口 美智子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。これから英語教師になる学生は、それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、過去の英語教育の歴史を始め、英語教授法や授業のスキル等を身につけてもらうことが、この授業の目的である。当然、更なる英語力の伸長やレベルの高いプレゼンテーション能力向上も培ってもらいたい。																																																																		
到達目標	1. 指導案が書けるようになる。 2. 工夫した授業ができるようになる。 3. 自らのパフォーマンスを客観的に見て、弱点を改善することができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では基本的に講義と演習(発表)を併用して展開します。必ず予習をして出席すること。授業での発表、態度、出席状況は特に重視する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項:各教科の指導法																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語科教育法とは 実力診断テストの実施</td> <td>序章(1h)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>日本の英語教育の歴史</td> <td>第1章(1h)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>学習指導要領</td> <td>第2章(1h)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語教授法(1)及び指導案作成</td> <td>第3章(前半)(1h)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語教授法(2)及び模擬授業</td> <td>第3章(後半)(1h)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>英語教員の役割等</td> <td>第4章(1h)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>第1言語習得と第2言語習得</td> <td>第5章(1h)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>学習者理論</td> <td>第6章(1h)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>英語教育の基礎理論</td> <td>コミュニケーション能力・国際理解教育</td> <td>第7章・第8章(1h)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>4技能の指導(1)</td> <td>第11章・第12章(1h)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>4技能の指導(2)</td> <td>第13章・第14章(1h)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>語彙・文法指導</td> <td>第15章・第16章(1h)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>中学校での指導</td> <td>第18章(1h)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>英語教育の実践編</td> <td>高等学校での指導</td> <td>第19章(1h)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>総復習</td> <td>—————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 実力診断テストの実施	序章(1h)	2	英語教育の基礎理論	日本の英語教育の歴史	第1章(1h)	3	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第2章(1h)	4	英語教育の基礎理論	英語教授法(1)及び指導案作成	第3章(前半)(1h)	5	英語教育の基礎理論	英語教授法(2)及び模擬授業	第3章(後半)(1h)	6	英語教育の基礎理論	英語教員の役割等	第4章(1h)	7	英語教育の基礎理論	第1言語習得と第2言語習得	第5章(1h)	8	英語教育の基礎理論	学習者理論	第6章(1h)	9	英語教育の基礎理論	コミュニケーション能力・国際理解教育	第7章・第8章(1h)	10	英語教育の実践編	4技能の指導(1)	第11章・第12章(1h)	11	英語教育の実践編	4技能の指導(2)	第13章・第14章(1h)	12	英語教育の実践編	語彙・文法指導	第15章・第16章(1h)	13	英語教育の実践編	中学校での指導	第18章(1h)	14	英語教育の実践編	高等学校での指導	第19章(1h)	15	まとめ	総復習	—————
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 実力診断テストの実施	序章(1h)																																																																
2	英語教育の基礎理論	日本の英語教育の歴史	第1章(1h)																																																																
3	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第2章(1h)																																																																
4	英語教育の基礎理論	英語教授法(1)及び指導案作成	第3章(前半)(1h)																																																																
5	英語教育の基礎理論	英語教授法(2)及び模擬授業	第3章(後半)(1h)																																																																
6	英語教育の基礎理論	英語教員の役割等	第4章(1h)																																																																
7	英語教育の基礎理論	第1言語習得と第2言語習得	第5章(1h)																																																																
8	英語教育の基礎理論	学習者理論	第6章(1h)																																																																
9	英語教育の基礎理論	コミュニケーション能力・国際理解教育	第7章・第8章(1h)																																																																
10	英語教育の実践編	4技能の指導(1)	第11章・第12章(1h)																																																																
11	英語教育の実践編	4技能の指導(2)	第13章・第14章(1h)																																																																
12	英語教育の実践編	語彙・文法指導	第15章・第16章(1h)																																																																
13	英語教育の実践編	中学校での指導	第18章(1h)																																																																
14	英語教育の実践編	高等学校での指導	第19章(1h)																																																																
15	まとめ	総復習	—————																																																																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Get It Write</td> <td>Yasuhiro Ichikawa / Peter Serafin</td> <td>Kinseido</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新学習指導要領にもとづく英語科教育法(改訂版)</td> <td>望月昭彦編</td> <td>大修館書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Get It Write	Yasuhiro Ichikawa / Peter Serafin	Kinseido	2	新学習指導要領にもとづく英語科教育法(改訂版)	望月昭彦編	大修館書店	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Get It Write	Yasuhiro Ichikawa / Peter Serafin	Kinseido																																																																
2	新学習指導要領にもとづく英語科教育法(改訂版)	望月昭彦編	大修館書店																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	模擬授業(10%)+学習指導案(5%)+授業中の参加度(5%)+テスト(80%)で評価する。 模擬授業はわかりやすさと工夫度を評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	英語教師を希望する人に、英語教育の初歩から応用まで、英語教育学全般を全てを学んでもらいたいと思います。この授業が皆さんの英語教師への道のりに役に立てばと思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階(家口研究室)																																																																		
備考	高い英語力を身につけること。																																																																		

教職科目

科目名	教育課程論	科目名(英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育課程の意義及び編成の方法 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践の開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画でき、かつ、実践できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進めるが、そのほとんどは学生主体の発表(プレゼンテーション)を行うなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を複数概観しておくことが望ましい。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項:教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題:シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義:高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題:テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題:テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題:シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
5	教育評価	発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題:事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	『総合的な学習の時間』について	・導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	学校化された社会	「隠れたカリキュラム」について(学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程 その2	「人権教育/平和教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程 その3	「シティズンシップ」教育について(学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり=小中編(学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革 その2	特色のある学校づくり=高校編(学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括:教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向と国内の問題について。	課題:事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育課程	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣アルマ
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験、レポート及び授業態度や授業への貢献度(発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること(全回出席すること)。

学生へのメッセージ 第一回目欠席者に対しては別途課題を課すので担当者(大野)に直接問い合わせること。問い合わせのない場合、成績評価から外すことがあるので注意すること。
教職科目の特質をよく理解し、実践的理解を深めることが大切である。そのため、各自の中学校・高等学校での体験をふりかえり、学ぶことの視点に立った、計画的学習を考えること。また「教育実習」を視野に入れた授業計画を考えることが重要。

担当者の 7号館3階(大野順子研究室)

研究室等	
備考	2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちにってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用の仕方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をするほか、掲示板機能を使用しディスカッションもします。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTD、「未来ポートフォリオ」の使用について説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	「未来ポートフォリオ」のリマインダを設定しておく。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第3章1節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第3章2節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第7章1・2節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第3章3節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第7章2・3節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編成	テキスト第4章1・2節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第4章3・4節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章1・2節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章3・4節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第8章1・2節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第8章3・4節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第2章1節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第2章2・3節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第6章を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育行政学 改訂版	勝野正章・藤本典裕編	学文社
2				
3				

教職科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		適宜指示します。	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、受講に係る積極的態度 10%の割合で総合的に評価します。定期試験を受験しなかった場合は成績評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。			

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	「そもそも、「教育」とはいったい何なのだろう、このような問いを立てたことはありませんか。例えば、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてももう一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができますようにします。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
	2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。
	3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、もう一度「野生児」は教育されるべきであったかについて、改めて考える。
	4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
	5	教育をめぐる諸論②:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	自分の「子ども」一般に対するイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、もう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
	6	教育をめぐる諸論③:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」(あるいは「人間形成」)観の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の考え方の違いを、授業後にもう一度整理しておく。
	7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
	8	教育の思想の歴史②	カント、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
	9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
	10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
	11	日本の教育の歴史②	大正自由教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
	12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
	13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
	14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分がどのような教師になりたいか」を考えておく。
	15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

教職科目

	1	参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階(小山研究室)			
備考				

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	「そもそも、「教育」とはいったい何なのだろう、このような問いを立てたことはありませんか。例えば、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてももう一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができますようにします。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
	2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについて、考える。
	3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、もう一度「野生児」は教育されるべきであったかについて、改めて考える。
	4	教育をめぐる諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要因である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
	5	教育をめぐる諸論②:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	自分の「子ども」一般に対するイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、もう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
	6	教育をめぐる諸論③:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」(あるいは「人間形成」)観の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の考え方の違いを、授業後にもう一度整理しておく。
	7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
	8	教育の思想の歴史②	カント、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
	9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
	10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
	11	日本の教育の歴史②	大正自由教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
	12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
	13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
	14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「過去と未来の媒介者」という観点から考える。	「自分がどのような教師になりたいか」を考えておく。
	15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階(小山研究室)			
備考				

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育実習 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	(1) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、授業が効果的に展開できるようにする。(2) 教育実習の実際についての情報を提供し、これらにもとづく討議ならびにビデオ等を用いた演習を交えて授業を展開する。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに教育実習生としての基本的心がまえについての理解を深める。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 来年度の教育実習に向けて、高い授業力や指導力を身に付ける。 (2) 学校組織のあり方、学校が抱える諸問題等、近年の学校教育全体の動向について興味関心を持ち、それらへの理解を深める。
授業方法と留意点	テキスト (授業内で指示する) を中心にプリント、視聴覚教材等を用いた演習方式で進める。また、模擬授業、レポートや各自の中学校・高等学校時代の経験発表などにより理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	教育実習の現状について	・中学校/高等学校の現状と課題について (講義と全体討論) ※可能であれば中高での実習経験者にオブザーバーとして授業に参加してもらう。	事前課題 課題資料の要約 (詳細は第一回目の授業で指示する)
3	教育実習の内容・方法・心構え	・前半:教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について (視聴覚教材使用予定) ・後半:授業前半を受けてグループワーク	宿題 (事後学習) 授業のまとめ
4	教育実習の実際 (中学校)	・ビデオ等教材を通して、中学校での実習への理解を深める ・意見交換及び討議 ※可能であれば中学校での教育実習経験者に授業へオブザーバーとして参加してもらう。	宿題 (事後学習) 授業のまとめ
5	教育実習の実際 (高等学校)	・ビデオ等教材を通して、高等学校での実習への理解を深める ・意見交換及び討議 ※可能であれば高等学校での教育実習経験者に授業へオブザーバーとして参加してもらう。	宿題 (事後学習) 授業のまとめ
6	授業づくりの方法と準備	・学習指導と教材研究について (各自、集めてきた教材の発表を行う。)	事前課題 各自授業を行うと仮定し、その授業に必要な教材を集めてくる。
7	学習指導案の作成 (1)	・前半:授業の準備と配慮事項・学習指導案の書き方・教科指導の学習指導案を作成について。 ・後半:グループに分かれ、簡単な指導案を作成する。	事前課題 テキストの該当する分を読んでおく (第6回授業で詳細は指示する)。
8	学習指導案の作成 (2)	・板書計画について ・授業の自己評価とその観点について	事前課題 第7回で作成した指導案を各自見直してくる。
9	模擬授業 (1)	・実際に模擬授業 (30 分間の短縮バージョン) を行い、全体で評価し合う。 ※模擬授業をしないものは模擬授業に対して必ずコメントする。	課題 コメントカードの提出
10	模擬授業 (2)	・実際に模擬授業 (30 分間の短縮バージョン) を行い、全体で評価し合う。 ※模擬授業をしないものは模擬授業に対して必ずコメントする。	課題 コメントカードの提出
11	実習中の勤務の要領	・学校の一、一週間の流れ・学校の組織と運営の概要について	事前課題 テキストの該当する部分、および配布資料を読んでおく (詳細は第 10 回授業終了時に指示する)。
12	学校における人権教育等について	・人権教育とは ・人権教育の現状と課題について (人権教育に関するワークショップの実施)	事前課題 人権教育に関する資料 (第 11 回授業で配布) を読んでおく。
13	特別支援教育の現状と課題	・特別支援教育について・障害の種類と配慮事項 ・障害児理解と交流教育について	事前課題 事前配布資料を読み、まとめる (第 12 回授業時に配布)。
14	事後学習と研究レポート	・実習で学んだことの整理・考察・評価と研究レポートの作成 ・グループワークと全体での意見交換	宿題 (事後学習) 授業のまとめ (研究レポート)
15	期末レポート作成、および可能であればその発表	_____	_____

関連科目	教職科目全般と関連があるので、これまで学習した内容について、復習し整理しておくことが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

教職科目

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席状況、期末レポート、模擬授業、学習指導案等及び平常点によって総合評価を行う。遅刻は欠席とする。			
学生への メッセージ	教職科目の特質をよく理解し、「学ぶこと」を通して「教えること」への実践的理解を深めることが大切である。また、「教育実習」はこれまでの学習の総まとめであることを自覚して、実習に備えること。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)			
備考	状況により授業計画が変更されることがある。			

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育実習 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において2週間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出
3	教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)
4	前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
5	教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
6	後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
7	教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
8	教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出
9	教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

関連科目	教職関連科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。
----	------------------------------------

教職科目

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育実習 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において4週間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教諭の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育実習特別個人指導(4月)	教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。	個別の呼び出しに速やかに応じる
	2	教育実習事前指導(4月～5月)	教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論	申請書類等の記入・提出
	3	教育実習個人指導(4月～5月)	教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。	教材・学習指導案を作成して提出(必要な者のみ)
	4	前期教育実習開始(5月～6月)	実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
	5	教育実習体験発表会(6月～7月)	教育実習終了後、体験発表を行う。発表方法の詳細は、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
	6	後期教育実習開始(9月～10月)	後期教育実習予定者の実習を行う。実習中、本学教員による訪問指導を行う。	教材研究、学習指導案作成
	7	教育実習体験発表会(10月)	後期教育実習生について、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示による。	体験レポートの提出 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しの提出
	8	教育実習総括講義(10月)	教育実習のまとめとして、その意義を確認する。	教育実習記録の提出
	9	教育実践指導(1月～3月)	教員採用選考試験合格者に対する指導を行う。	指示された課題
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			

関連科目	教職関連科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。
----	------------------------------------

教職科目

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教職実践演習 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。1グループは15～20名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の目的、内容方法についての確認 ・各自の教育実習後の課題についての確認 ・3回以降のグループ学習の各課題の確認 	・教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (生徒指導・進路指導のあり方) についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (教科指導のあり方) についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業について、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同	(事前) 自分は教師としてどのように生きていきたいかを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。

			時に「人間」であり、「自律した市民」でもある。ここでは、こうした二重の生を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。																	
	11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	(事前) 自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。																
	12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。																
	13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしなが、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日素明、大野順子、小山裕樹、林茂樹、吉田佐治子																			
備考																				

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的
 近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部のみで対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会的視点からとらえ、検討していくことを目標とします。皆さんがこれまでの学校生活で直接経験してきた身近な教育問題から地域や国の政策レベルでの取り組み、そして海外における事例等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性を学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

到達目標
 本講義の到達目標は以下の通りです。
 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。
 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。
 3. 教育に関わる諸問題を社会的視点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力が養える。
 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見を表現し、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

授業方法と留意点
 講義形式を中心としますが、適時、受講生全員で講義で取り扱う教育問題についてどのように考えているかそれぞれ発表してもらい、問題解決に向け議論する手法を取り入れるなど、演習(ゼミ)方式を取り入れ、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。そこで、よりよい議論の時間を保証するためにも、毎時、取り扱うテーマに関する文献等を読み(事前配布かテキスト使用)、それを講義日までに要約してきてもらいます(毎回それを提出してもらおうことになります。提出が不十分な学生は成績対象から外す。)
 ○準備学習の具体的な方法
 指定しているテキストを購入し、講義で扱うテーマに該当する部分を要約しておいて下さい。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておいてください。また、履修する学生の皆さんには本講義用に1冊ノートを作成してもらいます。そのノートに上記、予習や新聞等の切り抜き等を貼り付けるなど利用して下さい(まとめかたは自由)。※ノートの提出は提出してもらおうことでもあります。

科目学習の効果(資格)
 (1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：教育の基礎理論に関する科目
 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：教科書の第1章、第2章の要約。
3	教師と子ども	「教師－生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：教科書の第3章、第4章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考える。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会的視点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会的視点から迫り、解釈する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：教科書の第7章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題：教科書の第9章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題：事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：教科書の第10章の要約。

関連科目
 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『[教師教育テキストシリーズ5] 教育社会学』	久富善之・長谷川裕編	学文社
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席・授業参加度、試験、課題・ノートにより総合的に評価（予定） ※欠席が80%に満たない場合は成績評価の対象外とします。			
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、学校現場での活動経験（学習支援、授業支援、部活指導等内容は問わない無償・有償ボランティア活動）をしている（過去に長期間にわたり経験したことがある）ことが望ましい。活動経験のない者、現在、学校等において活動していない者は活動することを義務づけることがあるのでよく考えて履修することを決めること。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)			
備考				

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育の基礎理論に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方や、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。

科目学習の 効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	—————
2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
9	こどもの学び2	様々な学習(2)………道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	心理学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
----------	-----------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方やカウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目 教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	グループ発表 50% 期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	

教職科目

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	(1) 自己の被教育体験を出発点に、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を経て、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。 (2) 生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しつつ、教室を学びの場に変えていくことをめざす授業を構想、構成する。 (3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師の専門性を向上させることだけでなく、相互に学び合うことを可能にする同僚性を構築すること、及び教育学研究の新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。
---------	--

到達目標	(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、チーム内での協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。
------	---

授業方法と留意点	講義が中心となるが、インタラクティブな授業となるよう努める。また、学習指導案の作成に向けて、個人ワーク、グループワーク、グループ討議を適宜織り交ぜる。
----------	---

科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育方法の実践的探求にむけて	学習観・授業観・学校観の問い直し、教育方法学の学際的性格、多様な学びのあり方、学校教育における教師の役割	教科書第1章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
2	学校とは何か	学校観の変遷、教室の観察、授業の会話分析、なぜ勉強するのか、現代社会における学校の役割	教科書第2章及び配布プリントを読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
3	学習の再定義	学習の理論、新しい学力観、学びのメカニズム、学習の方法、客観主義的知識観と構成主義知識観	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
4	教室という空間	教師・生徒関係、授業のルール、授業のめあてと流れ、隠れたカリキュラム、生徒の生活背景・文化的背景を視野に入れる	第5章、第8章4以下をよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
5	カリキュラムの編成	学習指導要領と教育課程、カリキュラムの構造と類型、教科学習と総合的な学習、トラッキングと社会的再生産	教科書第3章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
6	情報化社会と教育	デジタル教材、ICTを活用した授業、情報活用能力の育成、情報リスクへの対応、校務事務処理の情報化	教科書第4章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
7	学習の組織化	学習のスタイル、教授のスタイル、教材とメディアの活用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
8	授業の設計	生徒の実態把握、目標の設定、授業方法の決定、指導案の作成、授業、評価活動	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
9	学力調査と学力の構造	学力低下論争、学力調査の実施、学力格差の拡大、キー・コンピテンシー	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
10	教育評価	教育測定、相対評価と絶対評価、診断的評価、形成的評価と総括的評価、指導と評価の一体化、授業評価アンケート	教科書第6章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
11	対話的・協同的な学びと学級づくり	学習意欲低下の背景、授業崩壊、不登校・高校中退、関係づくり、学び合い	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
12	教育思想の歴史と教育方法	コメンテュスからエンゲストロームまで近代学校に影響を与えた教育思想を振り返る	教科書第8章3までを読んでおく。学習内容を整理する。
13	授業研究の現状と課題	公開授業・研究授業、授業観察、校内授業研究、校種間連携、キャリア・アップ	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
14	教員間の協力協働	課題意識と実践の共有、協同的同僚性、バーンアウト、教員文化・学校組織文化の変革	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を振り返り整理する。
15	学び続ける教員像	教師のライフサイクル、情報技術の革新、反省的实践家、学びの専門家、各種研修	教科書第7章を読んでおく。学習内容を振り返り整理する。

関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育の方法・技術	岩川直樹編	学文社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	子どもに向き合う授業づくり	生田孝至	図書文化
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)
備考	

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教職の意義等に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種機会の提供等 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 課題提示・レポート提出をするほか、掲示版機能を使用しディスカッションもします。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)・進路選択に資する各種の機会の提供等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要・「未来ポートフォリオ」の使用について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	「未来ポートフォリオのリマインダ設定」 本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	テキスト第1章
3	教師教育と教職の専門性(1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	テキスト第10章
4	教師教育と教職の専門性(2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	テキスト第4章・第12章
5	教師教育と教職の専門性(3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	テキスト第3章
6	教師教育と教職の専門性(4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料 テキスト第11章
7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	テキスト第2章・終章
8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第5章・第8章
13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	テキスト第7章 教職員の構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	テキスト第9章

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 教職論―「よい教師」への扉を開く―	佐島群已・小池俊夫編	学文社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1		適宜指示します。	
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験を実施します。その他、レポートの内容、受講に係る積極的態度も成績判定の資料とします。
学生への メッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしておきましょう。

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目【各科目に含めることが必要な事項】・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法【教員免許状取得のための履修区分】必修		

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的に普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	中間試験	これまでの授業内容についての試験	前回までの復習
9	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
10	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
11	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
12	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
13	進路指導の意義と課題	進路指導の意義と課題 進路指導に関する諸理論	テキスト pp. 135-159
14	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井真治・熊谷信順編	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			適宜指示します。
2				
3				

評価方法(基準)	中間試験、定期試験の得点の他、レポートの内容、受講に係る積極的態度により、総合的に成績を判定します。定期試験を受験しなかった場合、成績判定はしません。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	「未来ポートフォリオ」のリマインダを、すべてを受信するよう設定し、情報を確実に受け取ることができるようにしましょう。

科目名	中国語科教育法 I	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目 (中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	中国語および中国語教育についての基礎知識を身につけ、その概要がわかるようにする。授業の成果を踏まえ、授業案を書く練習、それに基づく模擬授業の練習もおこなう。
到達目標	中国語教育の歴史と現状および中国語教育に必要な中国語の概要(音声・文法・表記上の特徴)が理解できる。
授業方法と留意点	講義形式を主にするが、教材分析などでは学生に発表も課する。
科目学習の効果(資格)	中国語教員免許の必須科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	中国語概論 I	中国語の歴史・性格・構造について考える。	教科書の該当部分を予習しておく
2	中国語概論 II	中国語が使われる範囲や中国語教育の概要について考える。	教科書の該当部分を予習しておく
3	中国語の学習段階と学習目標 I	中国語教育における初級・中級・上級段階とは何かを考える。	教科書の該当部分を予習しておく
4	中国語の学習段階と学習目標 II	引き続き、初級を中心にその内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
5	教授法概論 I	各種の外国語教授法について概説する。	教科書の該当部分を予習しておく
6	教授法概論 II	引き続き中国語の教授法について考えていく。特に学習指導案に重点を置く。	教科書の該当部分を予習しておく
7	初級教材研究 I	初級教材の内容について中国で出版された教科書を使いながら具体的に分析していく。	教科書の該当部分を予習しておく
8	初級教材研究 II	引き続き初級段階の内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
9	初級教材研究 III	引き続き初級段階の内容について考えていく。	教科書の該当部分を予習しておく
10	中級教材研究	中級段階の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
11	上級教材研究	上級段階の内容について引き続き考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
12	高校中国語研究 I	高校中国語教育の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
13	高校中国語研究 II	引き続き高校中国語教育の内容について考えていく	教科書の該当部分を予習しておく
14	高校中国語研究 III	引き続き高校中国語教育の内容について考えていき、学習指導案を実際に書いてみる。	教科書の該当部分を予習しておく
15	まとめ	前回作成した学習指導案に基づき模擬授業を行う。それを通して、日本における中国語教育のまとめをおこなう	教科書の該当部分を予習しておく

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『中国語の教え方・学び方』	興水優	日本大学文理学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業参加とレポート
学生へのメッセージ	授業中は私語を慎み、集中して授業内容の理解に努めて下さい。開講もない科目なので試行錯誤が続くかもしれませんが、いっしょに勉強していきましょう。
担当者の研究室等	7号館3階(瀬戸研究室)
備考	

教職科目

科目名	中国語科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Chinese Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	「中国語科教育法Ⅰ」で学ぶ中国語教育の実状と指導のあり方をふまえて、ここでは授業を「計画」「実践」「反省」という体験を経ることによって、「何を」「どのように」教えるかを理解する。具体的には： 1. 日本語を母語とする中国語学習者にとって何が必要で何が不要でないかを学ぶ。 2. 学習者の状態を常に目と耳を使って観察することを学ぶ。 3. 学習者の状態によっては教える「内容」と「方法」を随時調整せねばならないことを学ぶ。
到達目標	教える能力としては、教育実習の場面で学習歴、クラスサイズ、教材などさまざまな状況に対応しながら学習者の知的好奇心を刺激できるような授業ができることを目標とする。 教科内容については、中国語の文法や語彙を系統的に整理する能力を高めて、学習者の状況に合わせた教材やテストを用意できる能力を身につける。
授業方法と留意点	教育実習時に不可欠な「学習指導案」作成を中心に据えながら、これに実践と自己分析を盛り込む。したがって実習にじゅうぶんな時間を当てる。

科目学習の 効果(資格)	中国語教員免許状 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発音とピンイン指導	中国語の発音やピンインの指導では、日本語の発音やローマ字から逸脱する事項に重点を置き、これを学習者に十分理解させる。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
2	学習指導案作成Ⅰ(発音篇)	入門期の学習者がつまづきやすい二音節語の声調パターンの学習を想定し、音声素材を活用した授業を企画する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
3	発音の指導と評価実習	他の受講生を学習者と見立てながら、前回は作成した指導案に沿って授業を実践する。模範の提示、評価、アドバイスは適切だろうか。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
4	講読・作文の指導	文の意味を理解し、文を自在に生成するために文法を理解させねばならない。日本語などとの比較を通して、効果的に「読み」「書き」を教える。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
5	学習指導案作成Ⅱ(講読・作文篇)	動詞「是」の学習を想定する。英語のbe動詞との比較やパターン練習をうまく構成して一回の授業でこの動詞を理解させる指導案を作ってみる。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
6	講読・作文の指導実習	指導案に沿って授業をしてみる。パターン練習では学習者をうまくオペレートできるだろうか？質問に的確に答えられるだろうか？	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
7	リスニング指導と関連機器	テープ・MD・CD・PC・DVDなどメディアの特性に加えてLLやCALLの概念をよく理解し、これらを授業にうまく利用する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
8	学習指導案作成Ⅲ(リスニング篇)	ディクテーションやサイトトランスレーション・シャドウイングなど「リスニング」に関わる訓練法を取り入れた指導案を作成する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
9	ディクテーションとシャドウイング	LL教室を使用する。すでに作成してある指導案に沿いながら、音声や映像メディアの送出や学習者のモニタリングを実習する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
10	テストの目的とその方法	テストとは既習事項の達成度を測り、その結果を学習者と教師双方の指針とするものである。テスト問題作成の方法とその結果の扱いを学ぶ。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
11	テストを作ってみる	授業2～3回分の既習事項を確認するためのショートテストをWordで作ってみる。レイアウトにも気を配りながら過不足なく適切な問題を作る。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
12	学習者へのフィードバックと成績管理	(1) 服務の宣誓 (2) 信用失墜行為の禁止 (3) 兼職の禁止 等について	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
13	マルチメディアを利用する(1)	CDやDVDあるいはWebで入手可能な音声・映像素材を教材用に編集する技術を学ぶとともに著作権の概念を理解する。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
14	マルチメディアを利用する(2)	eラーニング及びさまざまなWebサービスを利用した授業を考える。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。
15	マルチメディアを利用する(3)	CALL教室で模擬授業をする。	次週に模擬授業を担当する場合は、予めリハーサルしておく。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント配布</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント配布			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	プリント配布																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント配布</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント配布			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	プリント配布																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	提出課題と授業参加状況。																
学生への メッセージ	「教えられる者」の視点に立つ、つまり生徒を観察する余裕が持てること。大切なことなのですがこれがなかなか難しいのです。この問題を授業の中で皆さんといっしょに考えて生きたいと思います。																
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)																
備考																	

科目名	中国語科教育法Ⅲ	科目名(英文)	Chinese Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	中国語教科教育法Ⅰ、Ⅱで学んだことを基礎に、中国語教科教育法に関する中国語の論文を読みます。中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上を同時に目指します。
到達目標	中国での中国語教育の現状と理論の概要が理解できます。
授業方法と留意点	毎回、中国語の論文を訳読します。高度な内容の論文を読むので必ず予習が必要です。また授業の最後には、授業の成果を踏まえて教案を書き、更にそれに基づく模擬授業もしてもらいます。
科目学習の効果(資格)	中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法近況	教科書の該当部分を予習しておく
	2	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法近況	教科書の該当部分を予習しておく
	3	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法近況	教科書の該当部分を予習しておく
	4	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
	5	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
	6	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
	7	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	分階段教学法与外語教学理論	教科書の該当部分を予習しておく
	8	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法の心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
	9	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法の心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
	10	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法の心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
	11	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法の心理学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
	12	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法の語言学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
	13	黎天睦『現代外語教学法 理論与实践』(北京語言学院出版社)	現代外語教学法の語言学基礎	教科書の該当部分を予習しておく
	14	まとめ1	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教科書の該当部分を予習しておく
	15	まとめ2	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめをおこなう。	教科書の該当部分を予習しておく

関連科目	中国語教科教育法Ⅳ.
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業参加およびレポート
学生への	しっかり勉強すれば必ず力がつきます。

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館3階(瀬戸研究室)
備考	

科目名	中国語科教育法Ⅳ	科目名(英文)	Chinese Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】各教科の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】選択必修	

授業概要・目的	「教材とテストの作成」を主要なテーマとする。PCを使って実際にこれらを作成しながら、技術面を習得するとともに、なになが「よい教材(またはテスト)でなになが悪い教材(またはテスト)かを考えてみたい。また、LL や CALL などにおいてマルチメディアを授業の素材として利用する方法についても実習する。「著作権」についても理解を深める。
到達目標	学習者の到達度や関心を的確に把握し、それに応じた教材を作成できるレベルを目標にする。またそのために必要な情報や素材を集める能力を身に付ける。
授業方法と留意点	CALL 教室でオフィスソフトを中心に使いながら、教材の構成やレイアウトおよび音声や動画の利用方法を実習する。
科目学習の効果(資格)	教員免許状(中国語) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	よい教材わるい教材(1)	教材文や注釈および発音表記について望ましい構成やレイアウトについて考えながらワープロソフトで教材を作成する。	授業時間内にできなかったことがあれば自宅で完成させ次週に提出。
2	よい教材わるい教材(2)	教材文や注釈および発音表記について望ましい構成やレイアウトについて考えながらワープロソフトで教材を作成する。	授業時間内にできなかったことがあれば自宅で完成させ次週に提出。
3	よいテストわるいテスト(1)	第1回と第2回で作成した教材に対して、その習得度を的確に計り、同時に学生の動機付けを高めるテストを作成する。	次回に行う模擬授業のための指導案を作成する。
4	よいテストわるいテスト(2)	第1回と第2回で作成した教材に対して、その習得度を的確に計り、同時に学生の動機付けを高めるテストを作成する。前回に作成した指導案に基づいて模擬授業を行う。	授業時間内にできなかったことがあれば自宅で完成させ次週に提出。
5	音声素材を教材として(1)	マイクやカセットテープなど外部入力音声や CD や Web、合成音声などデジタル素材などの音声を PC で編集し、教材として利用する。	授業時間内にできなかったことがあれば自宅で完成させ次週に提出。
6	音声素材を教材として(2)	マイクやカセットテープなど外部入力音声や CD や Web、合成音声などデジタル素材などの音声を PC で編集し、教材として利用する。	次回に行う模擬授業のための指導案を作成する。
7	音声素材を教材として(3)	マイクやカセットテープなど外部入力音声や CD や Web、合成音声などデジタル素材などの音声を PC で編集し、教材として利用する。前回に作成した指導案に基づいて模擬授業を行う。	授業時間内にできなかったことがあれば自宅で完成させ次週に提出。
8	映像素材を教材として(1)	静止画または動画の編集から、それをどのように教材に取り入れ、授業に活用するまでを学ぶ。	次回に行う模擬授業のための指導案を作成する。
9	映像素材を教材として(2)	静止画または動画の編集から、それをどのように教材に取り入れ、授業に活用するまでを学ぶ。前回に作成した指導案に基づいて模擬授業を行う。	次回に行う模擬授業のための指導案を作成する。
10	CALL の概要とその運用(1)	音声や映像の入力と出力の制御、成績の集計と管理、Web ベース教材の作成と運用など CALL の主要な機能を実習を通して学ぶ。	授業時間内にできなかったことがあれば自宅で完成させ次週に提出。
11	CALL の概要とその運用(2)	音声や映像の入力と出力の制御、成績の集計と管理、Web ベース教材の作成と運用など CALL の主要な機能を実習を通して学ぶ。	授業時間内にできなかったことがあれば自宅で完成させ次週に提出。
12	CALL の概要とその運用(3)	音声や映像の入力と出力の制御、成績の集計と管理、Web ベース教材の作成と運用など CALL の主要な機能を実習を通して学ぶ。	次回に行う模擬授業のための指導案を作成する。
13	CALL の概要とその運用(4)	音声や映像の入力と出力の制御、成績の集計と管理、Web ベース教材の作成と運用など CALL の主要な機能を実習を通して学ぶ。前回に作成した指導案に基づいて模擬授業を行う。	授業時間内にできなかったことがあれば自宅で完成させ次週に提出。
14	出席及び成績の管理	出席状況やテストの成績をもとに学期末の成績評価を行う。あわせて、偏差値の概念とその算出についても実習する。	次回に行う模擬授業のための指導案を作成する。
15	復習	前回に作成した指導案に基づいて模擬授業を行う。そのあと、これまでの講義内容の中で、特に重要と思われる事項に	授業時間内にできなかったことがあれば自宅で完成させ次週に提出。

			ついて振り返る。	
関連科目	「中国語科教育法Ⅰ」「中国語科教育法Ⅱ」「中国語科教育法Ⅲ」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業にて課題の提出を求め、これをもとに成績を評価する。			
学生への メッセージ	教材には内容の「わかりやすさ」とともに、レイアウトの「わかりやすさ」も求められます。試行錯誤しながら、よい教材を作る技術を身につけてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)			
備考				

科目名	道德教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・道德の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】必修 【科目】教科又は教職に関する科目(高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教科又は教職に関する科目 【教員免許状取得のための履修区分】選択	

授業概要・目的	この授業では、日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方(日本の道德教育の歴史、道德教育の内容を構成する諸概念、道德性の発達理論、等)について解説を加え、実際に学校でどのように道德教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付けながら、道德教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。なお、授業では、折に触れて受講者にコメントペーパーを書いてもらって皆で関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して多角的な視点から検討し合えるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項:道德の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:道德教育をどのように考えるか	①現在、道德教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②読み物教材の分析を通して、道德教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道德教育がどのようなものだったか思い出しておく。
2	日本の道德教育の歴史①:戦前の道德教育	①明治から昭和初期にかけての道德教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道德教育の歴史②:戦後の道德教育	道德教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道德教育の歴史の変遷を整理する。
4	日本の道德教育の歴史③:現代の道德教育	①近年の道德教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道德教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道德教育	①諸外国の道德教育の状況について概観する。 ②諸外国の道德教育を事例として、道德教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道德教育と自分の受けてきた道德教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。
6	道德教育の内容①:自我	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐる、「自我」(＝「私」)について道德教育の視点から考える。	普段の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道德教育の内容②:他者	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として他の人とのかわりに関すること」をめぐる、道德教育の視点から「他者」との関わりの中で「私」を捉え直す。	普段の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道德教育の内容③:自然	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として自然や崇高なものとのかわりに関すること」をめぐる、道德教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践例について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道德教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として自然や崇高なものとのかわりに関すること」をめぐる、道德教育をいわゆる「情操教育」との関わりの中で考える。	自分が受けてきた「情操教育」について思い出しておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」の可能性について再考する。
10	道德教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会とのかわりに関すること」をめぐる、道德教育の視点から「社会」との関わりの中で「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲に生じた「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道德性の発達	①コールバーグおよびギリガンによる道德性の発達理論を検討する。 ②道德性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道德の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道德教育の位置づけを確認する。 ②教科教育のなかで行われた道德教育の実践例をもとに、道德教育の幅広い可能性について考える。	各教科教育と道德教育との関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道德教育の「要」とされている「道德の時間」の位置づけについて	授業時に指示する。

			て考える。 ②「道徳の時間」を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。	
	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳の時間」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書は特に指定せず、授業中にレジュメと資料を配布します。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説：道徳編	文部科学省	日本文教出版
	2	その他の参考書に関しては、授業中に適宜紹介します。		
	3			
評価方法 (基準)	授業中に折に触れて書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館3階(小山研究室)			
備考				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名(英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		【科目】教職に関する科目(中学校・高等学校) 【施行規則に定める科目区分】教育課程及び指導法に関する科目 【各科目に含めることが必要な事項】・特別活動の指導法 【教員免許状取得のための履修区分】必修	

授業概要・目的	(1)学級活動(ホームルーム活動)、生徒会活動、学校行事についての指導目標や内容に関する基礎的・基本的な知識を整理する。(2)学校現場では、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割をも果たしていることについて理解を深める。(3)「学級づくり」に焦点をあてて、教師と生徒の関係づくり、生徒どうしとの関係づくりが課題の解決にどのように作用しているかについて、事例をもとに考察する。
到達目標	学級担任として、集団活動を育て、教育諸課題に対応するとともに、安心して学校生活を送ることができる学級をつくる実践的な方法を身に付ける。
授業方法と留意点	テキストやプリント教材、視聴覚教材をもとに講義をすすめる予定である。特別活動は「自主的実践的な態度を育む場づくり」を目標とし、「為すことによって学ぶ」スタイルが求められている。そのことを踏まえ、集団をファンリテートすることができるよう、自身の「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」の充実を図るために、グループワークやグループ討議への積極的な参加を求める。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	特別活動と学級づくり	学級づくりとは何か、なぜ学級づくりなのか、「いじめ」「子どもの荒れ」「学級崩壊」「進路の壁」について	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	特別活動の歴史、領域、方法	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがいがい	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
4	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
5	学級活動	学級活動の目標・内容、年間計画、課題、実践的手法	教科書第4章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	生徒会・学校行事	生徒会活動の歴史・目標・内容、学校行事の歴史・種類・内容・視点	教科書第5・6章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
7	学習指導要領における位置づけと改定の要点	教育課程における位置づけ、現行学習指導要領における課題、改定の要点、言語能力の重視について	教科書資料編をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
8	特別活動の評価	評価の対象、機能、方法、評価結果の活用	配布プリントをよく読んでおく。
9	特別活動と総合的な学習の時間・道徳教育	総合的な学習の時間・道徳教育との関連とそれぞれの教育的意義	教科書第7・8章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
10	特別活動と教育課題①いじめ・不登校	事例をもとにグループワーク、グループ討議を行う。	当該教育課題に関する報道内容等をチェックしておく。ミニレポートを作成し提出する。
11	特別活動と教育課題②体罰・非行	同上	同上
12	特別活動と教育課題③ジェンダー・マイノリティ	同上	同上
13	特別活動と教育課題④キャリア教育・進路選択支援	同上	同上
14	指導計画・指導案の作成	全体計画・年間指導計画の作成と内容の取り扱い、配慮事項等、指導案の作成	配布プリントをよく読んでおく
15	まとめ〜子どもの自尊感情を高めるということ	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目 すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」「生徒指導論」「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
			1
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験(50%)、レポート(30%)、コメントペーパー及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。

学生へのメッセージ 学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するというところに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。

担当者の研究室等 7号館3階(林研究室)